中日会報

公益社団法人中部日本書道会
編　集　事務局編集部
〒450-0002　名古屋市中村区名駅二丁目45-19
桑山ビル８階Ｃ号室
電　話(583)１９００番
ＦＡＸ(583)１９１０番
http://www.cn-sho.or.jp
info@cn-sho.or.jp
印　刷　株式会社 荒川印刷

名誉会長あいさつ
―祝賀懇談会あいさつより―

名誉会長
海部俊樹

平成二十七年度総会開催おめでとうございます。

早いもので本会が公益社団法人の認定を受けて、今回が四回目の総会になります。毎年のことですが、この総会は功労者表彰や、本会のメインイベント、中日書道展の入賞・入選者の祝賀も重ね、併せて、名誉ある賞を受けられた方を紹介。祝賀もしようという目出たさてんこ盛りの盛大な会であります。中部日本書道会の歴史と力量、充実を眼の当たりにする得難い機会でもあります。

ところで、さて、外部の世界に眼を向けますと、内外ともに自然災害や事故、事件も多発しております。いまだ砲弾飛び交う地域もあれば、衣食住に事欠く人々もいます。

ここで政治向きの話をするつもりはありませんが、人が生きる条件と内容にはどれほどの幅があるか、時に考えて頂きたいと思います。

皆さんは書にたずさわる時間を人生の重要な部分、あるいは軸として生きておられるはずですが、それができることがどんなに幸せなことかを思って頂きたいのです。そしてその自覚と認識の上に立って、書に精進することが、歴史的にも空間的にも視野を拡げ、精神を豊かにし高めることに結びつく書人であって頂きたいと願うのです。

自由主義を旨とする社会は、あらゆる領域で熾烈な競争を強いられる一面を持ちます。しかしそこで勝ち抜くことだけが意味あることではないでしょう。

かつてイチロー選手のこんな談話にふれたことがあります。結果とプロセスの関係を問われた彼はこう答えました。「両方とも大事です。結果を出さなければこの世界で生きていけない。プロセスは人間を作るためには必要です。」

さすがイチロー、と私は感心しました。

書の世界では結果についてイチローの世界ほどの苛烈さはないでしょう。だからこそ注意が必要です。ひとまずの成功が人を天狗にし、人間を損ねる危機があります。

技術を高める過程が、情操を育み、知力をも鍛える、そういう形で書の道に励んで頂きたいと思います。

いささかの固い話になりましたが、私は中部日本書道会の充実・発展と、皆様方のご健勝、ご多幸を祈るのみであります。

新理事長に就任して

新理事長　伊藤昌石

この度、伝統と歴史ある公益社団法人中部日本書道会の理事長という大役を仰せつかりました。

就任にあたり、昨年発刊されました、「中部日本書道会八十年の歩み」を改めて繙いて、先人の偉大な功績に増々身の引き締まる思いです。

昨年は本会創立八十周年、今年は第六十五回記念中日書道展と、前理事長鬼頭翔雲先生の下、事務局長として陰ながら勉強させていただき、理事長という立場の大きな目線での采配には感服致しておりました。この経験を活かし自分なりに責務に当たろうと考えております。

今年は終戦七十年の節目の年、本会の理事長、副理事長は団塊の世代、数年後に役員は十年も若返り現象が生じ、若い理事長、副理事長による新鮮な組織になることが考えられます。

理事の先生方には、数年後の展望を見つめながら、又、企画委員の先生方には主任、委員の先生と協力しあって、自分の職務に励んでいただくのはもちろんですが、次世代の育成に努めていただきたいと願っております。

会員の皆様にも本会の事業に積極的に参加していただき、又、県民、市民の方々にも啓蒙して、公益社団法人の名にふさわしい中部日本書道会へと邁進してまいりたいと考えています。

歴代の理事長が提唱されております「和の精神」と「皆のためになるかどうか」を指針として、努力してまいります。

会員の皆様のご協力、ご助力をいただくことをお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

祝賀懇談会で挨拶される伊藤理事長と
松永副理事長、関根副理事長兼事務局長

目次

1 名誉会長あいさつ
2 新理事長に就任して　伊藤昌石理事長
3 鬼頭翔雲前理事長　―退任のご挨拶にかえて―
4 第二回理事会・第三回理事会・総会
5 祝賀懇談会を開催して
6 加藤子華氏三重県文化大賞ご受賞
7 平成二十七年度功労者・感謝状表彰
9 平成二十七年度新役員紹介
10 平成二十七年度新企画委員紹介
11 第六十五回記念中日書道展　審査総評
12 第六十五回記念中日書道展を観て　名誉顧問　西嶋慎一氏
14 第六十五回記念「中日書道展」への期待　名誉顧問　田宮文平氏
62 第六十五回記念特別展観及び記念事業
65 受賞者紹介　作品・作品寸評
72 記念賞・海部俊樹賞・大賞・準大賞
74 中日賞・桜花賞作品評
75 その他の入賞者
86 第六十五回記念展当番審査員
87 中日書道展を終えて
第六十五回記念展出品数一覧表
平成二十七年度総会議案書
備品貸出規則
第二十七回書道教育研修会のご案内
平成二十七年度(第十九回)公開講座のご案内

感謝 ――退任のご挨拶にかえて――

前理事長　鬼頭翔雲

今年は例年になく梅雨らしい季節を迎えました。天候不順な折、お身体御自愛くださいますようお願いいたします。

さて、二十三年から二十七年まで二期、四年間理事長を務めさせて頂きました。この度の役員改選に伴い理事職も併せて退任させて頂くことになりました。在任中は理事、役員諸先生はじめ会員の皆様には格別なご理解とご支援、ご協力を賜ることが出来ました。衷心より深く感謝申し上げます。

着任早々、事務所移転に始まり、公益社団法人への移行、更には本会創立八十周年記念事業等々多くの懸案の事業がありましたが、今振り返りますと、あっという間の四年間でありました。

伊藤昌石事務局長を軸として事務局部長、担当者……。本当によく活躍して頂けました。「一致結束、前向き！　全力！」が常に私の口ぐせであったように思います。各事業の改善にも担当部長が積極的に取り組んで頂けました。感謝、感謝の想いでございます。

今後は新たに伊藤昌石理事長の中日書道会がスタート致しました。私も微力ではございますが今迄同様前向き、全力で応援、協力をさせて頂きます。

本会には優秀な方々が多くいらっしゃいます。新しいリーダーの下、新しい中日書道会を目指して頂きたいと思います。

何とぞ中日書道会、伊藤昌石新体制に変わりませぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

（H27・6・21）

伊藤昌石新理事長から鬼頭翔雲前理事長へ花束が贈呈されました

庶務部長　天野白雲

第二回　理事会開催

日時　平成二十七年五月十七日(日)
場所　本部

本年度第二回理事会が去る五月十七日に開催されました。理事全員の出席のもと、鬼頭理事長の挨拶に始まり、以下に示しました議案について終始熱心にかつ慎重に審議されすべて承認されました。

当日の議案は以下の通りです。

第一号議案　平成二十七年度総会提出議案について
(1)　平成二十六年度事業報告に関する件
(2)　平成二十六年度収支報告に関する件
(3)　財産目録の承認に関する件
第二号議案　諸規定に関する件
第三号議案　理事・監事の選任に関する件
第四号議案　平成二十七年度総会の日時及び場所並びに目的である事項の承認に関する件

第２回理事会　本部にて

第三回　理事会開催

日時　平成二十七年六月二十一日(日)
場所　ウエスティンナゴヤキャッスル

内容　新理事長・副理事長の選出

平成二十七年度　総会開催

日時　平成二十七年六月二十一日(日)
場所　ウエスティンナゴヤキャッスル

平成二十七年度公益社団法人中部日本書道会総会は、ウエスティンナゴヤキャッスルを会場として六八八名（委任状提出者二、四〇二名）の出席をいただき、開催されました。

鬼頭翔雲理事長の力強い挨拶により始まり、以下の議案について慎重かつ熱心に審議が行われ、承認されました。そして、報告事項として過日の理事会にて承認された資産運用規定及備品貸出規定について内容が報告されました。また、総会終了後第三回理事会が開催され、新理事長に伊藤昌石先生を、副理事長に松永清石先生・関根玉振先生を選出いたしました。

なお、総会の議案は以下の通りです。

第一号議案　平成二十六年度事業報告書の承認に関する件
第二号議案　平成二十六年度収支決算書の承認に関する件
第三号議案　財産目録の承認に関する件（監査報告）
第四号議案　理事・監事の選任に関する件

祝賀懇談会を開催して

厚生部長　小　島　瑞　柳

雨の降りしきる平成二十七年六月二十一日(日)、ウェスティンナゴヤキャッスル天守の間に於いて、平成二十七年度総会、第六十五回記念中日書道展祝賀懇談会が開催されました。

ヴァイオリン、フルート、ピアノのトリオ演奏の美しい調べの中、松永清石副理事長の開会の言葉で盛大な宴が始まりました。

まず最初に、ご都合で欠席されました海部俊樹名誉会長よりのお祝いのメッセージを、安藤滴水名誉副会長が代読され「イチロー選手の過酷な野球人生に例え、書の世界はそれ程でもないが、技術を高める過程が人間性を育くみ、思力を鍛える、これからも頑張って下さい。」との温かいお言葉を賜わりました。

次に来賓の皆様を代表して、中日新聞社常任顧問の小山勇様より「若い人が書道に興味が持てるように頑張って行かなければ、書道文化は衰退してしまう、中日新聞社も全力の応援を誓います。」と力強いお言葉を頂きました。

次に、書道文化研究家の西嶋慎一様より「習い事としての書道を一途に守り、社会性に対して鋭敏であって欲しい、これからも中日書道会の新しい働き方を期待しています。」との熱いお言葉を戴きました。

続いて、来賓のご出席者二十二名のご紹介の後、三重県文化大賞ご受賞の加藤子華氏と、愛知県芸術文化選奨文化新人賞ご受賞の上小倉積山氏に、樽本樹邨名誉副会長から花束と記念品が贈呈されました。

そして、東海テレビ放送事業局専門局長、加藤昭宏様の、「日本の伝統文化、芸術の継承という意味でも書家の皆さんの活躍を期待したい。」とのお言葉を添えて乾杯のご発声がありいよいよ祝宴が始まりました。

和やかな宴会の中、今年出品されました十二名のご長寿お祝い顕彰者が紹介され、樽本樹邨副会長よりお祝いの花とおみやげが贈呈されました。ご健康で益々のご活躍をお祈り致します。

二時間余りの宴も、関根副理事長の閉会の辞により、一、一二四名のご出席を頂きました祝賀懇談会を、盛大なうちに無事終えることが出来ましたこと、皆様に深く感謝申し上げます。

清　興

三重県文化大賞　加藤子華氏

愛知県芸術文化選奨文化新人賞　上小倉積山氏

祝　辞
中日新聞社　小山　勇氏

祝　辞
書道文化研究家　西嶋慎一氏

乾　杯
東海テレビ放送　加藤昭宏氏

顧問 加藤子華氏　三重県文化大賞をご受賞

――書道での大賞受賞は三重県初――

顧問　加藤子華

此度、はからずも第十四回三重県文化賞の大賞を拝受いたし、身に余る光栄に存じております。

お蔭様で、七十年余健康に恵まれ、何ら迷う事なく、書の道一筋に歩んでまいりました事が、県の文化振興と向上に多少なりとも貢献したと評価されたのでしょう。

去る五月三十一日、三重県総合文化センターレセプションルームにて、他部門の十二名の方々と共に賞状を賜りました。

これも偏に、書道部門に初の大賞を、お与え下さった県の文化行政に、厚く御礼申し上げると共に、周囲の皆さんの温かいご支援があったからこそと、深く感謝している次第です。

この受賞を機に、更に気持を新たにして、書の本質を求めて自己研鑽に励み、精進しなければと我が身を叱咤致しております。と同時に、文字の美しさ、文字の生まれ持っている姿を大切にしながら、書写書道教育の充実と、日本の伝統芸術である書に親しむ生活への環境作り等、書の裾野を更に広げる活動を微力ながら、おし進めていかねばと考えております。

今後共、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申しあげます。

「書の裾野広げたい」

県文化大賞 加藤さん表彰

文化大賞を受賞し、代表作一覧を示す加藤子華さん＝津市の県総合文化センターで

県内の文化振興に貢献した個人や団体をたたえる「県文化賞」の表彰式が三十一日、津市の県総合文化センターであった。

県文化賞は、生活文化や美術、文学など各分野で優れた功績を残した個人や団体を表彰する。十四回目の今年は文化大賞と文化功労賞、文化振興賞、文化新人賞の四部門で県内外の十三人が選ばれた。

最高位の文化大賞に輝いた四日市市の書家加藤子華さんには、目録と二度の特選を受賞、主宰する書道団体「墨友会」では三十七回の作品展を開き後進育成にも尽力している。

式典では「家族や周囲の支えに感謝したい。伝統芸能である書の裾野を広げる活動を粘り強めます」と、受賞者を代表して謝辞を述べた。（増内謙）

中日新聞 H27.6.1(月)

祝賀懇談会ご来賓出席者名簿

本会名誉顧問	愛知芸術文化センター総長	神田真秋様
本会名誉顧問	衆議院議員	近藤昭一様
本会名誉顧問	衆議院議員	江崎鐵磨様
	愛知県議会議員	岩村進次様
本会名誉顧問	中日新聞社常任顧問	小山　勇様
本会名誉顧問	中日新聞社代表取締役副会長	大島寅夫様
本会名誉顧問	書道文化研究家	西嶋慎一様
	徳川美術館学芸部長	四辻秀紀様
本会名誉顧問	中部電力株式会社元代表取締役会長	太田宏次様
	中日新聞社取締役広告担当	井戸義郎様
	中日新聞社事務局長	加藤宏幸様
	中日新聞社事業局次長兼文化事業部長	垣尾良平様
	中日新聞社事業局文化事業部次長	久田　到様
	中日新聞社文化芸能局文化センター部長	西原健二様
	中日新聞社文化事業局事業部	杉本研介様
	中日新聞社広告局長	飯田義典様
	中日新聞社広告局広告一部長	須江剛行様
	東海テレビ放送事業局専門局長	加藤昭宏様
	東海テレビ放送事業局次長	杉田　朗様
	東海テレビ放送事業局事業部プロデューサー	坪内正恭様
	司法書士	輿水城治様
	税理士	谷田義弘様

（順不同）

平成27年度　功労者・感謝状表彰

本会に長年に亘りご尽力いただきました功績により、後藤汀鶯常任顧問を功労者として表彰します。又、感謝状が次の五名に贈られました。

副理事長兼事務局長　関　根　玉　振

功労者表彰

常任顧問　後藤　汀鶯　氏

感謝状表彰

顧　問　武山　翠屋　氏
顧　問　津田　秋月　氏
評議員　武山　昂石　氏
評議員　中川　貴舟　氏
評議員　則武　穹　氏

平成27年度　功労者表彰

改組新第二回日展

審査員に本会名誉副会長　樽本樹邨先生ご就任

新名誉顧問

㈱中日新聞社
取締役事業担当
鷲見　卓　氏

愛知芸術文化センター長
樋口　光男　氏

新常任顧問

前理事長　鬼頭　翔雲　氏

新顧問

岡本　苔泉　氏
榊原　晴夫　氏
中村　立強　氏
横山　夕葉　氏

ご長寿お祝い

本年も八十八歳、九十歳、九十五歳以上の方々を総会後の懇談会にご招待致しました。懇談会にご出席の方々は次のとおりです。

顧　問　佐々木　嵓　邦
参　与　亀井　幡川
参　与　久原　佳子
参　与　渡辺　暁鶴
評議員　伊吹　代美
評議員　岩崎　鶴園
評議員　加藤　松香
評議員　柴田　恵水
正会員　中保　大心
正会員　伴　晋水
正会員　細田　爽月
正会員　村瀬　松園

祝賀懇談会へ出席のご長寿の方々

平成二十七・八年度　新役員紹介

名誉副会長
樽本樹邨
安藤滴水

新理事長
伊藤昌石

副理事長
松永清石

新副理事長兼事務局長
関根玉振

理事
青木清濤
天野白雲
伊藤仙游
上田賦草
大池青岑
大島緑水
岡野楠亭
梶山夏舟
加藤矢舟
加藤裕
川﨑尚麗
工藤俊朴
近藤浩乎
佐藤慶雲
武内峰敏
富田栄楽
中野玉英
平松采桂
松下英風
村瀬俊彦
山内江鶴
山際雲峰
（以上再任）

新理事
波切童州
原田凍谷
水谷海越
山本雅月
横井宏軒

監事
伊藤暁嶺
柘英峰
（以上再任）

新監事
古川昇史

〈追申〉
青木清濤理事は平成二十七年七月十七日ご逝去されました
―合掌―

〈新しく役員となられた方々〉

理事長　伊藤　昌石

副理事長兼事務局長　関根　玉振

P1にあいさつ文を掲載しました。

総会にて理事が選任されました

この度の改選にあたり副理事長兼事務局長という命を受け、責任の重大さを益々深く感じております。

伝統ある中部日本書道会も公益社団法人になって、はや五年目を迎え、本会創立八十周年記念、中日書道展六十五回記念という事業も皆様のお蔭をもちまして大成功に終ることが出来ました。これを機に新たな目標に向かって新しく就任されました伊藤昌石理事長を補佐し、松永清石副理事長と共に精一杯任務を遂行して行きたいと思います。以前の事務局長としての経験を生かし、事務局一丸となって会の発展のため「和」と「奉仕」の気持をもって頑張ります。皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

理事　波切　童州

この度は、伝統と歴史ある、公益社団法人中部日本書道会理事にご推挙いただき、身に余る光栄と感謝申し上げると共に、その責任の重さにこころ引き締まる思いを痛感致しております。

先人の築かれた本会を、浅学菲才の小生ではありますが、精一杯務めてまいりますので、諸先輩、諸先生皆様方の温かいご指導、ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

理事　原田　凍谷

突然の理事指名に驚いております。中部日本書道会の歴史と伝統を考えますと重責を担う就任に対し、身の引き締まる思いでございます。本会は近年改革と挑戦の気風を合わせ持つ公益社団法人としての印象が強く、広く会員からの希望を汲み取ることのできる体制を持って歩んでいる会であると思っております。先輩諸先生方の進め方を学ばせていただき、この任を務めて行かなければと考えております。会員の皆様方のご指導ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

理事　水谷　海越

この度は、公益社団法人中部日本書道会の理事にご推挙頂き、不安は拭えませんが、お引き受けする事になりました。

これまで、多くの立派な先生方のお力添えと、献身的なご奉仕により築かれて来た歴史ある書道会での大役、責務を考えますと身の引き締まる思いでございます。

本会には四十年ほどお世話になり、温かく教え育てて頂きました。

非力ではありますが、今後より一層会の発展のお役に立てるよう諸先生方のご指導のもと、精一杯努力いたす所存でございます。また会員の皆様にも、何卒宜しくご支援賜わりますようお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせて頂きます。

理事　山本　雅月

この度、理事にご推挙頂き、身に余る光栄に心より感謝申し上げますと同時にその重責に身の引き締まる思いでございます。

八十一年の輝かしい中部日本書道会の歴史を築きあげられた先人の諸先生方にあらためて敬意を表すとともに伝統ある本会の益々の発展に「和顔愛語」の精神で少しでもお役にたてますよう精一杯努力してまいりたいと思います。

まだまだ浅学菲才の私ではございますが、諸先生方のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

理事　横井　宏軒

このたび、理事に就任いたしました横井でございます。

公益社団法人中部日本書道会は、昭和九年（一九三四）創立以来八十年超にわたる歴史を持ち、書道の総合団体として先人の先生方と現会員の皆様のご努力により発展してきました。その中部日本書道会の理事に選任され、身が引き締まる思いです。

本会は創立八十年を経過し、今後も公益社団法人としての公益性を重視し、一般社会に門戸を開き、光輝ある姿で九十周年・百周年を迎えられるよう、皆様のご支援とご協力のもと、健全かつ持続的な発展の活動の一翼を担うべく、微力を尽くす所存です。皆様方のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

監事　古川　昇史

この度は、公益社団法人中部日本書道会の監事にご推挙いただき、身に余る光栄と感謝申し上げます。

平成十九年度より東三河支部の支部長を務めさせていただいております。それらの経験を活かして微力ではありますが、諸先輩先生方の築かれた伝統と歴史の深い公益社団法人中部日本書道会の名に恥じぬよう、精一杯任務を遂行していきたいと存じます。今後共、諸先生方のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十七・八年度　新企画委員紹介

名誉副会長　樽本　樹邨
安藤　滴水
理事長　伊藤　昌石
副理事長　松永　清石
副理事長兼事務局長　関根　玉振
企画委員長　大池　青岑
総務部長　青木　清濤
庶務部長　天野　白雲
第一企画部長兼IT部長　横井　宏軒
第二企画部長兼IT部長　上小倉　積山
経理部長　川﨑　尚麗
第一会員部長　馬場　紀行
第二会員部長　山田　杏華
第一事業部長　伊藤　仙游
第二事業部長　佐野　翠峰
研究部長　廣澤　凌舟

教育部長　後藤　啓太
褒賞部長　武内　峰敏
渉外宣伝部長　岡野　楠亭
記録統計部長　村瀬　俊彦
編集部長　工藤　俊朴
厚生部長　小島　瑞柳
一宮支部長　岩田　潤流
半田支部長　山内　江鶴
西三河支部長　山口　律舟
東三河支部長　古川　昇史
濃飛支部長　石原　聲風
北勢支部長　井口　方燕
中南勢支部長　髙根　桂祥
岐阜支部長　林　玲玉

総務部長青木清濤氏のご逝去に伴い総務部長は企画委員長の大池青岑氏が兼務致します。

今般の事務局員は前回とほぼ同じメンバーにて運営することとなりましたので、役職名が異動した委員のみ紹介いたします。

企画委員長兼総務部長　大池　青岑

この度、企画委員長という役をいただきました。中日書道会八十年のあゆみをひもときますと、平成七年の安藤秀川先生を最後に空席となっている要職です。

本会の組織には、理事会、評議員会、総会、企画委員会などがあります。その役割は定款や運営規定に定める通りです。企画委員会では、一つ一つの事業について、立案から実行、事後処理まで、詳細にわたり知恵を絞りながら審議しています。年間の事業は一年間休むことなく多岐にわたっております。

平成二十三年十一月一日に公益法人に移行して、五年目の事業年度となります。公共の利益の増進を目的として、会員の皆様方、そして事務局の部長、次長、委員の絶大なるお力添えをいただきながら、微力ながら一歩一歩進めてまいりたいと思います。

第二企画部長兼ＩＴ部長　上小倉積山

この度、第二企画部長兼ＩＴ部長の要職を拝命しました。中日書道会の様々な行事の企画・実行に携わる部署であり、重い責任を感じております。今後は第一企画部長と協力連携し、中日書道会の事業に取り組んでまいりたいと思います。更にＩＴ部を兼務しておりますので、書道展の開催や各種イベントに関して、中日書道会から一般の方々（本会に所属していない方々）へ細やかな情報発信を進めて行きたいと考えております。新体制のもと、企画部として新たな取り組みや改革が出来ればとも思いますので、会員の皆様には色々な面でご協力頂きたく、何卒よろしくお願い致します。

経理部長　川﨑　尚麗

経理部長に就任することとなり、身の引き締まる思いでございます。

前経理部長が築き上げた中部日本書道会の信頼を維持し、不慣れな部分もたくさんありますが、お力添えをいただき、新しい気持ちで全力を尽くす覚悟です。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

西三河支部長　山口　律舟

この度、役員改選により中部日本書道会西三河支部長に任命されました。何分にも浅学菲才な私ですので、過去の支部長の実績ある足跡を振り返ります時、任務の重大さと緊張感で身の引き締まる思いでございます。学生書道展・研修旅行・支部展・支部集会・講演会・交流会・研究会と一年を通じて数多くの行事があります。特に書道文化の向上の一貫であります学生書道展におきましては、一人でも多くの子供さんに参加していただけるよう会員皆様からの働きかけが必要であると考えております。「相互の信頼」「和」を大事に支部発展に微力ではありますが務めさせていただく決意でございます。そして又本部発展に寄与できますよう精一杯努力を重ねていりたいと存じます。ご支援ご協力の程お願い申し上げます。

北勢支部長　井口　方燕

この度、平成二十七年、二十八年度の北勢支部支部長をさせて頂く事になりました。

北勢支部は、地域性でしょうか、ゆったりした感があり、歴代の支部長が「和気あいあい」というムードを大切にして見えた様に思いますので私もそれを受け継ぎ、皆様の協力を得ながら、行事を進めて行きたいと思っております。

今は、一年間で一番の行事の支部展を控え、とても緊張しております。幸いな事に、チームワークが抜群で、もうすでに色々な面で助けられております。皆様のご支援ご鞭撻を何卒よろしくお願い致します。

中南勢支部長　髙根　桂祥

この度、中南勢支部長を拝命致し、役職の重責さに身の引締まる思いで一杯です。これまで中南勢支部を支え、築かれてこられた諸先生方の意志を守り、誠に微力ではございますが、精一杯務めさせて頂きたいと存じます。

三重県中南勢は、比較的穏やかな気候と精神風土の中、書を学ぶ志を持つ会員同志の繋がりも年々深くなっております。支部会員展、研修旅行、講演会、等々の行事の内容を充実したものにするべく、会員同志の信頼を大切にしながら、明るく活動していきたい所存です。本部の先生方には、どうか温かいご指導ご支援を賜りますよう、会員共々、心よりお願い申し上げます。

第六十五回記念 中日書道展

審査総評

審査部長　伊藤昌石

第六十五回記念中日書道展に入賞・入選されました皆様、誠におめでとうございます。第六十五回記念展に審査部長を務めさせていただきました事、光栄に存じます。その責任の重大さに緊張しつつも、無事終了することが出来ました。これも偏に副部長、主任、委員の先生方のご協力の賜と深く感謝申し上げます。

本年度の総出品数は四、四九四点で昨年に比べて二十点の減でした。低迷する経済状況からすれば評価の出来る実績を残すことが出来ました。

これも指導者の先生方と出品者皆様の熱意の賜と感謝申し上げます。

審査は五月九日(土)～十一日(月)の三日間、愛知県産業労働センター（ウインクあいち）にて実施されました。各部とも公明正大に慎重なる選考にあたっていただきました。

今年も昨年の創立八十周年記念展と同様、入賞比率は例年よりやや高く設定し、それに基づき決定させていただきました。特別賞につきましても同様です。

選考委員により慎重な審査で、無鑑査作品の中から中日賞に、各部一点の五点と桜花賞一〇九点を、委嘱作品の中から、海部俊樹賞、大賞一点と準大賞八三点を、また二科審査会員の作品から記念賞六八点を選考しました。

記念賞を受賞された皆さんは来年から一科の審査員に昇格いたします。

作品は第六十五回の記念展ということで古典書法を追及された技術の高い力作、臨書作品、洗練された筆致で意欲的な作品、独創性、個性があふれた作品と、どれも遜色のないものばかりで、甲・乙つけがたく、質的な向上を実感いたしました。

厳しい審査の中を見事に入賞されました皆様、誠におめでとうございます。惜しくもあと一歩で涙を飲んだ方々も、これに怯むことなく今後のご精進を期待致します。

（授賞式審査総評より）

展覧会会場

- **愛知県美術館ギャラリー**
  6月17日(水)～6月21日(日)
- **名古屋市民ギャラリー栄**
  6月9日(火)～6月14日(日)
- **名古屋市博物館**
  6月16日(火)～6月21日(日)
  6月24日(水)～6月28日(日)

愛知県美術館　会場風景

名古屋市博物館　受付

愛知県美術館　受付

第六十五回記念中日書道展を観て

名誉顧問　西嶋慎一

ここでは書道が習いごととして機能しているなと感ずる。中日展をひとわたり参観して毎回感ずることは、書法の技術レベルが高いことである。技術指導がよく行きとどき、筆の運びに無理がない。ひとつの鍛錬主義が機能している。

書における鍛錬主義を批判的に受けとめる言説が、近半世紀間にこの世界では大きな潮流になっていよう。芸術は個性的であるべきであり、また、現代芸術では技法は表現の核ではなく、表現を支える一手段に過ぎない。そこでは技法の鍛錬主義など全く意味を持たない。果してそうといい切れるのであろうか。

伝統書道に立脚する諸派は、おしなべて、技法修得の場での鍛錬が必須の条件である。一定の技法修得の上に、ある表現が可能となる。現代書道を標榜する各派は、前者ほどに技法鍛錬を重視しない。むしろ、古典を学習の対象とせず、古典にもりこまれているイメージに啓発された表現を尊重している。

中日展を見渡し、特に賞の対象となった各作を眺めると、技法の全きさまが眼につく。たとえば現代書道派でも、表現の類型化が激しい。むしろ、特定のパターンによって、その表現の独自性を主張しているかに見える。

ただこの傾向も、習いごとと受けとめれば、ごく自然な制作の方向性であり、各会派の人々も安心して作品を観賞できるのではないか。そこに会派が持つ理念の共有と継承が出て、好ましいひとつの成果の発表となるであろう。書は、かぎりなく習いごとに特化して存在する伝統芸術ではあるまいか。

海部俊樹賞の近藤青洮、大賞の江川翠苑の作は、まさに習いごとの成果であろう。筆の運びに無理がなく、章法がまことに美しい。準大賞の山内山抱、山本光慶、森川松恵、秋松秀玲は技法習得に加え生新の気が好ましい。

記念賞の受賞者はさすがにベテラン揃いで、作品の完成度が高い。梅村彩香、萩原祐子、物部浩子、篆刻の太田朴仙の諸氏が整っていた。

中日賞は、家田翠徑、中島周子、久保伯甫、桜花賞の小野田美晴に将来性を感じた。

六十五回を記念して、各会派を代表する十五家による大作展示があった。四十五歳以上五十五歳以下の、これからの中日展で中核となるべき素材の競演である。ここでは習いごとに留まらず、表現を考えねばならない。

清水春蘭の線の競演、しかも筆を立てた強い筆力は印象的だ。馬場紀行は、大きな筆の運びが作品にスケール感をもたらした。自詠の歌と筆の律動が同調する。後藤啓太は「ダンテの半面像」を二行に分け、筆画の多と少をうまく利用して画面をおさえる。表現は抑制され、可読性も高く、この会派の将来像を示唆する一作だろう。これに比し川合玄鳳は表現過多だ。原田凍谷も構成に落ちつきが無い。鈴木美都子、犬塚玉陽も原田と同断。上小倉積山、豊永御風、野田虹園はもう少し密度が欲しい。外山悠汀はいろいろな技が未消化、小野蹊泉、衣川彰人は、三幅に分けず一画面に挑戦して欲しかった。日比野妃扇の篆刻は秀逸、岩田潤流の黒紙に紅書は意図がわからない。

幹部作品はまことに彩り豊かで、技法、表現ともに熟していて安定感がある。樽本樹邨、鬼頭翔雲、松永清石、上田賦草、梶山夏舟、佐藤慶雲、近藤浩乎、山本雅月諸家の密度濃い作品はさすがである。

黒田玄夏、安藤滴水は、近代詩文書の分野に新しい息吹きを持ちこみたいのであろう。表現をおさえ気味に、可読性を重んじ、しかも充実した紙面作りに成功していた。

平松紫雲の漢字かな混り文は、まことに屈託がない。ごく自然に文字を紡ぎ出し、作品となる。大手腕と評すべきだ。篆刻の岡野楠亭は相変わらず才気あふれている。加藤裕は、ある感覚の発露、どこで完成を見るのか。

篆刻ケースを覗き込む西嶋慎一先生

第六十五回記念「中日書道展」への期待

名誉顧問　田　宮　文　平

公益社団法人中部日本書道会（理事長鬼頭翔雲）主催の「中日書道展」が、第六十五回記念展を迎え、大いに盛りあがりをみせている。戦前からの長い歴史を有する書道団体で、首都圏、関西圏と共に、わが国の書（壇）に枢要の位置を占めている。特に他の地域がバラバラなのに対し、中部日本書道会は伝統系、現代系の会派を越えて統合的に運営されているのが一大特色である。これには共同主催に中日新聞社が加わっているのが大きいのかもしれない。

第六十五回記念展では、四十五歳から五十五歳までの新世代十五名を選び、「時代を拓く大作書展」として八尺×六尺大の超大作を特集したことが印象深い。世に二〇二五年問題が喧伝されているが、今から十年後には、いわゆる団塊の世代が七十五歳以上の後期高齢者になるのである。中日展としても、それへの備えが自覚されているのであろう。それで今回は大作展を主体に拝見することにしたい。

十五名は漢字、かな、少字数（大字）、近代詩文（調和体）、篆刻の各部門から選ばれていて、現代の書の若い息吹が感じられた。

伝統系の漢字（多字数）では、小野蹊泉『査慎行詩』外山悠汀『杜甫詩四首』、豊永御風『漢王離宮七絶』、野田虹園『憐穐秋復好』の行草体が、それぞれ独自性をもちながら、よく書き込んでの成果があがっている。一方、北魏風の上小倉積山『蘇軾詩』と、黒地に朱墨の岩田潤流『雁塔聖教序』の楷書体、豪放と典雅の点で対照的であった。

かなは三点。清水春蘭『をる人も』は、ピンクの料紙に遊絲連綿、衣川彰人『袖ひぢて』は、三幅に連綿と散布、馬場紀行『墨磨るや』は、自詠の歌を現代感覚の大字に展開して三者三様であった。

近代詩文（調和体）は三点。川合玄鳳『長谷川櫂の句』はモダンの中に書法の正統性、後藤啓太『ダンテの半面像』は豪気の迫力、原田凍谷『海を抜け』は、墨彩の抒情を生かして、それぞれの特色を発揮した。

少字数（大字）は二点。犬塚玉陽『瞬』は、一文字を豪快に、鈴木美都子『人中之龍』は、躍動的に造形した。

篆刻は、日比野妃扇『響扇齋印痕十五顆』の一点で、大作をどう演出するかとおもったら、唐大智禪師碑拓併画の拓本を貼りこんで、その間に朱白十五顆を巧みに配した。

さて、第一室には例年通りに、この会の主力作が半折大で揃っている。

名誉副会長の樽本樹邨『寂慮延清風』は、屈強の中にもおのずと情趣を宿している。同じく安藤滴水『宮澤賢治の詩』は、「詞は詩であり、動作は舞踊」の詩句のイメージの通りに縦二行の漢字かな交じりを巧みに熟す。

理事長の鬼頭翔雲『秦嘉「贈婦詩」』は、隷書二行をまことに清韻に展開する。

副理事長の伊藤昌石『涼山日暮鐘』の五字句は、濃墨の草書に新境地をみる。同じく関根玉振『凱風寒泉之思』は、骨法強固の中にも爽やかさがある。松永清石『唐詩』は、肌色の用紙に縦三行の行草体を品格高く展開する。

常任顧問には、ビッグネームがズラリ。漢字の土屋陽山『杜浦詩』、中林蕗風『百花（唐詩）』はキャリアを感じさせる。かなは、座馬井邨『朝おきて（自詠）』の百寿作をはじめ、黒野清宇『凹み道』、後藤秀園『涼しさを』が独自の世界を展開。近代詩文の黒田玄夏『照葉狂言』はモダン、さらに後藤汀鶯『良寛歌』、平松紫雲『良寛詩』は漢字とかなの絶妙の世界が見ものだ。

理事・監事クラスには新世代も目立ち、樽本理事長の改革以来の将来展望が生きる。

紙幅の関係で特に印象にのこったものを記すと、漢字では伊藤仙游『高青邱詩』、上田賦草『松陵道中』、梶山夏舟『藍仁詩』、加藤矢舟『万葉歌』、工藤俊朴『王筠詩』、松下英風『春風（七言二句）』、山内江鶴『元政詩』、伊藤暁嶺『蘭亭曲水宴』、かなで近藤浩乎『いろもかも』、山本雅月『梅の花』。近代詩文（調和体）で岡本苔石『宮柊二のうた』、加藤裕『夏の月』、篆刻で岡野楠亭『存古賢精神（詩経）』など、今展の収穫であろう。

会場で熱心にメモをとられる田宮文平先生

第65回記念 特別展観及び記念事業

記念事業を終えて

記念事業担当部長　上小倉　積山

本年度、第六十五回記念展となった中日書道展において様々な特別展観やイベントが行なわれました。特別展観となった「時代を拓く大作書展二〇一五」では、中日書道会一部～五部の各部門代表の中堅作家十五名による大作書が展示されました。二四〇cm×一八〇cmのパネルに表現された作品は、通常の展覧会作品と比較してもかなり大きなものであり、来場者の注目を集めました。また、中日書道展同様に第六十五回の記念展となった中日書きぞめ展の優秀作品八十五点も会場の一角に展示され、小学生から高校生までの堂々たる作品にも多くの人々が目を留めていました。さらに会期中には書きぞめ展の上位入賞者十名と中日書道会各部門代表の先生方による席上揮毫会も愛知県美術館ロビーにて開催されました。書きぞめ展上位入賞者の見事な筆さばきには受賞者としての自信を感じる事が出来ました。昨年、創立八十周年の記念イベントのひとつとして開催され、大変に好評を博した中日書道会の代表作家による席上揮毫にも多くの方々が集まり、日頃見ることの出来ない諸先生方の筆法や墨量を目の当たりに出来たことに感動するとともに、今後の自らの作風のためにも得がたい体験となった席上揮毫会でした。

以上のような特別展観や席上揮毫会が無事に終了することができましたのも、会員の皆様のご協力のお陰と感謝いたしております。有難うございました。

特別展観「時代を拓く大作書展二〇一五」

迫力に圧倒される鑑賞者

出品メンバー

犬塚　玉陽	少字数
岩田　澗流	漢字
小野　蹊泉	漢字
上小倉積山	漢字
川合　玄鳳	近代詩文
衣川　彰人	かな
後藤　啓太	近代詩文
清水　春蘭	かな
鈴木美都子	少字数
外山　悠汀	漢字
豊永　御風	漢字
野田　虹園	漢字
馬場　紀行	かな
原田　凍谷	近代詩文
日比野妃扇	篆刻

第六十五回記念 中日書きぞめ展 優秀作品の展示

愛知県美術館Ｈ・Ｉ室の通路に展示されました

席上揮毫

本会役員六名による席上揮毫

加藤裕先生

平田蘭石先生

水谷海越先生

渡邉笙鶴先生

工藤俊朴先生

加藤矢舟先生

中日書きぞめ展上位入賞者による席上揮毫

紹介を受ける第65回記念中日書きぞめ展
上位入賞の子供達

２階より撮影

ロビーにおける 中日書道会八十年の歴史 ＤＶＤ放映

ロビーにおいて本会八十年の歴史のＤＶＤが放映されました。この企画は昨年度より実施されています。

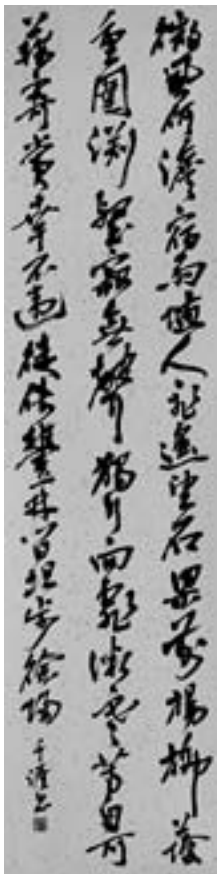
記念賞・海部俊樹賞 大賞・準大賞 受賞者紹介

〈作品評〉伊藤　昌石（一部記念賞）・松永　清石（海部俊樹賞・大賞・準大賞）・渡邉　笙鶴（二部記念賞・準大賞）
黒田　玄夏（三部記念賞・準大賞）・横山　夕葉（四部記念賞・準大賞）・平田　蘭石（五部記念賞・準大賞）

記念賞（1部）受賞者

記念賞
第一部　相川千涯

この度は、栄えある記念賞を賜り、身に余る光栄と感激で胸が一杯です。心よりお礼申し上げます。これも偏に、師匠をはじめ諸先生方のご指導の賜と深く感謝申し上げます。

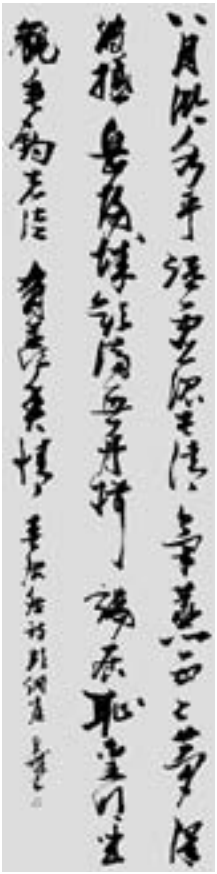


長年、呉昌碩の強靱な筆力を学んでまいりましたが、近年、王鐸の縦横無尽な躍動感に魅せられ、取り組み始めた所ですが、まだ日も浅く力量不足で反省しております。今後も作品の礎である古典を、日々精進して参りたいと思いますので、変わらぬご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
結体よく、筆力も感じられ、表現力豊かな作品です。

記念賞
第一部　阿部卓城

今回の作品は、孟浩然詩、律詩を瑞図風にまとめてみました。行間の余白、字間の響き合、墨の潤渇等、試行錯誤しながら枚数を重ねるばかりでした。締切り近くになり、もうこれ迄と肩の力を抜いた一枚でした。瑞図の作品に魅せられ、独特な書風が大好きで臨書する時には、どんな筆だろうか、短鋒だろうか、長鋒だろうか、其の時の気分はどんなであっただろうか、と勝手に思いを馳せながら、楽しく先の長い道程を、一本の墨線に一筋の光を求めて進んで行きたいと思って居ります。



〈評〉
一字一字が、紙によくくい込んだ筆致で、気脈の貫通した作品である。

記念賞
第一部　荒木泉蓉

飄々と軽く舞いあがって、揚子江の風が立つ……君を懐かしく思うけれども、会うことができぬ……友人との別れを愁う李白の詩です。

ここ数年二×八の横作品を制作している中、小字作品に取り組みました。余白の美に神経を注ぎながらも、淡々と一文字、一文字を大切に書いてみた、もう少し時間が欲しかったが締め切りとなった。

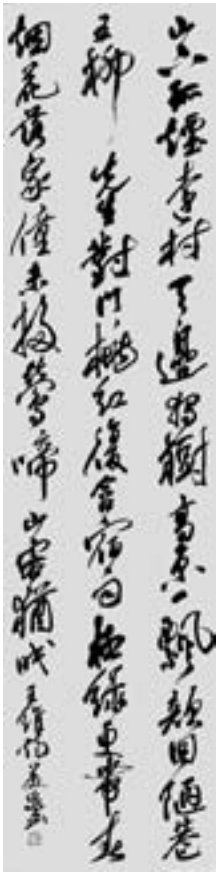
今年のはじめから取り組んだこの作品は、生涯忘れられない作品となり、この時にこの賞に出会えた事に感謝申し上げます。誠に有難うございました。

〈評〉
流麗な筆致で一貫し、ゆったりとした温かみのある上品な出来栄えです。

記念賞
第一部　安藤美泉

第六十五回記念中日展にて、記念賞を受賞することができ大変嬉しく又責任の重さを痛感しております。これも偏に故倉橋一水先生を始め諸先生方の暖かいご指導の賜と心より深く感謝申し上げます。

作品は、墨量の流れの中で亡き師の柔らかい線質と動きの美しさを表現したいと作品に取り組みましたが、まだまだ未熟さに押し潰されております。これからは古典を学び書の奥深い豊かさと美しさの中に楽しさを求め精進したいと思います。今後ともかわらぬご指導の程よろしくお願い申し上げます。



〈評〉
楽々と書き流し、雅趣豊かな表現力あふれる作品。

記念賞
第一部　伊藤美扇

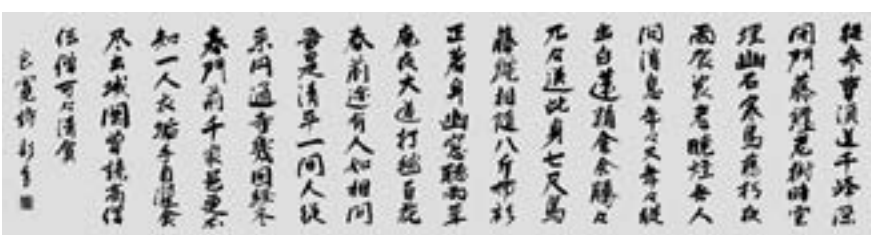
新しく勉強をさせて頂けるだけでこの上ない喜びでしたのに、この様な賞を戴けるとは夢を見ているのではないかと思いました。心から感謝の一言です。クラシック音楽の流れる稽古場で指導を受ける事で気持が落着き、今迄にない雰囲気の中でのお稽古は緊張もあるが実に楽しく過させて頂いております。作品とはリズムを必要としたり、筆をじっくりとためる事など、又半紙一枚の中での作品作り等々、気持の変化が線・形にこれ程影響するとは。子供達と向い合う時非常に責任を感じますので今後は体に気を付けながら時を過そうと思います。

〈評〉
始筆、終筆とも細部にわたり落ちつきがあり、確かな線質でまとまった作。

記念賞
第一部　梅村彩香

この度は思いがけなく立派な賞を頂き、大変な驚きと、身に余る光栄で胸が一杯でございます。これも偏に、熱心にご指導をして下さった恩師と中日書道会の諸先生方のお蔭と、心より御礼申し上げます。今回は少し体調が悪く、大変弱気になっておりましたが、先生の温かい励ましのお言葉を度々頂き、何とか頑張ることが出来ました。本当に有難うございました。良寛の詩は初めてですが、中国の古典と違い親しみ易く気楽に書けました。これを機に受賞に恥じないよう、心新たに精進したいと思いますので、今後共どうぞよろしくお願い申し上げます。

〈評〉
正確な筆致で、全体がよく整っており隙のない作品である。



記念賞
第一部　大木青嵐

この度は、節目にあたる第六十五回記念賞を賜り、身に余る光栄と感激で一杯です。

審査選考にあたられた諸先生方に心からお礼申し上げます。良き師匠に恵まれ、また良き先輩、書友との出会いの中で育ていただき深く感謝しております。

今年に入り、蘇東坡の人間味ある書にひかれ、さらに掘り下げて作品に取り組んできました。しかし、実際には自由闊達さには程遠い作品になりましたが、さらに努力精進して参りたいと思います。今後共ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〈評〉筆鋒鋭く、懐ひろく、気力充溢した堂々の力作である。

記念賞
第一部　塩谷秀蘭

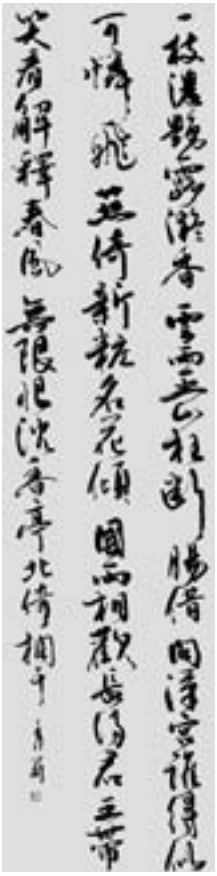
この度は、第六十五回記念展において栄ある賞を賜り誠にありがとうございました。

これも偏えにご指導いただいております安藤秀川先生、諸先輩、書友の皆様方のお蔭と心よりお礼申し上げます。

この頃は、線質と墨量のバランス等を考え取り組んでおりますが思うように進まず力不足を感じ悩んでばかりです。今後は賞を励みに続けていけることに感謝し趣きある書を求め自分なりに努力を重ね精進してまいります。

今後とも変らぬご指導賜りますようお願い申し上げます。

〈評〉沈着した用筆で、重厚、かつ安定感があり日頃の努力の賜物です。

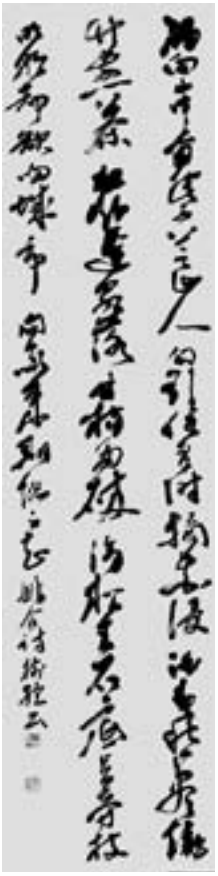


記念賞
第一部　大野樹抱

この度は、大変栄誉ある記念賞を賜り、誠に有難うございます。これも偏に師匠の温かく厳しいご指導をはじめ、社中の諸先輩や仲間、そして何よりも家族の協力で受賞する事ができました。深く感謝致します。

「線質」と「品意」を求め、古典を学びながら試行錯誤を繰り返してまいりました。仕事と書道を両立する中、僅かな時間を有効に活用し、更に向上するよう一層の努力研鑽を重ねていきます。まだまだ未熟者ですが、今後共ご指導の程よろしくお願い致します。

〈評〉洗練された運筆で骨力があり、表現力豊かな作品です。



記念賞
第一部　奥田蘭庭

暫く賞とは無縁でしたが、この度思い掛けなく記念賞を受賞させて頂きました。

江馬翠峰先生始め諸先生方のご指導の賜と厚く御礼申し上げます。

作品に向かう時は、字形と墨量と線質の三つを同時に考えて書かねばなりませんが、少し油断するとどれか一つが抜けてしまいます。長年続けていても、同時に三つを考えて書くのは私にとって至難の業です。今回は筆を小さなものに代えてみたら、思いの外墨量の調節がうまくいきました。でも線質はまだまだ拙く、これを機に一層の精進に励むつもりです。

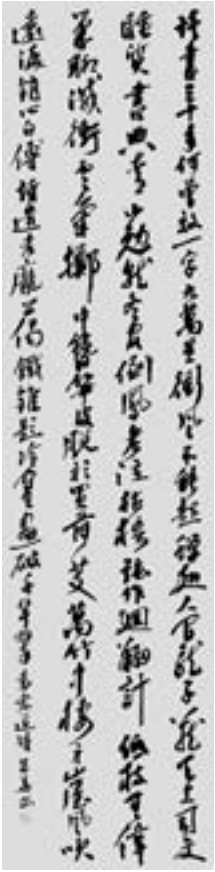
〈評〉筆を自在に軽快に躍動して、バランスよく収めあげられた作。

記念賞
第一部　奥村朱華

この度は第六十五回記念中日書道展におきまして、記念賞という栄誉ある賞を頂き、厚く御礼申し上げます。驚きと共に身の引き締まる思いで一杯です。

これも偏に、亡き恩師倉橋一水先生をはじめ、これまでご指導して頂きました諸先生、諸先輩、家族、書友の皆様のお蔭と心より深く感謝しております。

私は書を続けられたのは、好きである事、回りの協力があって今があると自負しております。今後は尚一層精進して参りますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



〈評〉

章法よく落ちつきある作品で、堅実であって書の取りくみに真剣さがある。

記念賞
第一部　尾嵜紫光

この度は、第六十五回中日書道展におきまして「記念賞」という栄誉ある賞を賜り誠にありがとうございます。これも偏えに根気よくご指導下さいました師、また社中の諸先輩方のお蔭と心より御礼申し上げます。

王鐸の躍動的でずっしりとしながらも大らかな連綿に憧れて臨書を初めたのは十年以上も前になります。動きを重視すると粗雑な線質となり、文字にこだわると大らかさを失くす、それが自身にとっての長い間の課題となっています。今回の作品は決して満足のいくものではありませんが、残した課題に取り組むべく、自分の力の足りなさを見極め、日々研鑽していく所存でおります。

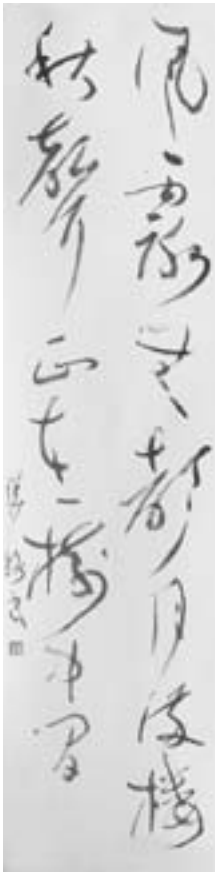
今後ともご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

〈評〉

深みのある強い線で、よく筆がくいこんだ真面目な作品である。

記念賞
第一部　小澤佳路

この度は思いがけなく第六十五回記念賞を賜り驚きと感謝の気持で一杯です。これも偏に、亡き師をはじめ社中の諸先輩方のご熱心なご指導と書友の皆様の暖かい励ましの賜と心よりお礼申し上げます。今回の作品は変化、調和、リズム、流れ、余白の美等が表現できないものかと努力致しましたが、まだまだ未熟さを痛感しております。今後はこの賞に恥じないよう研鑽を積み精進を重ねて参りたいと思っております。よろしくご指導のほどお願い申し上げます。



〈評〉

品がよく、淡々と書かれた中に、風雅な気分が見うけられる作品。

記念賞
第一部　片原秀園

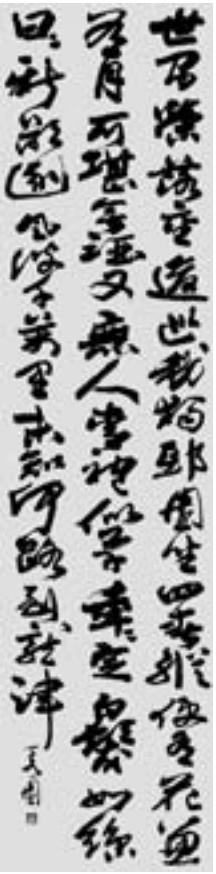
この度は、身に余る賞を賜りましてありがとうございました。

直にご指導下さいました先生始め、先輩の諸先生方のご助言のお蔭と感謝申し上げます。

すべての古典の抜法を習得し、独自の気を書にとりこんだ趙之謙、その書に感動し、勉強しはじめて相当時は経ちましたが、その一本の線さえまだまだ満足に引くことが出来ません。

道は遠いと思いますが、日々精進怠りなくを肝に銘じております。

今後とも、どうか諸先生の厳しいご指導とご助言をお願い申し上げます。



〈評〉

骨格がしっかりと組み立てられ、紙面全体に気迫があるれている作品。

記念賞
第一部　北岡青澪

この度は第六十五回中日書道展におきまして、栄えある記念賞を賜り、身に余る光栄と感謝の気持で一杯でございます。これも偏に、熱心にご指導下さる師匠をはじめ、諸先生方、社中の皆様のお蔭と深く御礼申し上げます。ここ暫くは王鐸の書を勉強してまいりましたが、最近は傅山の書を始め、その狭間で作品に如何に表現出来るか、困惑し、力量不足を痛感致しております。これからも、一層古典を学び努力して参る所存でございます。今後共ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

〈評〉
筆力があり、抑揚緩急よく、技巧に富んだ作品である。

記念賞
第一部　倉橋華仙

この度は伝統ある中日書道展に於きまして栄えある記念賞を賜り身に余る光栄に感激しております。

これも偏に師匠をはじめ、審査に当たられました諸先生方のご厚情の賜と心より御礼申し上げます。今回は縦への流れを主張しつつも横線を生かし趣のある作品を目指しましたが、造形に乏しく思うように纏まりませんでした。日々の勉強不足を反省しております。

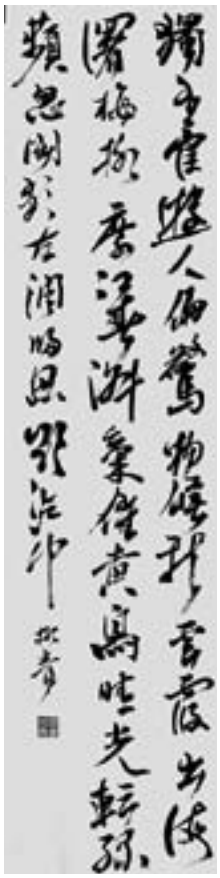
この受賞を励みに精進いたす所存です。今後共ご指導賜ります様宜しくお願い申し上げます。

〈評〉
ゆったりとした温かみのある線で、落ちつき感のある作品です。

記念賞
第一部　厨柳青

「記念賞」受賞の連絡を受けて、びっくりすると同時に本当にありがたい気持で一杯でした。書き始めは、中日文化センターでした。

その後、樽本先生のご指導のもと、龍門二十品・黄庭堅・傅山・王鐸・趙之謙尺牘等、いろいろ勉強できました。本当に幸せです。



今回のみならず、いつも行間、潤渇、そして全体のバランスに気をつける等に、苦労しているところです。

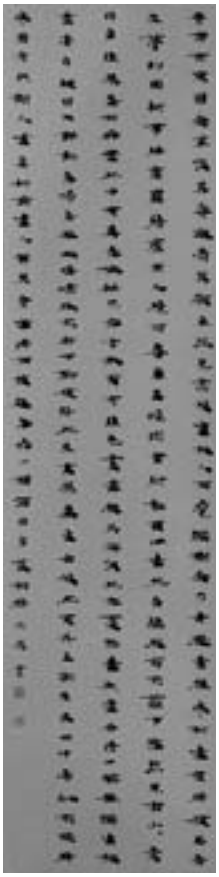
ずっと専業主婦ですが、筆を持つと仕事をした気分になります。光輝高齢者をめざし、書道と茶道は体力が続く限り今後も精進していく覚悟です。諸先生方のご指導ご鞭撻ありがとうございました。

〈評〉
落ちつきのある筆致で、整然とした安定感のある作品である。

記念賞
第一部　後藤光飛

この度は、栄えある記念賞を受賞することができ誠にありがとうございました。

師匠は、長年一貫して「基本に忠実に」をモットーに、書にこだわらず幅広くご指導下さいました。さらに今回は「品格のある字を求めなさい。」と。厳しさとしなやかさの両立は難題です。何とか慎しみ深く筆を運びました。これからも季節に挨拶をし、いろいろな出会いを大切にして書道ができる幸せに感謝しながら精進してまいります。ありがとうございました。

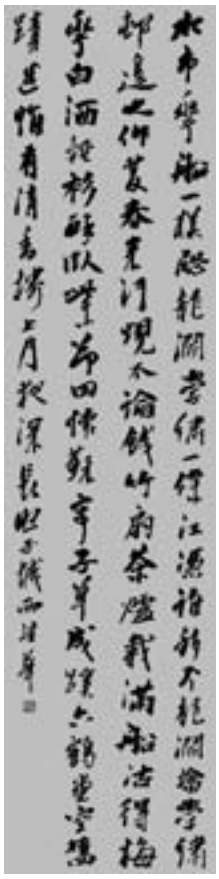


〈評〉
一点一画を大切に心がこめられ、引き締まった強い線で、練度の高い作品です。

記念賞
第一部　近藤継華

名誉ある記念賞を賜り、身に余る光栄と深く感謝しております。これもひとえに審査にあたられました諸先生方、そして社中の皆様の励ましのお蔭と心より厚くお礼申し上げます。楚々としたたたずまいをイメージしながら試行錯誤の連続。力量不足を痛感しております。亡き師の「継続は力なり」の言葉を胸に又、この受賞を励みとして、より一層精進して参りますのでご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
用筆正しく安定感のある造形で、細部まで慎重に書かれた作品。



記念賞
第一部　庄田華鳳

この度は、記念賞をいただき本当に有難う御座います。

受賞の知らせを頂いた時は、本当に喜びの声を上げてしまいました。さらに、授賞式には代表謝辞という大役を仰せつかり、人生の記念にもなりました。

幼稚園の頃より筆を持ち、もう五十年になります。篆書体に興味を持ち中日書道展に出品をするようになり、文字表現の美しさと難しさの戦いは、いまだに試行錯誤が続いておりますが、この記念賞を糧に更に好奇心を持って学んでいきたいと思います。

〈評〉
筆法はよく暢達し、堂々と余裕があり、日々努力の作品である。

記念賞
第一部　白木紫香

この度は、第六十五回記念賞を頂き誠に有難うございました。これも偏に、師匠を始め諸先生方のご指導の賜と深く感謝申し上げます。

今回の作品は、日頃基本としている王羲之王鐸をもとに行草体で三行に仕上げました。行間の余白、潤渇、動きのある強い線と留意はするものの、未熟さに恥じ入るばかりです。

今後、色々な書道展会場に足を運び、更に古典の学習を深め、自分なりの古典の臭いのある作品制作に励みたいと思っています。

〈評〉
律動感があり、力強く全体を一貫した調子でまとめあげた作品。

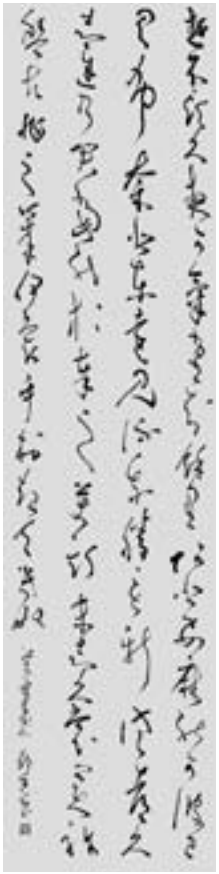
記念賞
第一部　鈴木静香

この度歴史ある本会六十五周年に、栄ある記念賞を賜り、感激と感謝の気持で胸が一杯でございます。

師匠亡きあと、少しでも頑張らなくてはと先輩達を手本にして自分なりに歩み続けてまいりました。良寛の作風に魅せられて長年取り組んでおりますが、私にとっては至難の技であります。これからも萬葉歌を良寛の清々しい線、茫洋とした風姿を表現出来るよう、努力精進していきたいと思います。

今後とも諸先生のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
線が冴え、流動感があり、よどみのない運筆が美しい作品。



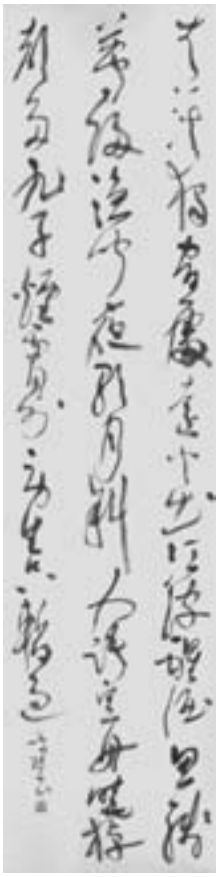
記念賞
第一部　高﨑鳴琴

記念賞という栄えある賞を賜り、大変感激いたしております。これも偏にご指導をいただいております師をはじめ諸先生方のご厚情と深く感謝申し上げます。

作品は空海を基調として、王鐸・倪元璐を意識して取り組みましたが、改めて書の奥深さを痛感しております。

古典に立脚し自己の書を求めて、今後も更に研鑽を重ねてまいりたいと思っております。ご指導の程、心からお願い申し上げます。有難うございました。

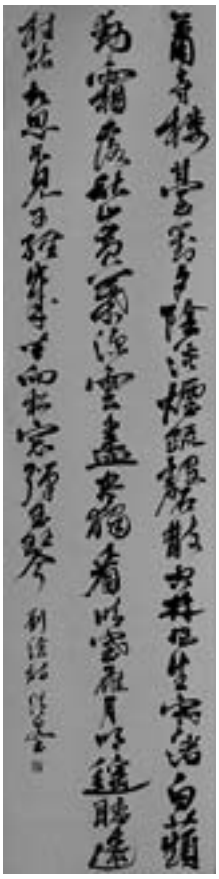
〈評〉
曲線のリズムが快く、線の切れ味がよく品格のある作品です。



記念賞
第一部　竹内清泉

この度は、記念賞を頂き大変光栄に思います。これも師匠・諸先輩方のお蔭と感謝致しております。この喜びを次の作品を書く力にしていきたい。今回の作品をつくりにあたり一番に選文を考え、紙に向かいましたが、墨量と線に抑揚をつけて書くことが難しかったです。その為枚数を重ねて書き上げました。作品つくり全てにおいて共通することは、心を「無」にして書くことです。そうすることで、作品集や古典で観た感動をそのまま作品に表現することが出来ます。今後も書への研鑽を積んでいきたいと思います。

〈評〉
素直で、流動感にあふれ、よどみのない運筆が美しい。

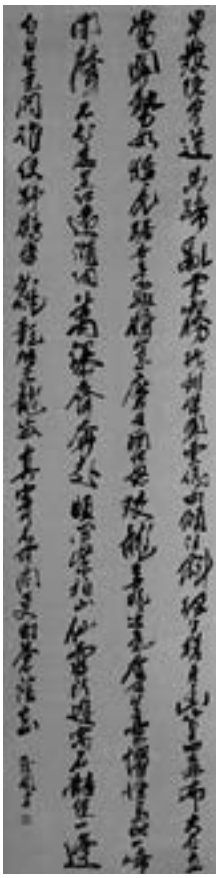


記念賞
第一部　都筑聖園

濃淡・強弱・大小・遅速、字は身体で書く、心を表す。師匠から指導されることです。形にとらわれて流れが出ず、ゴチゴチの作品になってしまいます。今回の作品は、王漁洋の一二〇字の詩を紫色紙に書きました。スッキリと見えるように行間を意識しました。

書くことが好きで習い始めた書道が、師匠、家族、仲間のおかげで、記念賞受賞という実を結べましたことに感謝し、今後も、研鑽を積んでまいります。ありがとうございました。そして、よろしくお願いします。

〈評〉
品がよく、全体がバランスよく整っており安定感のある作品です。



記念賞
第一部　角田紫菀

この度は、思いがけなく記念賞と云う栄誉ある賞を頂き有難うございました。これも偏に、温かくご指導いただいております師の支えの賜と深く感謝致します。

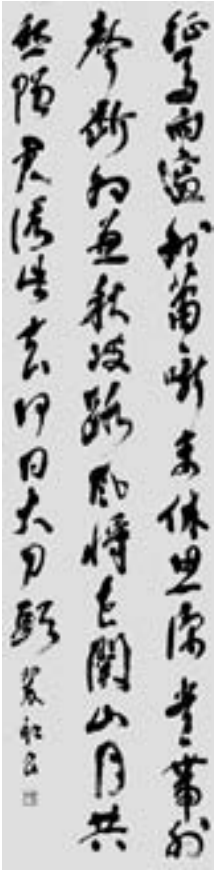
一字一字の中に潤渇ができるよう留意し、鋭い線質、リズム感のある運筆を心掛け、自分らしい個性のある書を目標に、試行錯誤を重ねてきました。しかしなかなか思うように進まず、自分の力の無さを痛感しております。

今後は古典作品より様々なことを学び、知識を深め努力を重ねてまいりますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。

〈評〉
円熟した姿の整済美、安定感が威風堂々と紙面に配字された力作である。

記念賞
第一部　戸崎翠虹

この度、中日書道展において、記念賞を受賞出来ましたことは身に余る光栄と存じます。これも偏に、師匠の熱心なご指導と社中の皆様の励ましのお蔭と深く感謝申し上げます。倪元璐の強くシャープな線質と、文字の空間、潤渇のコントラストを意識して作品の制作に当たりました。しかし出来上った作品は意図するものには程遠く、力量不足を痛感しております。これを機に自分の未熟さと向き合い、試行錯誤をしながら、さらに元璐の研究に取り組んで行きたいと存じます。



〈評〉
運筆のリズムや姿勢を成り切って一心不乱に挑み、味わい深い情景が感銘を覚える。

記念賞
第一部　中川瑞玉

この度、中日書道展におきまして、記念賞という素晴らしい賞を賜り、驚きと共に身の引き締まる思いです。
ここ数年は、墨量の変化、行間、文字の大小と強弱を意識して、すっきりと見えるよう心がけて作品を書いています。今回の作品は、墨量の変化と文字の強弱を表現するのに苦労しました。家事、育児、仕事の合間に、時間に追われて書き上げた最後の一枚です。
ご指導賜った先生方、そして家族の理解と協力に心から感謝し、これからも精進いたします。

〈評〉
温順な筆致で、自在な運筆に楽趣があふれる品格ある作品である。

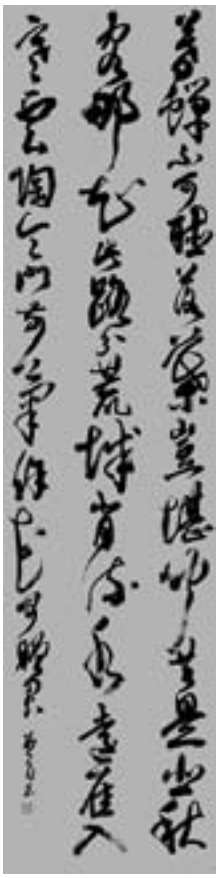
記念賞
第一部　新美秋鳳

この度、第六十五回記念中日書道展において、記念賞を賜り身に余る喜びと感謝の気持ちで一杯です。師をはじめ選考に当たられました諸先生方のご厚情の賜と深く感謝申し上げます。何紹基の手法に魅せられ、ひたすら錬磨して二十年余りたちました。やっと心にかなうものが少しできるようになったのかと思う昨今です。しかし、なかなか思うように筆を運ぶことができず、書けば書くほど迷うばかりの日々も経験しました。
この受賞を機に一層の精進をする覚悟でございます。何卒よろしくご指導の程お願い申し上げます。

〈評〉
暢達な筆跡、字形のとり方、行間が生きている、力量豊かな作品。

記念賞
第一部　中村曽南

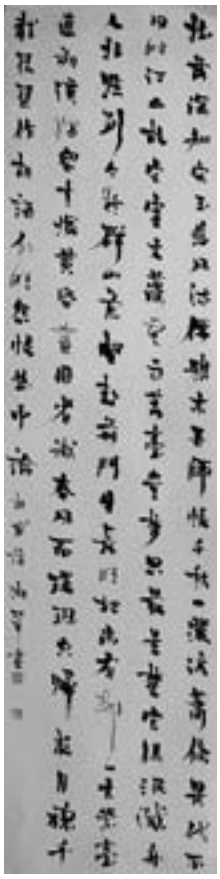
第六十五回記念賞をいただき誠に有難うございました。身に余る光栄です。これも偏にご指導いただきました諸先生、書友の励ましのお蔭と深く感謝申し上げます。中学時代の絵の恩師（八十余歳）は、「絵も書もなまなましくあれ、生き生きとしたうごめきの中に鼓動と躍動を内包せよ！」と三年前の賀状にてご指導をいただきました。作品は遠く及ばず。この賞に恥じぬよう、これがスタートと言い聞かせ精進します。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



〈評〉
運筆は自然に流れ、流動感にあふれ完成度が高い作品である。

記念賞
第一部　萩野湖翠

伝統ある中日書道展におきまして、記念賞を拝受致しました事を誠に身に余る光栄に存じます。これも物心ついた頃よりご指導下さいました師をはじめ、諸先輩、そして審査にあたられた諸先生方のお蔭と、深く感謝申し上げます。



この度の作品は、数年来傾倒してきました金冬心を基調にしました。質朴な中にも、一字一字の表情に、豊かさと厳しさのある書体は、学ぶ程に己の未熟さを痛感致します。

今後は、奥深い古典の探究に努め、一層研鑽を積んで参る所存ですので、何卒ご指導賜りますようお願い致します。

〈評〉
一字一画の字形は妙を極め、暢達にして品格ある作品。

記念賞
第一部　林天翔

昨年の中日書道会創立八十周年に続き、今年は第六十五回展という記念の年に、栄えある記念賞を賜わり、誠にありがとうございました。これも偏に幼少より温かくご指導下さいました師匠、諸先生方のお蔭と深く感謝しております。

今回は、長年研究してきました金冬心の書風で、字数を多くし重厚な線で書き上げることに苦心しました。

この受賞を励みに、一層努力して参りますので、今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
洗練され、独特な書法をもって楽々と書きあげ、楽趣あふれる秀作です。

記念賞
第一部　原霞扇

受賞の報を手にした時、今は亡き師の「この褒美の意味が分かるか」という言葉が聞こえ、改めて記念賞の重みを感じました。

作品は、書作を始めた頃に立ち返り字数を増やして制作してみたもののなかなかまとまらず、少しは自身の成長を実感できると思っていた自分の未熟さを実感しました。それでも何とか仕上げる事ができましたのは先輩の先生方のご指導の賜です。

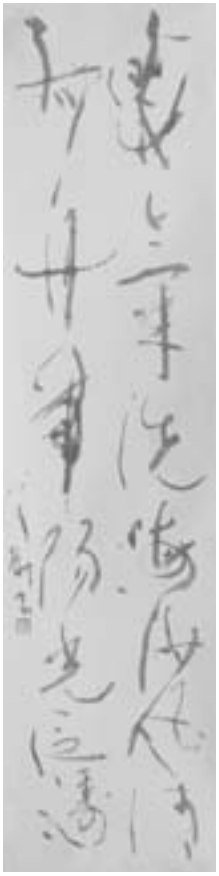
これからは賞の意味を考え、自覚と責任感をもって精進していきたいと思います。

〈評〉
結体よく、筆力あり、洗練された運筆で骨力があり、表現力が豊かな作品。

記念賞
第一部　藤田寒樹

準大賞を頂いた頃から会社の仕事がますます忙しくなり、最愛の師、橋本翠川先生が亡くなられた事もあって、正面から書に向き合う機会が少なくなっておりましたが、翠川先生に入門して今年で丁度五十年になる事にふと気付き、先生への恩返しの気持ちを込めて作品づくりに取り組みました。同門の先輩や共に書を学んだ仲間たちから励まされながら、若い頃先生に頂いた秘蔵の羅紋箋を使って、淡墨の軟らかさと先生に鍛えて頂いた線の強さで、納得のゆく作品に仕上げる事が出来ました。記念賞との評価を頂けた事で、亡き師に恩返しができ感無量であります。

〈評〉
縦にも横にも伸びやかに膨らみ、華やかな動きの中に奥深さが表れている作品。

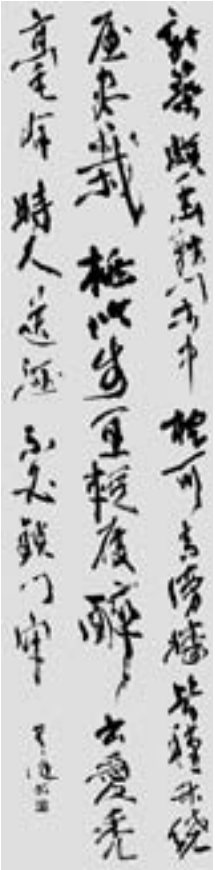


記念賞
第一部　松崎青漣

第六十五回中日書道展におきまして、栄えある記念賞を賜り、光栄に存じます。

幼少時代より通っていた習字教室から、いつしか書道教室へと、思えば長い歳月でした。今日まで続ける事ができましたのは、偏えに師匠、諸先生方、書友、家族のお蔭と深く感謝しております。

作品につきましては、遅速緩急を心掛け、更に墨色、余白を重視したしました。まだまだ勉強する事も多く、なお一層の努力をし、精進して参りたいと思います。今後ともよろしくご指導の程お願い申し上げます。



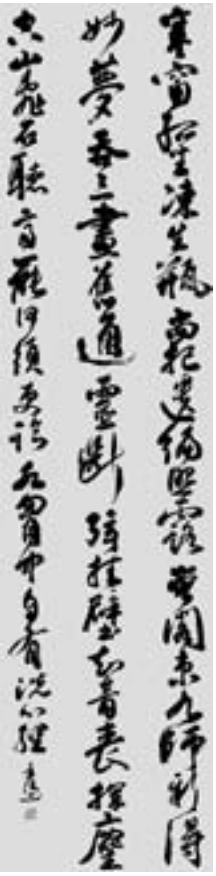
〈評〉
迫力充溢にて、暢びがあり、字形のとり方、運筆ともに魅力ある作品。

記念賞
第一部　三浦景波

第六十五回の記念賞を頂き大変ありがとうございます。

作品を作るに当って、墨量や行間のバランスに気を配りながらと思いつつ「ここ」と思う所がなかなかうまくいかず、終盤になって詩を変え、あわただしく仕上げる結果となってしまいました。古典や書展の鑑賞を沢山することが必要といつも感じさせられます。

普段は主に王鐸の臨書をして終ってしまいますが、色々少しずつ挑戦出来たらと思います。



〈評〉
楽々と書き上げられ、力量の豊かさが表われている作品です。

記念賞
第一部　毛利暁草

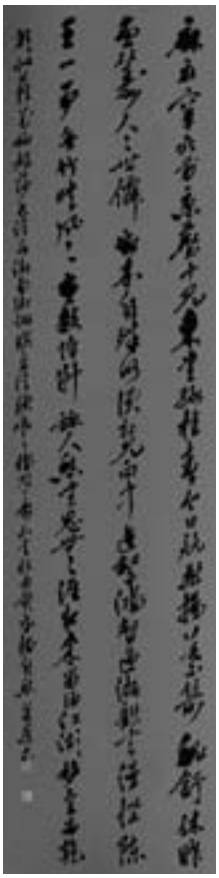
この度は思いがけず記念賞を頂き、只々驚いて居ります。現在、蘇軾を習っていますので、「蘇軾の詩百選」の中から春に因んで花の詩を四種選んで作品にしてみました。しかしまだまだ納得のいかない部分ばかりですので、お恥かしい限りです。

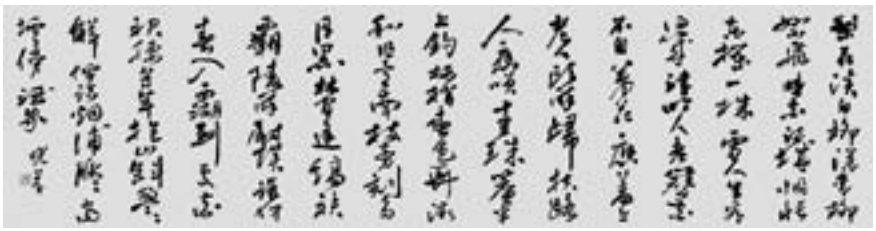
この賞の拝受は一重に諸先生方の日頃のご指導の賜と深く感謝の念で一杯です。厚く御礼を申し上げます。尚、これを励みに一層精進努力させて頂きますので、今後共よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
温順な筆致で、一字一字の字形に雅趣あふれる完成度が高い作品です。

記念賞
第一部　宮部采蓮

この度は思いがけず栄ある記念賞を賜り、いまだ感激さめやらぬ思いでございます。これも偏に師をはじめ諸先生並びに諸先輩方のお導きとご温情の賜と深く感謝致しております。作品は鋒先を利かせて弾力ある運筆の変化と明るさを意図しましたが、作品の前に立つと従来のものと変わりなく忸怩たる思いがいたします。筆を持ちはじめた頃の初心を忘れることなく、今回の受賞に恥じない様一層の精進を重ねて参りたいと存じます。今後ともよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。





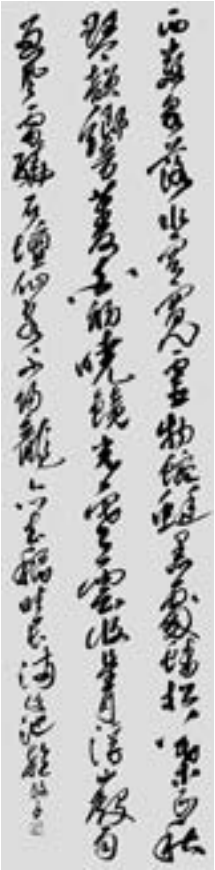
〈評〉
品格よく、行間よく、線質の澄みきった結体が美しい。

記念賞
第一部　森　政子

この度は、思いもよらぬ記念賞をいただきまして、誠に有難うございました。ご指導くださいました師をはじめ、審査にあたられました先生方に深く感謝を申し上げます。

今回の作品は、個々の文字に気配りしつつかつ全体に一貫した気脈が通じるよう挑戦しましたが、思うようにはいきませんでした。

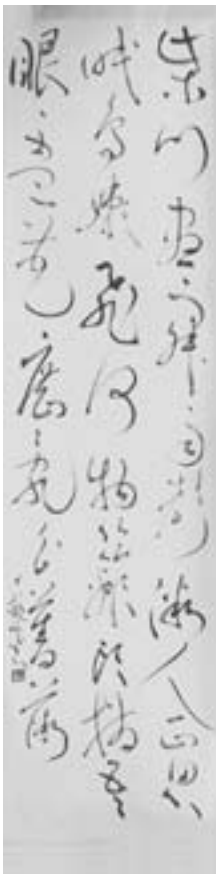
王鐸の書が好きで、その書風が少しでも取り入れられるよう、また書に向かう時は無心になって書けるようにと思っておりますが、どちらも私には難しく、未熟さを感じるばかりです。



〈評〉
スケール大きく、線質がひきしまった、日頃の努力の堂々たる作品。

記念賞
第一部　吉田桃花

第六十五回記念中日書道展におきまして栄ある「記念賞」を頂き、身に余る光栄と深く感謝しております。これも偏に熱心なご指導でおみちびき下さいました師匠をはじめ、諸先輩、書友の皆様のお蔭と心よりお礼申し上げます。



「線の魅力・余白の美しさ」をテーマに、淡墨の幽美な世界を表現できるよう心がけて制作しましたが、未熟な私には沢山の課題が残る作品となりました。

この受賞を励みに尚一層、努力精進する所存でございます。今後ともご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

〈評〉
独特な書法をもって、自在な運筆に楽趣があるれる作品です。

記念賞（2部～5部）　受賞者

記念賞
第二部　久徳蓬香

この度は望外の記念賞を賜り誠に有り難うございました。偏に師匠ご夫妻はじめ諸先生方、書友の皆様のお蔭と深謝しております。

作品は万葉集、浦島伝説の雰囲気を表したいと腐心しました。万葉仮名を多用して仮名と漢字の調和を目指し、漢字については造形に惹かれた張弼を真似たものの、未消化に終わりました。古典の用筆法で仮名作品に合うものを再考すべきと痛感しました。最近は当会の他部門の先生方から学ばせて頂く機会も増え、励みとなっております。賞に恥じぬよう愚鈍ながら一層精進いたします。今後とも宜しくご指導下さい。

〈評〉
温かみのある色調の紙に力強い線で、行の流れと行脚の変化を意図し、下り藤形式の構成美がみごとな作品。

記念賞
第二部　小島瑞月

この度は「記念賞」という栄誉ある賞を賜り、心より深く感謝申し上げます。

今回の作品は長年取り組んでいます「香紙切」のもつ、静と動を古今和歌集の歌にのせて表現出来たらと思いました。静の部分の前半は落ちついた雰囲気でまとめ、後半の動には自由な動きを出し、行間・字粒等変化を求めました。そして立体的な景色になる様墨量・線の太細にも注意を払いましたが、まだまだ未熟で思う様には書けませんでした。

これからも一歩一歩努力精進を重ねて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
優雅さの中に強さのある線で小気味よく表現された作品。山場となる行の絡みが作品の厚味を出している。

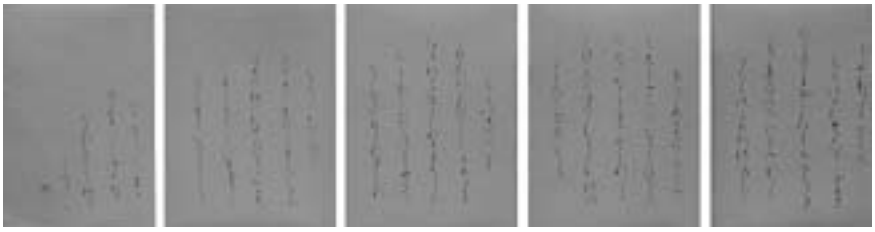
記念賞
第二部　鈴木真理子

この度、記念賞という栄えある賞を賜り、身に余る光栄と深く感謝申し上げます。

関戸古今集を基調に、墨の渇筆の具合と線質に気を配り、十二枚の帖に致しました。明るく爽やかな作品にと心がけましたが、力不足を痛感致して居ります。年齢を重ねるにつれ集中力が弱くなって来たと思いました。

これを機に、初心に返り体力の続く限り、精一杯の努力を惜しまぬようにつとめたいと思って居ります。今後共、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
古筆を極めた練度の高い細字作品。一見地味な作品であるが落着いた奥行きのある上品さが魅力である。



記念賞
第二部　清木美智子

この度は記念賞を賜り、身に余る栄誉と存じます。これも偏に師、先輩、ともに歩んできた仲間の方々のおかげと厚くお礼申し上げます。

今回の作品は、新古今和歌集四首を、長年親しんできた関戸本古今集を基に制作しました。余白を大きくとり、抑揚ある動き、ねばり強い線を心掛けました。ブルーの料紙を生かし爽やかに表現出来たように思います。

まだまだ力不足ですが、今後も古筆を軸に一層の精進に努めて参ります。

〈評〉
青色の料紙が線の強さを強調する作品で、構成も斬新で新鮮さを感じる。

記念賞
第二部　田村泉舟

この度は、記念賞という栄えある賞をいただき、驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の作品は、構成はもとより、山場への墨の流れ、墨量、配字、結びをどうするか等何度も何度も試行錯誤をくり返し仕上げた作品です。日頃より師匠、諸先輩の作品作りに対する姿勢を見聞きすることで、自分の励みとなってきたように思います。これからも、いろいろな作品に触れながら線を鍛えるべく尚一層の努力を続けていきたいと思っています。ありがとうございました。

〈評〉
円やかな線で気品のみなぎる作品、特に行頭と行脚の変化もみごとで、後半の格調の高いみせ場がすばらしい。

記念賞
第二部　津田壽美

この度は思いがけず記念賞を頂き誠に有難うございました。偏に審査員の先生方のお陰と感謝申し上げます。先の賞より十六年振りの事とて驚きと喜びで一杯です。

今回は方形に和歌三首の作品作りに昨年末より取りかかり、色々なパターンを練りましたがうまくゆかず二月師のアドバイスを得て作品らしく成りました。日頃から関戸本、小色紙を中心に臨書をしながら線の錬磨と構成を学習しています。その一端が作品に感じられたら幸です。

かな書道五十年を経て筆の遊びと面白さの分かって来た昨今です。未だ極める道は遠けれど今の技を磨く事は書道展に出品する事と心得て今後も精進したいと思います。

今後共宜しくご指導頂きます様お願い申し上げます。

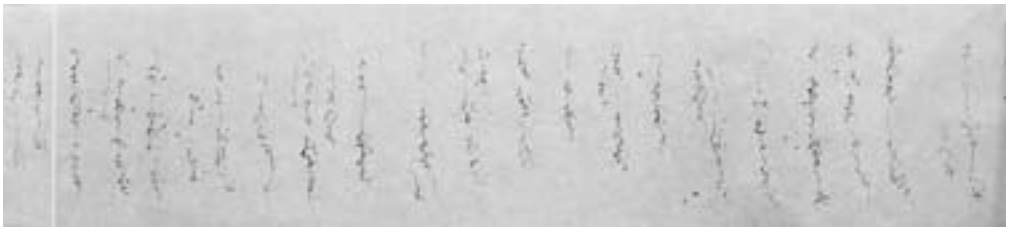
〈評〉
明るい温かみのある料紙に、練度の高いばねの利いた線質で上品にまとめ上げた作品である。

記念賞
第二部　萩原祐子

思いもよらない記念賞の知らせ。私には縁のないものと思っていましたので、暫く頭の中がパニック状態でした。心と身体が落ち着くにつれ嬉しさがこみ上げ、幼少より見守り続けて下さった師匠はじめ諸先生方のご指導の賜と、感謝の気持ちでいっぱいになりました。誠に有り難うございました。

「余白の美」を心がけ、明るく温かい作品を書きたいと願っていますが、まだまだ遠い道程です。この受賞を励みとし、これから一層精進を重ねて参りたいと思います。ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

〈評〉
筆先のよく利いたねばりのある線が魅力的で、散らし書きと余白美を流動的に表現したみごとな帖作品である。



記念賞
第二部　本田煌雲

記念すべき第六十五回展におきまして、思いがけず記念賞を賜り、驚きと喜びで胸が一杯です。

これも偏に、長年暖かくお導き下さった師匠、励まし応援して下さった先輩方、審査に当たられました諸先生方のお蔭と、心より感謝御礼申し上げます。

今回の作品は、松の型押しの紙に、墨色の美しさを念頭に、肩の力を抜いて無心に仕上げた一枚です。

今後も「継続は力なり」、書を続けさせていただける全ての事に感謝しつつ一層精進して参る所存です。今後共よろしくご指導の程お願い申し上げます。

〈評〉
中字の横披作品。松の模様を施した加工紙に鍛えぬいたかなの線で佐理調に表現された秀作。

記念賞
第二部　三宅杞璋

このたび、中日書道展におきまして、六十五回記念賞をいただき感激でいっぱいです。
美しいかなを求めて平安時代の古筆を参考にし、習ってまいりましたが、なかなか奥が深くて到達できないものです。
今回は、大字仮名、小字仮名の中間の中字仮名の表現にこだわり、かなの持つ流麗典雅な文字を求めてみましたが、表現の難しさや力不足で未熟のままの作品になってしまいました。今迄、多くの諸先生、先輩のご指導をいただきましたことを心より感謝し、今後もかなの魅力を追い続け精進したく思います。

〈評〉穏やかで渋い線と墨量の巧みな変化によって温雅で厚味のある作品が魅力的である。

記念賞
第三部　浅野芳柳

この度、第六十五回中日展におきまして、記念賞をいただき誠にありがとうございました。これも偏に亡き加藤大碩先生、はじめ加藤裕先生、諸先生方、書友の皆様のお蔭と心より感謝しております。
今回の作品は、この句のように名山と言われる程の山ではありませんが、春になり雪解の頃になるといつも気に掛かる小さな瀧、流れ落ちる水を思い浮かべながら書きました。
恵まれた環境の中で年齢だけは重ねて参りましたが、まだまだ未熟な私、今後ともよろしくご指導下さいますようお願い致します。

〈評〉聊かの衒も見せず堂々と真正面から勝負を挑んだのは実力ありの証明、存在感一際威風を放つ。

記念賞
第三部　伊高美秀

単身赴任だった主人が帰任。五年ぶりに家族が揃う中……今まで三尺サイズにこだわって書いてきましたが、ここは心機一転にて、サイズを変えて取り組みました。
今回は気負うことなく自然に筆が動きましたが平凡な作品になったと反省。思わぬ吉報に感慨無量です。これも偏によき師、よき書友のお蔭と感謝いたします。
書作には、素朴の意味あいを大切にモノクロの世界に自分らしさの彩りを表現できるよう心がけています。これからも精進してまいりますので、ご指導よろしくお願い申し上げます。

〈評〉大技小技を巧みに交錯させ見飽きることのない周到の作。多彩な用筆法を駆使する手法は抜群のもの。

記念賞
第三部　川本大幽

この度は第六十五回記念中日書道展におきまして記念賞を賜り、身に余る光栄と感激で一杯です。これも偏に審査選考にあたられました先生方、書家への道に導いて下さいました亡き師匠、諸先生諸先輩方のおかげと感謝申し上げます。常日頃から書作するにあたり、文字の中の空気感と行間が心地良い余白に感じられることを心掛けておりますが、今回も出来ているかは疑問です。
これからは師から頂いた多くのものを若い人達に伝え、微力ですが書の普及に貢献できますよう、日々精進して参ります。有難うございました。

〈評〉重賞を手にしたあと一段とアカ抜けした快作が続く。作為を捨て専ら暢達を担う心情に益々期待大。

記念賞
第三部　坂本美薔

この度は栄えある記念賞を賜りまして誠に有難うございます。心より感謝申し上げます。

今回の作品は横長の紙に縦書き九行。一行の短い間に、墨の潤渇や線の太さ等で変化をつけつつ、一枚の作品としてバランス良く書く事が、特にひらがなばかりの行では苦労しました。こうした作品の構成等についても日常的に古典と共に日々学んでおり、又、錬成会に参加をする等して、周りの方々からも学ばせていただいてます。しかし、学ぶべき事は限りなくあり、今後も基本を大切に、更に精進して参りたいと存じます。何卒、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
軽快なリズムに乗って筆が走る。墨継ぎも必然の如く現われ、遠くを見据えながら体が躍動する。

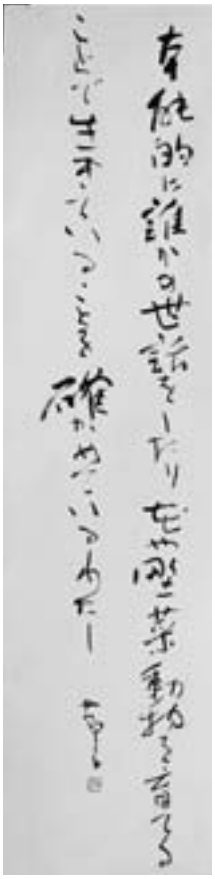
記念賞
第三部　権田節子

父の遺品の中にみつけたそれは、日記も兼ねた数々の詩や短歌。子に妻に部下に、心を掛けたやさしい父の生涯があった。

そうだ「自分の言葉」で作品を書こう。以来自己満足の域でアップアップしながらも制作出品している次第。

山頭火の句を吟みながらの草むしり、河野裕子の短歌を思いつ、楽しむ家事の中に、ふっと生まれる「自分の言葉」。急いで筆を走らせる。そんな一枚がいいという。

書の世界しか知らない私を、今沢山のお仲間が助けて下さっている。充実した日々に感謝。



〈評〉
「熟」の一語がこの作にはふさわしい。独自の境地を拓いた多年の精進が今、大輪の花を咲かせた。

記念賞
第三部　平岩美風

この度は、記念賞という栄誉な賞を賜り、誠にありがとうございました。

これも偏に師始め、諸先生方、社中の皆様のご指導、支えのお蔭と、深く感謝しております。

今回の作品は、線の流れ、リズムに考慮しての作品制作でしたが、書けば書く程、力が入り、自分の未熟さを痛感するばかりです。

この賞に恥じぬよう、一層の精進を重ねますので、今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

〈評〉
表情の楽しさが作品を跳ぶが如くに見せる。手首の返しが軟かなリズムを奏で立体感あり。

記念賞
第三部　夫馬春園

この度第六十五回記念賞を戴き誠にありがとうございました。

武内幽華先生の書に出会いその墨色、線質、余白の美に魅了され近代詩文の道に入ったものの常に試行錯誤の日々でした。「品格ある余白の美しい作品」をと心がけて書いてみたものの思い入れた作品には程遠く……。

これからも古典の臨書を柱に尚一層精進を重ねてまいります。

審査をして頂いた先生に心よりお礼申し上げますと共に、今後共ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

〈評〉
大胆さと繊細さを併せ持つ表現力は練磨のあとを物語る。小書きの流れゆくさまも美しい。

記念賞
第三部　松元彩華

この度は、ずっと夢に見ていた記念賞を戴き、心の底から喜びで一杯です。本当にありがとうございました。小さな頃からここまで導いて下さった恩師、そして先輩方、温かい仲間の支えあっての受賞と沁々感じております。今回の作品は、単調になりがちな構成をいかに自身のカラーを出し切るか、字の中に疎密をバランス良く造るかを考え制作に励みましたが、全体の流暢なる灰汁の無い縦の流れが中々思う様にいかず悩みました。私にとって書は自己形成の一部であり最高の自己表現の場です。先々も沢山の手法や構成を学び精進して参ります。

〈評〉
爽やかなステップは感性であろう。可成り字間を詰めたが明るいのはリズムに乗っているから。

記念賞
第三部　水野泉美

幼き頃より書に携わって参りました。何の取り柄もない私が今日迄続けることができ、又この度栄えある賞を頂くことができましたのは日頃より鼓舞激励下さいました師匠はじめ皆様のお蔭と深謝致します。作品に向かえば向かう程『書』の神秘的な世界に魅了されつつ思うように書けず苦悩する日々でした。周りの方、環境に恵まれましたことはこの上ない喜びです。更なる技術、表現の向上を目指し精進する所存ですので今後ともご指導賜ります様お願い申し上げます。
ありがとうございました。

〈評〉
充実の墨量と余白の明るさが見事な調和を見せる。時々間をおく筆法は爽快な気分を与える。

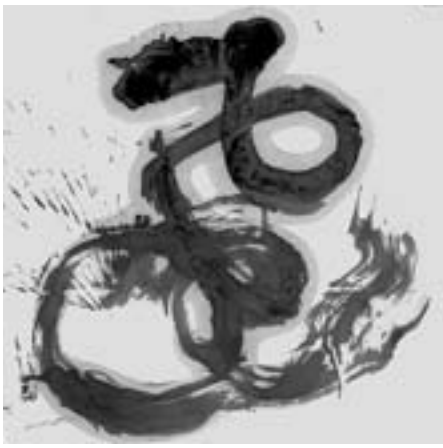
記念賞
第三部　山口志奈子

この度は記念賞という身に余る賞を頂き誠にありがとうございました。師である黒田玄夏先生はじめ諸先輩・書友の皆様にいつも温かく支えていただいたお蔭と心より感謝しております。
今回の作品は、縦二行書き。先生の教えである行の流れゆく様子、文字から文字へつながる様子を表現しようと努力しましたが、硬すぎる流れ、線。もっと柔らかく懐大きく表現できないものか？
再度古典臨書の学習を大切に一歩一歩前進したいと思います。今後とも一層のご指導をよろしくお願い申し上げます。

〈評〉
重厚な気力が満ち一気呵成に書き進んだのが良い。漢字からかなへの移行に一段の練磨を待つ。

記念賞
第四部　鵜飼冠山

この度は、第六十五回記念中日書道展において、記念賞という身に余る賞を頂き、誠にありがとうございます。これも偏に、ご指導下さいました師をはじめ、諸先生方、仲間の皆様のお蔭と心より感謝しております。
これからは、以前、師から書を学ぶ上で重要であると教えていただいた、三心（静心・熱心・調心）と三多（多聞・多見・多写）の実践を忘れることなく、焦らず一歩一歩精進してまいりたいと思います。
今後共ご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



〈評〉
画数少の字に、強弱を出し息の長い線が明確に紙面全体を押え、筆力が漲った快作です。

記念賞
第四部　加藤夕堤

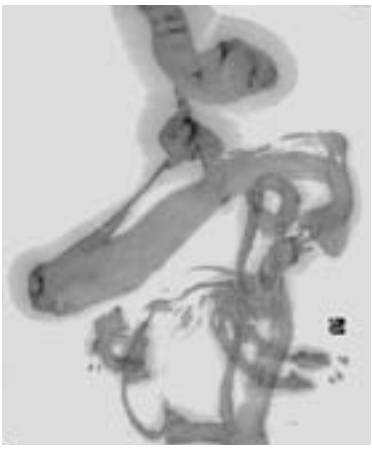
この度、第六十五回中日書道展におきまして記念賞を賜り誠に有難うございました。偏に、審査にあたられました先生、そして毎月の書道研究会（愛知県独立書人団）における諸先生のご指導のおかげと心より御礼申し上げます。
いつも、「古典をしっかり勉強しなさい。」と叱咤激励で支えて下さったご指導の先生に感謝の気持でいっぱいです。
この受賞を機に一層の努力を重ねて行く所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

〈評〉
筆路が正しく、骨格に確かさがある。歯切れのよい生きた線、空間、清雅な心情が伝わってくる作。

記念賞
第四部　小島初美

この度は記念賞という立派な賞を賜り、驚きと感激でいっぱいでございます。誠にありがとうございました。「継続は力なり」を座右の銘として書を学んでまいりましたが、この道は奥が深く、自分の未熟さを痛感して居ります。作品の「氣」は精神の積極的なあり方や活力という意味があり、士気・生気・勇気という言葉に共感を覚えました。気持ちと表現には隔りがありますが、気負わず肩の力を抜いて、清健に仕上げるよう心がけました。ご指導頂いて居ります先生方、ならびに書友の励ましに厚くお礼申し上げます。

〈評〉
冴えた線に弾力があり、規模が大きく大胆な結体。溢れる気力が漲って、終画前の割筆が効果的です。



記念賞
第四部　小玉太貫

この度、六十五回記念の中日書道展にて、私にとって、正に身に余る記念賞を頂き、驚きと感動でした。
これも偏に、ご指導下さった先生をはじめ、諸先輩方々のお蔭と、心より感謝してます。
私はある時、「芸術は、人と比べては上達しない、独自の創作に喜びあり。」と言う文を眼にした時、あゝ、これだ古典を学びつつ次のステップとしての作品作りには、創意と工夫だと思った。これを機に、この受賞を励みとして、頑張っていきたいと思ってます。

〈評〉
躍動した、運筆、骨格も確かで、生き生きした筆力で紙面全体を押え、躍動している作品。

記念賞
第四部　鈴木容華

この度は、身に余る「記念賞」を頂き誠に有難うございました。突然の受賞に驚きと戸惑い、そして賞の重みに身の引き締まる思いです。作品の「登」は、山を登るがごとく、一歩一歩という思いで書きました。まだまだ頂上には程遠く、力量不足を痛感しております。これからも古典を基礎に、心・技・体を鍛錬し、魅力ある作品創りを目指して精進してまいります。師匠はじめ愛知県独立書人団の先生方、また支えて下さった社中の皆様に心よりお礼申し上げますと共に、今後ともご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

〈評〉
紙面に食い込んだ深い線で力強い。規模が雄大で淡墨作品としての墨色、白が美しく安心して勧賞できる作品です。

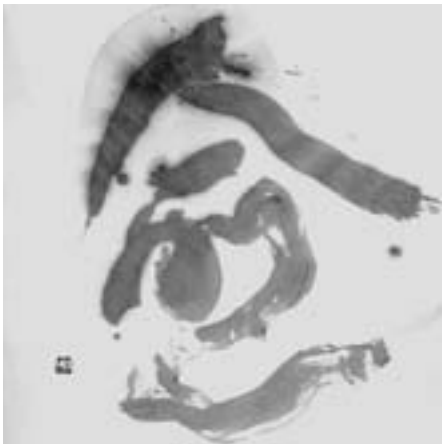
記念賞
第四部　物部浩子

私にとって今回の受賞は、思いもかけないことでした。学生のころよりご指導頂いた佐々木嵓邦先生をはじめ諸先生、諸先輩、仲間の皆様に、心より感謝申し上げます。

今まで少字数の作品では、自身のことや自然のことを題材に求めてきました。子育て真っ只中の今、スポーツに奮闘する息子に刺激を受け、久しぶりに彼への応援の意も込めて筆を執りました。無駄な動きを極力抑え、シンプルな表現を心がけました。

これを励みに、今後も古典と対峙し続ける中で、自らを磨いていきたいです。

〈評〉
静かで落ち着いた線で、一画一画丁寧に書かれています。潤いがあり豊かで、品格のある作品です。



記念賞
第五部　太田朴仙

この度は、栄誉ある記念賞を賜り誠にありがとうございました。これも偏えに師をはじめ諸先生方のご恩情のお蔭と、深く感謝申し上げます。

今回の作は、躍動感ある金文をめざして取り組みましたが、その趣きが今一つ乏しく、自分の未熟さは否めません。しかし、師のあついご指導を頂き佳い作品に仕上ったと思います。今後は、この賞に恥じぬ様、精進して参りたいと存じます。

何卒、尚一層の叱咤、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

〈評〉
西周鐘鼎文を倣い鍛えた運刀により優美で、幽玄な魅力ある作となった。

記念賞
第五部　田中修文

この度は、第六十五回展の記念賞を賜り、誠に有難うございました。これも偏に恩師故梅舒適先生を始め諸先生、諸先輩の皆様方のお蔭と心より感謝申し上げます。作品は史記より撰文し金文の神秘的な魅力と文字と文字との響き合いを念頭に置きながら、構成及び風格を色々と考え、印稿づくりに時間をかけました。奏刀では線の切れに重点を置き古色をより多く加えることで古印の雅味を表現してみました。今回の受賞を機に尚一層の努力、精進を重ねる所存です。今後共、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
大胆な構成と鋭利な線による偏鋒が程よく刀痕が生れ古拙、勁健なる作です。

記念賞
第五部　松久明博

この度、第六十五回中日書道展におきまして栄えある記念賞を受賞できましたことは、この上ない喜びであり、諸先生、諸先輩方のご指導のお蔭と心から感謝申し上げます。

今回の出品作「翔而後集」は『論語』から選び、小篆で表現しました。小篆の流麗・優美な線に、端正は趣きを更に加えて、朱白の世界で表わしたいと考え取り組みました。

篆刻を始めた頃の、石に文字を刻していく時の心躍る楽しさを持ち続け、今後も篆刻でしか表わすことのできない独自の文字表現を追求し続けたいと存じます。

〈評〉
秦篆を朱文に配し運刀のリズムがよく、余白の美しさを強調した快作である。

海部俊樹賞・大賞・準大賞（1部）　受賞者

海部俊樹賞

第一部　近藤青洮

この度は思いもよらぬ海部俊樹賞の栄を賜り、ありがとうございました。いつも優しい笑顔でお導びきくださる師や先輩方に感謝いたします。ただただ書くという事を楽しんで参りましたが、賞の重みに身の引き締まる思いでおります。

作品は、徐青藤の豪放かつ繊細な書風に様々な紙・筆を用い、墨量の変化、行間余白に留意しながら取り組みました。

まだまだ勉強不足の私ですが、今後はこの賞に恥じないよう精進したいと思っております。ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〈評〉

鍛練を経た筆線の重心を低く構えた安定した造形美、凛とした緊張感が快く紙面に広がっている秀作。

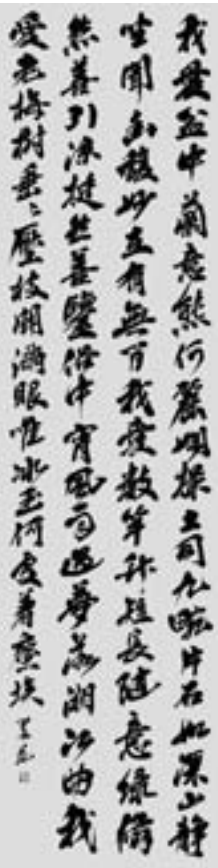
大賞

第一部　江川翠苑

この度は、大賞という栄誉ある賞を賜り、誠に有難とうございました。これも偏に師のご指導のお蔭と深く感謝申し上げます。思いもかけない大きな賞に感激致しますと共に身の引き締まる思いです。作品は、力強い線質と流れを作るということに心掛けました。大変、苦労致しました。又、墨色も黒々と制作致しました。この賞の重みを胸に、これからもより一層精進して参りたいと思いますので、ご指導賜わりますようお願い申し上げます。

〈評〉

豊潤で深みのある筆致、高い気品と安定感は弛み無い努力の所産であろう。



準大賞
第一部　荒川璃華

この度、準大賞という身にあまる賞をいただき、大変感激しております。これも偏に、師匠をはじめ諸先生のご指導と先輩方のお蔭と感謝しております。

余暇を楽しもうと始めた書道ですが、今は、筆を持ち人の手によって優しくも強くも表現できる書の奥深さを感じながら、紙に向かっております。今回作品は、行間のバランスや墨量による濃淡を特に気をつけました。

この反省点を次作に生かせるよう、これからも一層努力していきたいと思っております。

ありがとうございました。

〈評〉

これだけの多字数を、単体五行に仕上げた手腕と精神力に敬服。

準大賞
第一部　石川明加

この度は、栄誉ある賞を賜りまして、誠に有難うございます。思いがけない受賞に、嬉しさと驚きで一杯です。これも高橋秀箭先生をはじめ、諸先生方の温かいご指導のお蔭と、心より御礼申し上げます。

自分の思うような表現や線が書けず、日頃の練習不足と力の無さを痛感致しております。

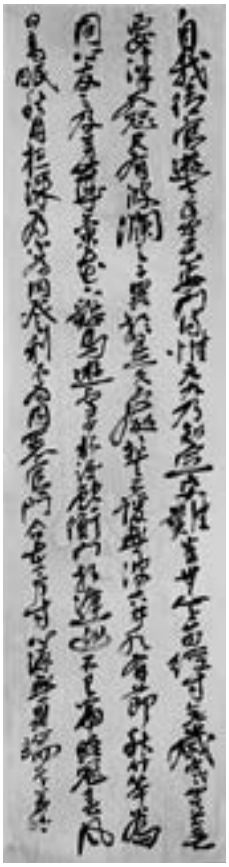
まだまだ未熟な私ですが、今回の賞に恥じぬよう、これからも仕事との両立の中で精一杯努力して参りたいと思っております。今後ともご指導の程宜しくお願い申し上げます。

〈評〉

自在にはたらく洗練された筆線の一貫した律動感が心地よい、大きくとった行間に明るさが輝く。

準大賞
第一部　伊藤草華

この度、栄誉ある中日書道展におきまして準大賞をいただき、身に余る光栄と感謝で胸が一杯でございます。これも偏に熱心にご指導下さいました師をはじめ、審査にあたられました諸先生方のお蔭と心より感佩致しております。悠久の歴史が息づく中国唐の詩人李白の七言古詩を四行の作品にしました。特に墨色、濃淡、線とにじみの変化、バランスに気をつけ、リズミカルに緩急、抑揚をつけ運筆しようと心掛けました。今後も栄誉に恥じないよう精進し、「千里の道も一歩から」と言われるように目標をしっかりと定めて一日一日を有意義に過ごしたいと思います。



〈評〉

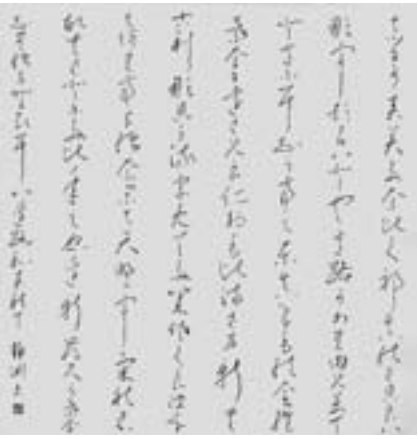
密度ある筆致の構成は重厚感がある。最後まで心の乱れなく纏め上げた気脈一貫の作。

準大賞
第一部　今井静渕

この度は準大賞という名誉ある賞を戴き誠に有難うございました。嬉しさの反面私が頂いて良いものだろうかと困惑しております。江馬翠峰先生の教室へ通い始めて二十五年程になりますが、未だに筆の入り方、押え方、なかなか納得の行く線が出せず四苦八苦しております。その度に先生にはいつも気長に指導して下さり本当に感謝しております。難しい事は何も分かりませんが、書を通じて良寛や古今和歌集といった古典に接する機会が持てた事はとても貴重な財産だと感謝して居ります。これからも生涯を通じて長く続けていけたらと思っております。本当に有難うございました。

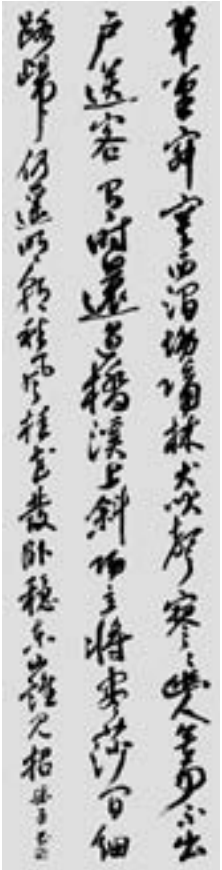
〈評〉

良寛の筆意を基調とし、古今和歌集に題材を求めて淡々と書き上げている。細線の織りなす明るさが紙面に満ちている。



準大賞
第一部　岩越勝子

第六十五回中日書道展準大賞、入賞の知らせに〝えっ〟という驚きと同時に身が引き締まる思いでした。二人の亡き師・現在の師に嬉しい報告が出来ました。入賞した作品は三人目の河田先生に、指導を受けた最初の作品でした。本当にありがとうございました。



この作品は墨量を多く、その中ですっきりとした行間になる様心がけました。

なき師に「まっすぐ、まっすぐ」といつも指導されたのを心の隅において書きました。いつも強いだけの線ですので、やさしく、品のある作品を作りたいと思います。

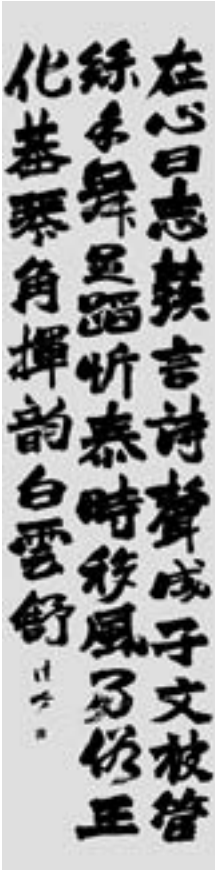
先生、社中の皆様ご指導よろしくお願いします。

〈評〉
手練れた筆法の軽やかなリズムで進む筆線に衒いがなく、純朴な作。

準大賞
第一部　川崎清吟

この度は、目標としていた準大賞をいただき、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。

家庭の事情で休みがちになっていた時には、門下の先生方の温かい励ましにより続けることができました。



また、今回の作品は、線の強さ、全体のまとまりに欠けている点を反省しております。

納得のいく作品まではまだまだ遠いですが、初心を忘れず、誰よりも尊敬する師匠の下で勉強する事ができる幸せをかみしめ、精進してまいります。今後とも、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
墨量豊かな重厚な筆線は気負いがなく、古典に習熟した形姿に充実感がある。

準大賞
第一部　川出泉麗

この度は、栄誉ある準大賞を賜り、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の作品は、余白を活かせるような行間と、墨量を考え、力強い線の中にもしなやかな流れのある作品をと心がけ、制作に励みました。

ここ一年程、臨書を中心に練習をしてまいりましたが、これからも老子の「一をつかみて無念無想」の言葉を心にとどめ、精進を重ねていく所存であります。

今後ともご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
紙に切りこむような律動感あふれる用筆が快い、筆の開閉がよく白さが美しい。

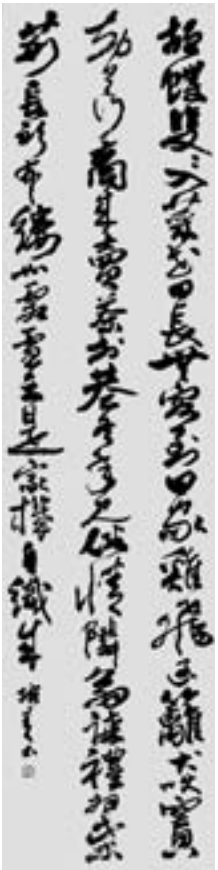
準大賞
第一部　河原﨑坡青

この度の受賞の報に只々驚いております。これもひとえに師のご指導と諸先輩の方々のお蔭と心から感謝申し上げます。

何度か心折れそうになった時、教室のお仲間の励ましで続けてこられた事が今よかったと思いました。

毎回点と線、線の美しさを言われておりましたが未だ出来ぬまま今日に至っております。私の永遠のテーマとしてこれからも頑張って参りますのでご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
縦よりも横への展開を意識した筆法の流れるリズムは乱れがなく、作品を大きく見せている。

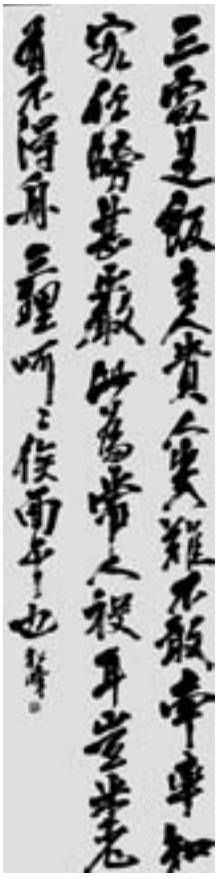


準大賞
第一部　岸田松峰

この度、思い掛けず「準大賞」を賜り、身に余る光栄と感謝の念で一杯でございます。

選考にあたられました諸先生方、師匠をはじめ先輩方のご師事のご温情に深く感謝申しあげます。王鐸の臨書といえば村上三島先生。先生は書法を自家薬籠中のものとしたとの評判が高いと聞き作品を見て感動。少しでも真似をしようと挑戦しましたが出来ませんでした。今後、自分の書を見直し、古典学習に励み書風の確立に努めたく存じます。

〈評〉
安定感のある構成、古典の習熟度が高い重厚な筆線は雅趣豊かである。



準大賞
第一部　清沢華舟

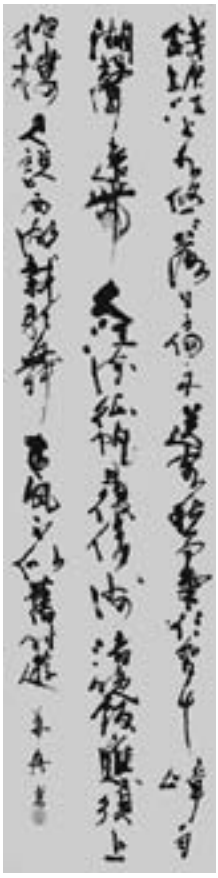
この度は思いがけず栄ある賞を頂きありがとうございました。本部支部の諸先生方には心より御礼申し上げます。

王鐸を基調に全体の流れ、バランス、立体感がある作品をと考え制作しました。潤渇、文字の大小、太細、遅速、抑揚等に留意して書きました。

字をかくのが好きではじめた書、三十年余り続けてきましたが今でも作品を書ける幸せを感じます。

この受賞に恥ないよう一層研鑽を続けていきたいと思います。今後共よろしくご指導の程お願い申し上げます。

〈評〉
熟練した筆法の形姿、堅実な構成に充実感があり、余白の美しさが際立っている。



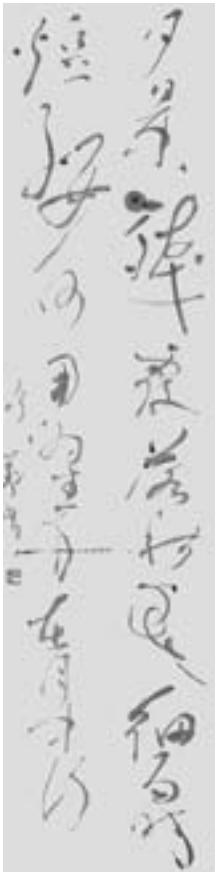
準大賞
第一部　櫻木吟對

この度は第六十五回記念中日書道展におきまして栄誉ある準大賞を頂き、身に余る光栄に存じます。これも偏に亡き師をはじめ社中の諸先生、諸先輩方の温かく熱心なご指導と励まし、また、審査に当たられました諸先生方のご高配の賜と厚くお礼申し上げます。

作品の制作に当たりましては、調和とリズムに心がけながら取り組みましたが、書けば書く程未熟さと勉強不足を痛感いたしました。

これを機に一層努力、精進してまいりますので、今後ともよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

〈評〉
疎密潤渇の調和がよく、力強い用筆に安定感があり品位のある作。

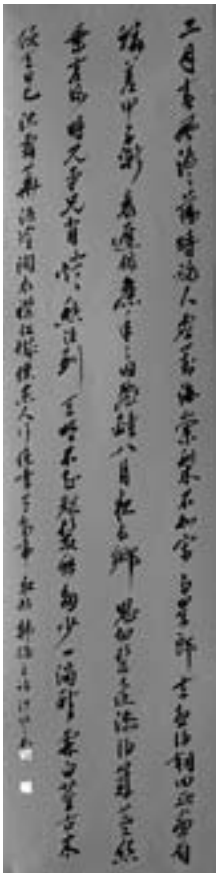


準大賞
第一部　笹本汀風

栄えある準大賞をいただき、喜びとともに身の引き締まる気持ちで一杯でございます。

これも偏に師をはじめ、諸先生方の温かいご指導、ご厚情の賜と心よりお礼申し上げます。今回の作品制作には、墨量と行間の明るさに配慮し全体に流れが出るよう、常に心がけてはいましたが、まだまだ力量不足のため思うようには書けませんでした。これからも続く課題です。受賞を励みに精進して参りたいと存じます。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。最後に、応援してくれました家族に感謝します。

〈評〉
横への振幅を抑制した大胆な作品構成、洗練された筆力が紙面に広がっている。



準大賞
第一部　四井静華

この度は思いもかけず準大賞という栄誉ある賞を頂きまして、誠に有難うございました。

今回は、今までになく字配りがうまく出来ず大変苦労しました。書き終えた自分の作品を見てみると、墨の濃淡、大小つけているつもりが揃っていたり、字形がうまくいかず四苦八苦でなかなかうまく書けませんでした。毎回のように師匠から注意される潤筆と渇筆右上がりになりすぎる癖。苦手な字も沢山ありました。こういう事を克服するよう一層臨書を学ぶことに努力をしていきますので、今後共、皆様のご指導をよろしくお願いしたいと思っています。

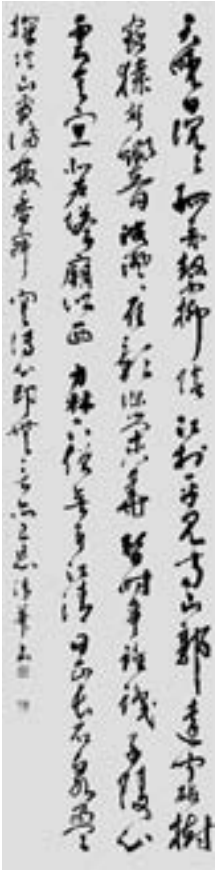
〈評〉
横への振幅をやや意識しているが、随処に配した空間が作品の爽やかさを演出している。

準大賞
第一部　佐藤清華

この度は第六十五回中日書道展におきまして、思いもかけず準大賞を賜りました事を誠に光栄に存じております。賞の喜びと共に重みをずっしりと感じつつ、今日まで書を続けられましたことを幸せに思っております。これも偏に、師、諸先生方の温かく熱心なご指導の賜と深く感謝致しております。

今回の作品制作にあたり、行間と墨量、線の変化に注意して取り組んできましたが、仲々うまく仕上げることが出来ず、未熟さを痛感しております。この度の受賞を機に更なる精進を重ねて参りたいと思います。諸先生方のご指導を心よりお願い申し上げます。

〈評〉
奇を衒わない筆法は好感がもてる。黒よりも白さが輝くこの作、気品がある。



準大賞
第一部　柴田桃花

この度、準大賞をいただきまして、大きな喜びと同時に昇格の責任の重さを痛感いたします。師の岡本苔泉先生には、贅沢な程のご指導をいただきまして、心から厚く御礼を申し上げます。また、諸先輩、同朋の方々の支えに深く感謝申し上げます。書の道に導いてくれた母への感謝の念も心に刻みます。

作品は、明治初期の大詩人高啓の詩の一節です。詩のスケールの大きさに見合った空間と線質の追求が課題です。表現の喜びを享受できる日を目標に精進したいと思います。ありがとうございました。

〈評〉
練熟した形姿に表情がある、充実した筆法の統一感とリズムが快く、明るく爽やかだ。

準大賞
第一部　鈴木葵風

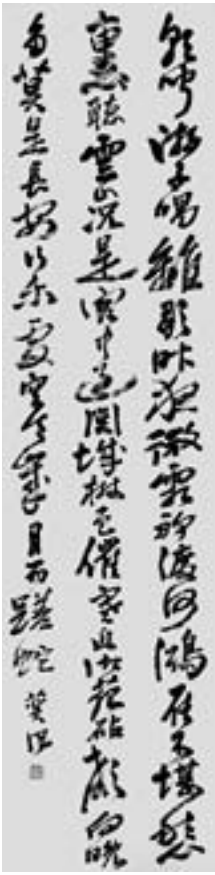
この度は、準大賞という大きな賞を頂き、身に余る栄誉に恐縮しております。

これも偏に、温かくご指導下さいました師を始め、社中の皆様方のお蔭と、深く感謝申し上げます。

作品も墨量、一つの点、線質等のむずかしさ、奥の深さを痛感しております。

今回の受賞を励みに一層精進して参りますので、今後共ご指導賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

〈評〉
鍛練された筆法に熟達を見る。自然の流れの安定した構成に奥深さがある。



準大賞
第一部　鈴木芳春

今回の準大賞受賞は、思いもかけない事で喜びと同時に、未だに信じられない気持です。今回の作品は、いつもご指摘をいただいている墨量や全体のバランスに気を配り、とにかく出品して恥ずかしくないものを、という気持ちで取り組みました。自分の書に自信がもてない時期が続いておりましたが、日々の生活に追われながらもなんとか続けることができてよかったと思います。これも偏に、今まで熱心にご指導いただいた諸先生方のお蔭と心から感謝しております。継続は力なりと申しますが、これからも地道に努力をしていきたいと思います。

〈評〉
整然とした単体五行作、字間と行間のバランスが良く、紙面を明るく大きく見せている。

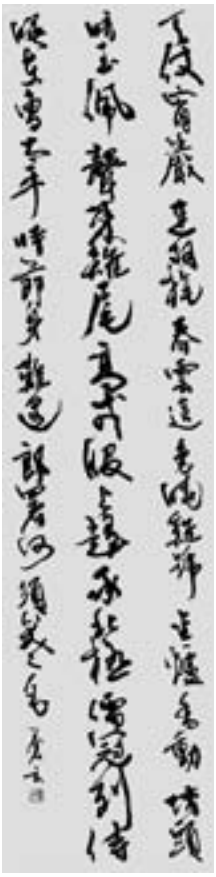
準大賞
第一部　鈴木悠水

この度は栄えある準大賞を頂き、誠に有難うございました。驚きと喜びと同時に、賞の重みを感じ、身の引きしまる思いです。
小学生の時に習い始めた書道も、結婚後は教室に通えなくなりましたが、師匠の温かいお言葉と熱心なご指導のお蔭でここまで続けることが出来ました。本当に有難うございました。
作品は、墨量と行間のバランスに気を付け練習しました。仕事・家庭・行事の合間に、一枚一枚集中して書きます。この受賞を励みに、これからも更に精進を重ねていきたいと思います。ご指導よろしくお願いします。

〈評〉
一貫した流れの律動感がよい、最後まで心の乱れなく纏めた気力あふれる作。

準大賞
第一部　関谷蒼玄

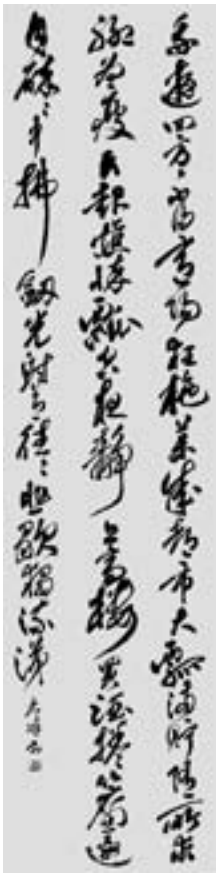
この度は身に余る賞を賜り、誠にありがとうございます。温かく熱心にご指導下さいました恩師をはじめ、諸先生方、社中の皆様、家族の支えのお蔭と心より感謝申し上げます。
今回の作品制作にあたり、墨の濃淡、字間の疎密、文字の大小、行間の余白、墨量等に配慮しながら、全体の調和をはかるよう心がけてまいりましたが、納得のいく作品には程遠く、自身の未熟さを痛感しております。
この受賞を励みに、より一層古典を学び、努力精進して参ります。今後共、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。



〈評〉
手練れた筆法のこの作、統一感のある流れのリズムと中央の行を意識した構成は効果的。

準大賞
第一部　瀬古麗峰

昨年十一月、恩師木野伯堂先生が突然亡くなられ、失意のどん底に突き落とされました。悩んだ挙句、今年二月より、松永清石先生にご指導を受ける事ができ、この度の、中日記念展での準大賞の受賞となり、喜びと感謝の気持ちで一杯です。
ほんの数ケ月ですが、書と離れて、私の生活にどれだけ大きなウェイトを占めていたかを再認識しました。書を書く喜びを感じつつ、墨量の変化、筆の遅速、線の太さの変化など工夫し、一枚でも多く書く事を心掛けたいと思います。
今後共、ご指導の程宜しくお願い致します。



〈評〉
緩急自在の筆線が軽妙に流れるそのリズムが快い。随処に出てくる大きな字が明さを演出している。

準大賞
第一部　世古口　玉扇

今まで書道を続けていて本当によかった。最高のご褒美を戴く事が出来ました。有難うございました。数多い古典の中でも特に、牛橛造像記に心ときめかせています。力強く、角ばった切れ味の鋭い筆使いで、方勢に富んでいる中にも、ふと心癒されるものを感じています。常に、ゆっくり、ゆっくり書く事に心掛けています。そして色紙にもたよりながらの作品書きでした。

「書は心なり。心正しければ、筆また正し」この言葉の意味が、しっかり身につくまで、精進していきたいと思っております。これからも尚一層、努力致します。

〈評〉
古典に立脚した造形と筆力充分の筆法に、その習熟度の高さを見る作。

準大賞
第一部　滝本白峰

この度は、思いがけぬ準大賞をいただき、未熟な私には身にあまる幸せと心から喜んでおります。これも偏に熱心にご指導下さいました師匠を始め諸先生方、先輩皆様のお蔭と深く感謝し、心より御礼申し上げます。

普段の勉強もなまけがちで、なかなか思うように筆が進まず反省するばかりです。

今回の受賞を励みに一層の努力をしてまいりたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

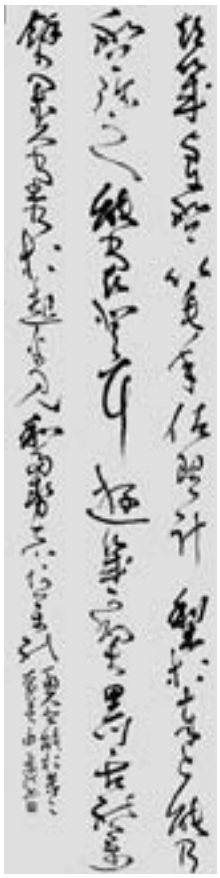
〈評〉
気負のない洗練された自然の流れの中の、衒いない平凡が非凡である。

準大賞
第一部　竹田景汀

思いもかけない準大賞のお知らせを頂き、身に余る光栄と、御礼申し上げます。偏に、師のご指導のお蔭と深く感謝しております。

良寛さんの歌を素材にして、清々しく明るく大らかな線をと心掛けています。ともすると、力のぬけた弱い線になってしまい、力量のなさ、未熟さを痛感する日々です。

作品づくりは、時間もかかり苦しい中にも墨量、余白、うねるような流れ等、教えて頂くことばかりで、楽しい時間でもあります。「行き詰った時は、基本にかえる」を心に留め、微力ながら努力していく所存ですので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



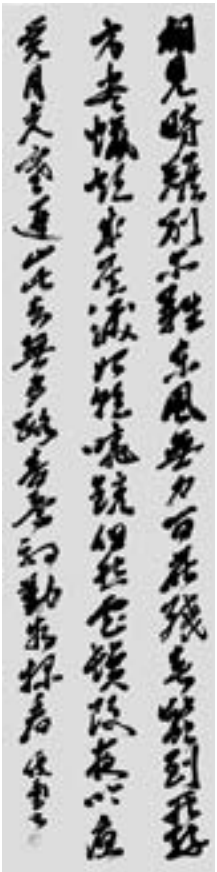
〈評〉
縦横無尽の筆の舞、潤渇と疎密の自然のリズムは心地よく、見るものを楽しませる。

準大賞
第一部　武田優璽

第六十五回中日書道展に準大賞を頂き誠に有難うございます。師匠をはじめ社中等関係者様の度々なるご指導及びご支援があってのものと深謝しております。

墨量や余白に重点を置きつつ作成しておりますが、筆意が甘く全体のバランスがまだまだ、改めて修練のなさ、未熟さを痛感したところでございます。

今回の受賞を踏まえ、賞の名に恥じぬよう自己の研鑽に努めて参りますので、今後とも一層のご指導を頂きますようよろしくお願いします。



〈評〉
重厚で墨量豊かな洗練された筆線の中に充実感を見る。最後まで一貫した気力は見事。

準大賞
第一部　田中千翠

第六十五回中日書道展において、準大賞をいただき、恩師並びに皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回初めて扇面に取り組み、その形作りから悩みました。上の方の字は大きめに、下の方の字はやさしく小さめに、字体を考えていくと、臨書とは、ほど遠くなりました。再度、基本から勉強しなくてはと思いつつ、書き上げました。青墨で仕上げましたが、濃い墨で書くことが次回の課題です。

息子と机を並べて習い始めて二十七年。まだまだ、恩師の足元にも及びませんが、楽しく〝書〟と接していければと思っております。

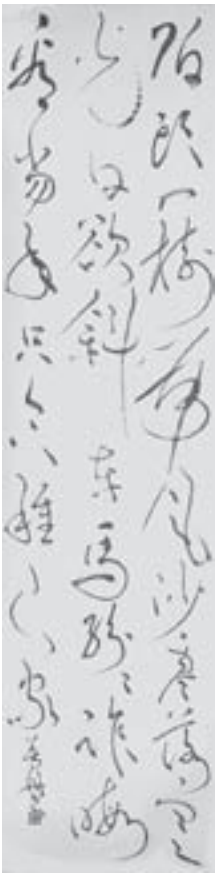
〈評〉
統一した流れで多字数を纏め上げたその手腕と気脈の充実、心技の修練の高さに敬服。

準大賞
第一部　中村美舟

この度は中日書道展において栄誉ある準大賞をいただき誠に有り難うございます。これも偏に熱心に温かくご指導くださいました師をはじめ、諸先生方のお蔭と心より厚くお礼申し上げます。

未熟な私にはまだまだ勉強しなければいけない課題が多くありますが、小さい頃から好きな書を続けられていることに感謝し初心を忘れず努力を重ねていきたいと思います。

今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



〈評〉
熟練の細線にたけた強さがある。連綿にむだがなく墨色との調和がよい。

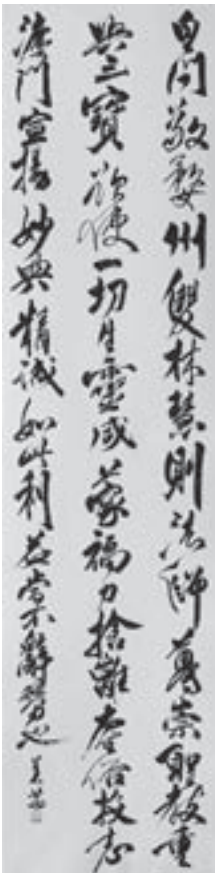
準大賞
第一部　南原宏風

二十年以上書を続けて参りましたが、思いがけず準大賞の報をいただき、これも偏に師のご指導あってのことと、感謝の気持ちで一杯でございます。毎回、余白の美しさを大切に、と思い臨んでまいりましたが、なかなか十分に表現するには至っておりません。今回賜りました賞は、新しい目標に向かって進む原動力となり、更なる精進を心に、作品作りに取り組んでまいりたいと思います。「天紙風筆書雲鶴」私の好きなこの言葉のように、おおらかで伸びやかな線を目指して、ご指導を仰ぎながら今後も学んでまいります。

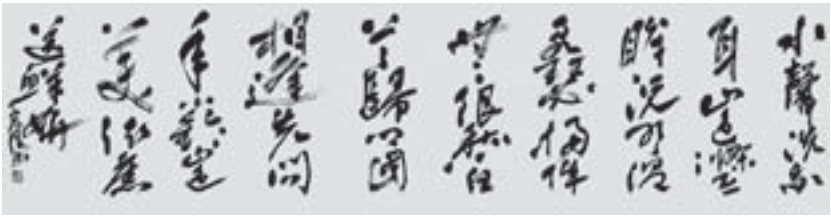
〈評〉
緩急自在の運筆と文字の大小、潤渇の見事な調和、表情のある作。

準大賞
第一部　西垣美茜

この度は、名誉ある準大賞を戴き身に余る光栄と感謝の気持ちで一杯です。熱心にご指導いただきました師をはじめ、諸先生方、社中の良き先輩方の温かいご支援そして、家族に心から感謝申し上げます。王鐸の書を学び自分なりに挑戦しつづけていますが、力強さと流麗さが出せず、悪戦苦闘の日々でした。まだまだ、未熟な私ですが、これからも古典を勉強し、この賞を励みにより一層精進してまいる所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。



〈評〉
運腕自在の軽妙な筆致、明清の筆意を得たこの作、品格がある。



準大賞
第一部　丹羽清郷

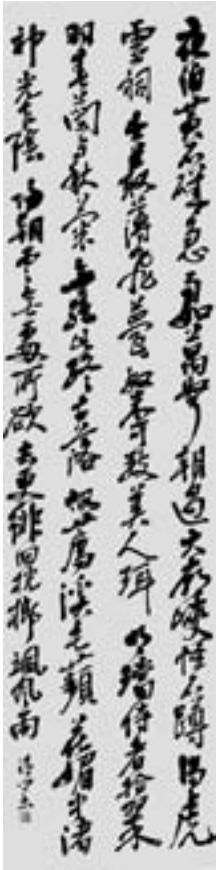
この度は、歴史ある中日書道展の準大賞を戴きましてありがとうございます。

昨年大阪に転居し、二ヶ月に一度程しか直接指導を受けられず、締め切りまでに作品が仕上がるか大変不安でしたが、師の丁寧な添削指導のおかげで賞を戴くことができました。

書の手解きをうけた亡き師、いつも応援してくれた亡き父のおかげでもあります。

たゆまぬ努力を続けておられる諸先生方、諸先輩方を見習い、私もできる限り書き続けたいと存じます。

まだまだ未熟な私ですが、これからもご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



〈評〉

墨量の変化が気負いのない軟かなタッチの作となった。懐が大きく品よく纏っている。

準大賞
第一部　馬場美風

第六十五回記念中日展におきまして、準大賞の知らせを受け、夢のような気持ちで一杯です。いつも温かく熱心にご指導下さいました先生をはじめ、諸先輩方のおかげであり、心より感謝しております。

幼い頃から書を始め、楽しい時もありましたが、なかなか思うように書けなかった時、先生方や家族の支え、理解により、ここまで続けることができました。今では子供が寝静った後、書を書く時間が私の大切な時間となっています。

この受賞を励みとして、より一層精進して参りますので、今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

〈評〉

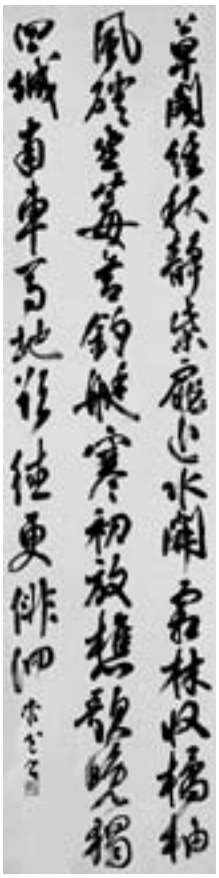
淡々とした逡巡なく進む確かな運筆、墨量豊かで単体多字数なのに爽やかなのは流石。

準大賞
第一部　早川杏花

この度六十五回記念展に準大賞という大きな賞を頂き、大変光栄に思います。これも熱心にご指導下さいました師と諸先輩方々のお蔭と深く感謝しております。

書を始めて三十数年ですが、家の事情でやめようと思った時がありました。でも苦しい時、筆を持つと心が救われ、書が生きがいになっていると気づきました。

今回は、米芾の線の力強さとおもしろさに感動して作品に取り入れようとしましたが、四苦八苦の連続でした。遅々とした歩みですが、この受賞を励みに精進して参りますので今後ともよろしくお願い申し上げます。



〈評〉

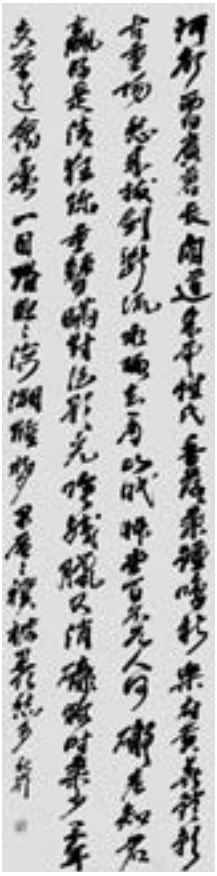
軽妙なタッチの流れに安定感がある、行の響き合いもよく格調高い作。

準大賞
第一部　藤澤秋嶺

この度は準大賞をいただき、ありがとうございます。育児、仕事に追われてなかなか思うように書けず、くじけそうになっている私を、励まし、根気よくご指導してくださった大森香鶴先生のおかげで、書道を続けることができ、準大賞をいただくことができました。

作品つくりに関しては、字の大きさを変えたり、墨量に変化をつけたりして、立体感のある作品になるよう心がけています。また、わからない文字があれば、すぐに辞書を引いて確認し、誤字のないようにしています。

力強い中にも懐のある書を目指し、これからも精進していきたいと思っております。



〈評〉

聊かの揺るぎない章法、淀みのない流れの一貫性の堂々としたこの作、練度が高い。

準大賞
第一部　藤野秀代

この度は、思いもよらぬ賞をいただき驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。

これも偏に、師匠をはじめ社中の皆様の支えがあってのことと、深く感謝しております。

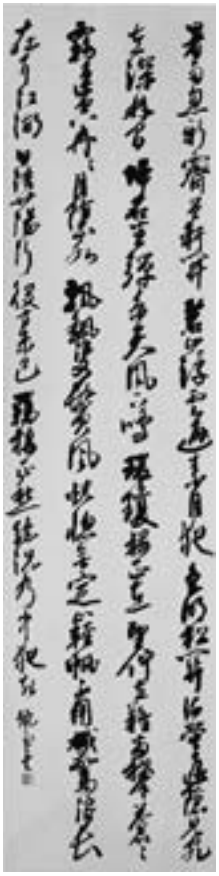
線質の強さ、行間、字間、墨量など思うように出来ず、自分自身、まだまだ未熟ですが、この賞を励みに初心を忘れず日々努力をして参りたいと思っております。

今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

〈評〉
大胆な紙面構成と自由に活動する筆線の施律が心地く調和している。

準大賞
第一部　間瀬麗雪

この度は、思いもかけない準大賞を頂き、誠に有難うございました。喜びと感謝の気持ちで一杯でございます。これも偏に今は亡き恩師をはじめ、温かくご指導いただきました師、諸先生方のご厚情の賜と、心より厚くお礼申し上げます。

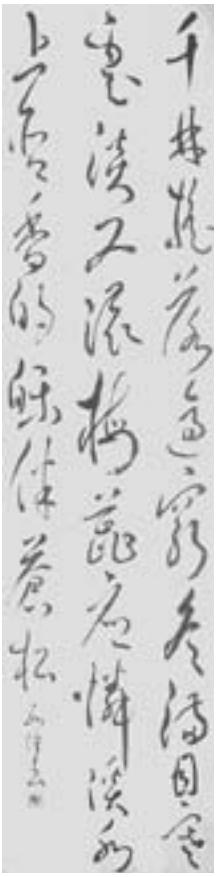


今回の作品は墨量、行の流れ、行間の余白に心を配りましたが、思うように筆が運べず力量、勉強不足を痛感しております。この受賞を機に少しでも前進できます様、努力してまいりたいと存じます。今後共、どうぞ宜しくご指導下さいますようお願い申し上げます。

〈評〉
気負いのない軟らかな運筆、墨量の変化と行間の処理が良く明るさのある作。

準大賞
第一部　松岡永律

初出品から四十年余り、長年の夢でした準大賞という栄えある賞を賜り、本当に有難うございます。これも恩師のご指導と審査にあたられた諸先生方のご厚情のお蔭と深く感謝しております。



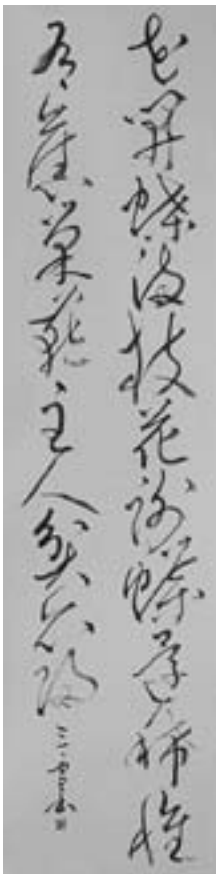
作品は、冬の寒さに堪えて春に咲く「梅」（雨森芳洲詩）を、優しく、又、芯は強く、表現しようとしました。

この受賞を励みに、豊かな表現力を会得できるよう、今まで以上に古典の勉強に、精進努力していきたいと存じます。

〈評〉
穏やかな線条の一貫した流れの中に強さを内に秘めている作。

準大賞
第一部　松下三雪

この度は、第六十五回記念中日書道展におきまして栄えある準大賞を賜り、有難うございました。これも偏に、温かくご指導下さいました師匠をはじめ、諸先生方のご厚情と深く感謝申し上げます。



作品は墨量と、文字の大きさに気を配りながら、ひと筆ひと筆線をじっくり書くことに心掛けておりましたが、勉強不足を痛感致しております。

この受賞を励みに、初心を忘れず精進してまいりたいと思っております。

〈評〉
洗練された優美な筆線により表現された形姿と構成に雅趣がある。

準大賞
第一部　松田秋芳

この度は第六十五回記念中日書道展におきまして思いがけず準大賞という栄誉ある賞を賜り驚きと共に戸惑いさえ感じています。これも偏えに今は亡き永冶秋聲先生をはじめ諸先輩先生方のご指導のお蔭と深く感謝致します。作品作りに際し師が常に言ってみえたバランス、線質、墨の濃淡等思いだしながら書きましたがなかなか思う様に書けず未熟さを痛感しています。すばらしき師、又先輩方に恵まれた事を糧に臨書をしっかりやり精進したいと思います。今後共よろしくご指導の程お願い申し上げます。

〈評〉
軽妙で小気味よいタッチの筆法が快よく響く、後二行は効果的に纏まっている。

準大賞
第一部　松本紅華

この度は準大賞を頂きありがとうございます。
今回の作品制作に限らず、私は平日は仕事に追われ、あまり書くことができません。やはり仕事と作品制作との両立は難しく、休みの日に集中して取り組むしかありません。
しかし、今回賞を頂き、まだまだ頑張れるし、もっと上達しなければならないと思いました。
これからも仕事をしながらの作品制作となりますが、なるべく時間を作り、少しでも上達するように頑張っていきたいと思います。

〈評〉
墨量の豊かさが作品の穏やかさを演出、縦への律動感が爽やかを表現している。

準大賞
第一部　光澤閑石

準大賞ありがとうございます。師匠始め多くの諸先生方、高弟の皆様の厳しい指導によってのこの度の受賞は、私の書を生活の大半としてきました人生にとりまして、この上ない喜びであります。書三昧の生活を続ける中で、さらに一層の精進を重ね無限な可能性に挑戦しなければとの思いを新たにしております。知らなかった世界が次々と広がっていく、より高いレベルの方々の貴重なご教示によって限りない刺激を受けられる喜び、中日書道会の益々の充実発展を永続される中に身を置ける幸に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

〈評〉
古典を踏まえた風趣ある形姿、横への振幅を意識した字間の密度が明るさを際立たせている。

準大賞
第一部　望月希彩

このたびは、名誉ある準大賞をいただき、身に余る光栄と感激しております。
これも偏に浅井紫峰先生をはじめ、諸先生方の熱心なご指導の賜と心よりお礼を申し上げます。
子供の時から「お習字」が好きで今まで続けてきましたが、日々の生活に追われる様になり、まとまった時間が取れない中で思う様に筆が運べず、勉強不足のままの作品となり恥ずかしく思っております。
書には、自分自身が表れてしまうとの事。この受賞を励みとし、内面も磨いてゆける様より一層精進を重ね、奥深い書の道を楽しんでいきたいと思います。
誠にありがとうございました。

〈評〉
三行二行の構成に安定感があり、字間行間の配字が広がりを見せて、余白が美しい。

準大賞
第一部　森　清湖

この度は、思いがけず、栄えある準大賞を賜り、誠にありがとうございます。これも偏に師匠はじめ諸先生方のお蔭と感謝いたします。

今年は全体を〝爽快・明るい〟作品にしたいと考え試みましたが、望む筆致とは成ってくれず、わが身の技量の拙さを重ねて痛感致しております。

書作においては「知・好・楽」を銘とし、〝ひたすら書作を楽しむこと！〟その域に近づくことは至難であると判っておりますが、それでも今回の受賞を糧に、一歩ずつ精進して参ることをお誓いいたします。

〈評〉

軽快な流れの行間は谷川のせせらぎのよう、心洗われる清々しさのある作。

準大賞
第一部　矢島秀漣

行草連綿の全体の流れを表現するため漢詩選び、書体選び、構成、墨量、余白、流れなど総合的な要素の必要性を今まで以上に感じました。今の自分の引き出しのなさを痛感しました。『創作への道標』ひとりよがりにならないための構成知識、表現テクニック等すべてが初心に帰る課題みつけになりました。

今後はより多くの古典、現代書に目を向け筆法の特徴を観察する力を養い実践に活かす。

継続で得られる書の道のいき方が「自分みつけ」となって継続の面白さを味わうことができました。最後になりましたがご指導いただきました先生に感謝申し上げます。

〈評〉

小気味よい施律の奏でる筆法と構成は、清涼感がある作となった。

準大賞
第一部　山内香霖

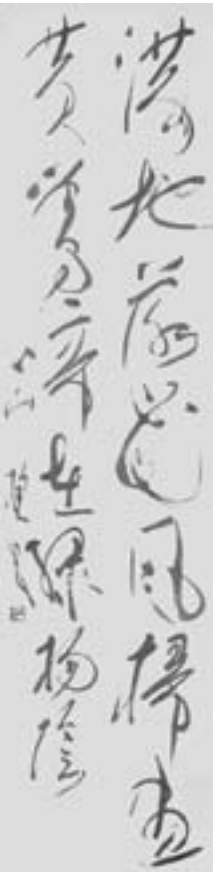
この度は身に余る栄えある賞を頂きましてありがとうございました。ご指導下さいます師をはじめ、諸先生方や書友の皆様のお蔭と心より感謝しております。作品制作にあたっては、墨の潤渇に気を配り、流れる様な線の動きを意識しつつ書作しておりましたが時には力が入りすぎたりと反省の連続でした。そんな中でも今回の作品はリズミカルに楽しんで書けた一枚と思いましたがまだまだ勉強不足で書の奥深さを痛感しております。今回の受賞に恥じないように、これからも一層努力し精進して参りたいと思います。

〈評〉

練熟の筆致、洗練された堅実な用筆の妙、一貫した流れに潤いと気品がある。

準大賞
第一部　山内山抱

この度は第六十五回中日書道展におきまして、名誉ある準大賞を頂き、喜びと共に賞の重みに身の引き締まる思いをいたしております。幼少よりご指導下さいました恩師をはじめ諸先生方のはげましのお蔭と心より感謝いたしております。なかなか自分の思うように書く事が出来ず納得の作品が仕上がらず自分の未熟さを自覚しましたが、頂いた賞をはげみに、大好きな書道を続けられる環境に感謝しつつ、色々な作品に挑戦し、楽しみながら勉強し自分らしい書の道を歩んでいきたいと思います。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



〈評〉

意のままに躍動する線条、大胆な筆の開閉が立体感を表現している。

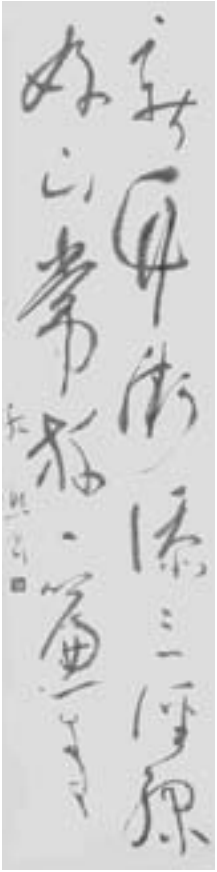
準大賞
第一部　山口蕙世

この度は、思いがけぬ受賞に、喜びと身の引き締まる思いです。ご指導下さいました師匠、会の先生方のお蔭です。今後共、ご指導を宜しくお願い致します。今回の作品も書く度に、墨量、行間、文字の大小となかなか納得のいく作品にならず、力不足を痛感します。五歳から書を始め、マイペースで続けてきましたが、今回の受賞は、これから頑張るようにと頂けたと思いますので、精進して参ります。私の子供も五歳になり、こんな頃から始めたのだと思う事があるのですが、好きな書を続けられるのも師匠、先生方、親、家族の支えだと思いますので、感謝致しております。

〈評〉
重厚で深みのある強靱な筆線、北魏の書法の習熟度が高く紙面を圧している。

準大賞
第一部　山田紅照

思いもよらぬ受賞の知らせに嬉しさよりも驚きが大きく、受け取った時の緊張と興奮は今となっても忘れる事ができません。会主催の錬成会にて、時だけが過ぎ、焦りの中、何とか仕上げた時には想像し得ない事でした。



遥か彼方にあった夢が現実となった今、賞の重みに身の引き締まる思いで一杯です。
これも偏に、今は亡き恩師を始め、社中の諸先生方の熱心なご指導や温かい励ましのおかげと、心より感謝申し上げます。
この度の栄誉を励みにこれからも勉強を続けて参ります。今後とも、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
力を内に蔵した温雅な筆致、墨色と紙面と調和よく格調高い作。

準大賞
第一部　山本光慶

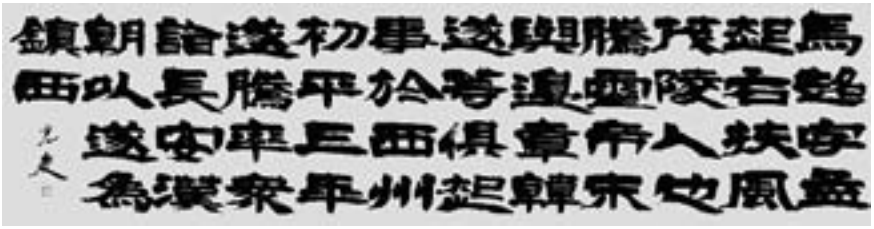
この度、大変栄誉な賞をいただき、ありがとうございます。
私は書作品を作り上げていく時に、その詩文にある物語・意味を考察しながら筆を走らせております。そのため、今年度の作品でも私個人の趣味でもありますが、三国志の時代から詩文を選定し、三国志の物語を念頭に作品つくりを行いました。書への勉学は、素晴らしき師と、書への熱き情熱をもつ友人が近くにいる大変恵まれた環境の下、技法・歴史・文化を学んでおります。また、自らも様々な書作品を比較・検討し、技法をとりいれようと試みております。
今後とも、より良き作品つくりに邁進していきたいと考えています。

〈評〉
力感あふれる豊潤で重厚な用筆に、古典の習熟を見る、スケールの大きな作。

準大賞
第一部　山田青舫

この度は思いもかけず、栄誉ある賞を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。師をはじめ諸先生、諸先輩方のご指導ご支援の賜と心より深く御礼申し上げます。
作品を書くにあたっては、墨量、線の切れ、つながり等試行錯誤を繰り返しながら書いていますが、中々思うようにいかず、出来上がった作品を見ると欠点が目について反省することばかり、自分の未熟さを痛感しています。
今回の受賞を励みとして、この奥深い書の道を一歩一歩進んで行きたいと思います。
今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

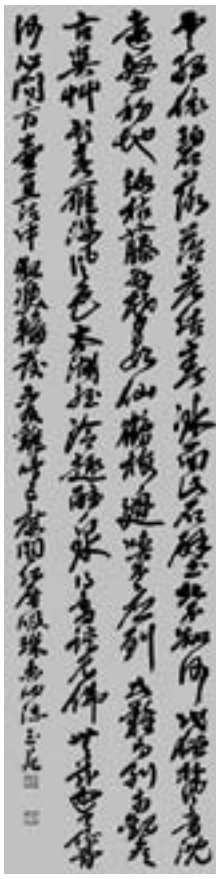
〈評〉
軽妙に緩急を駆使した熟練度の高い筆致、配字、潤渇の妙、実に清々しい作。



準大賞
第一部　渡辺玉苑

この度は第六十五回記念展におきまして、栄誉ある準大賞を戴き誠に有難うございました。私にとって夢にも思わなかった事であり、信じられず身に余る光栄と喜びの気持でいっぱいです。ご指導下さいました先生はじめ、励まし合った書友の皆様のお蔭と感謝しております。

作品は、日頃勉強している呉昌碩を、多墨で大胆に書き上げたいと心がけ、書き上げました。今回の受賞を、私の一生の宝物とし、今後も「書」と向き合っていきたいと思います。



〈評〉
密度ある構成のこの作、行間の響き合いと統一感のあるリズムが快よく爽やかに纏っている。

準大賞
第二部　今枝節峰

風薫る皐月、思いがけない準大賞受賞の吉報を頂き、感激の余り心が熱く感慨に浸りました。念願成就できました事、これも偏に、山本雅月先生始め、清水春蘭先生の温かく優しく手厚いご教示のお蔭と深く感謝申し上げます。作品は、和歌（周防内侍、曽根好忠）二首、上下二段の二部構成、行の流れ、空間の美、線の響き合い、渇筆、動きある見せ場表現に試行錯誤致しました。古典を基に、かなの持つ流麗な線質の美、創作研究と深遠なる書美の探究を重ねて参りたいと存じます。何卒、一層のご指導賜わりますよう心よりお願い申し上げます。

〈評〉
春を想わせる明るい料紙に力強い線で軽快な筆致でまとめあげている点はみごとである。

準大賞
第二部　大江峯子

この度は、栄えある準大賞を戴き誠に有難うございます。これも偏にご指導下さいました師をはじめ諸先輩、社中の皆様のお蔭と心より感謝申し上げます。日頃より線質の甘さを指摘され己の力不足を痛感しております。今回、納得のいく紙が見つけられず結局持ち合わせの古い紙で書くことに又過去四首書いていましたが今回は三首と少し行間も広くなりました。

この賞を励みに改めて古筆に学び一層の努力を重ねて参りたいと思います。今後共よろしくご指導賜わりますようお願い申し上げます。有難うございました。

〈評〉
淡々とした筆致の魅力と、行頭・行脚のなだらかな変化が、地味で安定感のある作品になっている。

準大賞
第二部　大谷素子

この度は第六十五回中日書道展において、準大賞を賜り誠にありがとうございました。

創作力、実力にも乏しい私には身に余る光栄であり、夢のようです。日頃から中日書道展、西三支部展、研究会などに参加し、ご指導をいただきながら、勉強させていただいたお蔭と感謝しております。かなの美しさに魅せられていろはのいの字から勉強し、併行して漢字の楷書、行書、草書、臨書と書の基本を社中の月例で学びました。その中で、文学、音楽、美術、スポーツなど書だけの世界ではなく大きな世界、豊かな心象を感じております。

〈評〉
茶色に加工した羅紋箋を使用して、バネの利いた深味のある用筆で流暢にまとめあげた秀作。

準大賞
第二部　熊崎北咏

第六十五回中日書道展にて栄えある準大賞を頂き、誠に有難うございました。

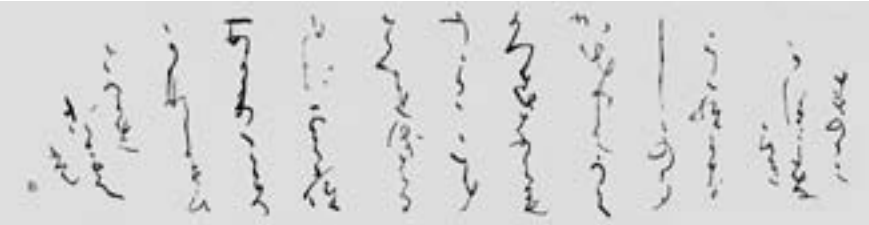
思いますと三人の親を見送りましてから遅いスタートでございました。自分なりに、師の教えを一生懸命勉強し、今日ここまで来られ唯々感謝のみでございます。

審査にあたられました諸先生方のそして社中の恩師、皆様にも心よりお礼を申し上げます。作品は久しぶりの中字で、なか〳〵思う様に構成ができませず、勉強不足を痛感しています。今回の受賞を励みとして、尚一層精進を続けて参りたいと思っております。

今後共ご指導をお願い申し上げます。

〈評〉

練度の高い渋い線が美しく、墨の潤渇を巧みに使ってほのぼのとした温かみのある魅力的作品である。



準大賞
第二部　服部美枝子

この度は、第六十五回記念中日展において「準大賞」を賜り、偏に黒野清宇先生、恵子先生をはじめ諸先生方のご指導のお蔭と深く感謝しております。有り難うございました。

出品した作品は、定家の歌で三枚半の細字で仕上げましたが、墨の量の変化や墨の潤渇、線の強弱等が自然な感じになる様心掛けましたが、「メリハリ」があり「キレ」のある線が思うように書けず、大変苦労しました。

今後は、さらに古典の勉強をして、少しでも良い作品が書ける様に、精進して参ります。

今後共ご指導よろしくお願い申し上げます。

〈評〉

古筆の取りくみの深さを感じさせる安定感と格調の高さをうかがわせるみごとな作品である。

準大賞
第二部　水野さと子

この度は、思いがけなく準大賞を賜りありがとうございました。驚きと感謝と同時に身のひき締まる思いでございます。これも偏に温かくご指導下さいました師をはじめ、諸先生方のご厚情によるものと心より厚くお礼申し上げます。

墨色、行の流れ、空間など考慮し努力いたしましたが日頃の勉強不足を痛感するばかりです。

今回の受賞を励みに、さらに精進してまいる所存でございます。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〈評〉

筆圧を利かせた用筆から生まれる流麗な線が魅力的な作品。山場が中央部にあるのも斬新な感を受ける。

準大賞
第二部　宮原玲舟

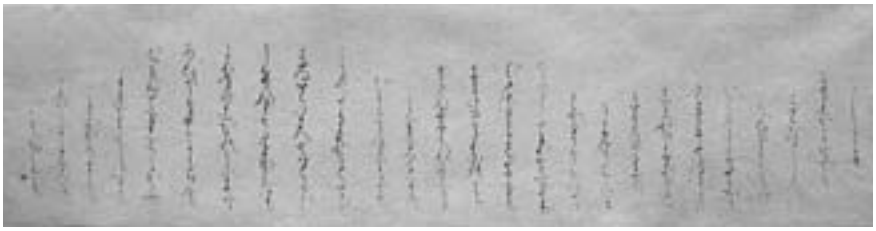
この度は、栄えある準大賞を賜りまして誠に有難うございました。これも偏にご指導下さいます師匠をはじめ諸先輩、書友の皆様方のお蔭と深く感謝しております。

今回、若山牧水のうた七首を、常々指摘されていますスピード、墨の濃淡、墨量、行間等、気をつけながら取り組みましたが料紙に助けられての受賞で、力不足を痛感しています。

終りのない書の道、今回の受賞を励みに、そして家族の協力により書を学ぶ事の出来る幸せを感じながら尚一層精進致したく存じます。ありがとうございました。

〈評〉

熟練した優美で力強い線とたたみかける行のうねりに充実感を感ずる作品である。

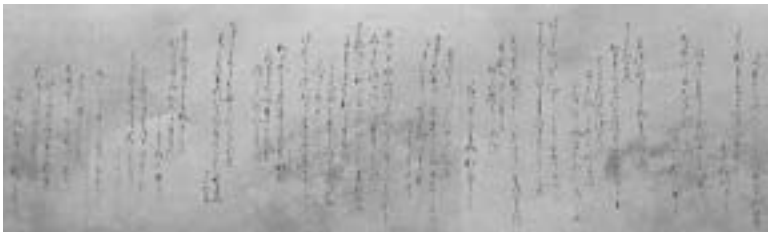


準大賞
第二部　森　千鶴子

かな文字に魅せられて教室に通い始め、古筆の臨書を一帖に三～四年かけて勉強し、倣書の作品づくりに取り組んできましたが、実際には習う程に、古筆の持つ気品を倣書の中に表わせるまでにかなりの年月を要することがわかってきました。そのため臨書と倣書を繰り返し習っているうちに、少しづつ創作への道が見えてくると思うようになりました。

散らしの構成、余白の美、空間の形、墨色の濃淡、運筆のリズム感など、変化と調和のとれた作品づくりに努めました。今回の準大賞受賞は身に余る光栄と存じます。ご指導いただいた山本雅月先生に感謝しております。

〈評〉
古筆をよくマスターした練度の高い線質で、手の込んだ花柄を模した黄土色の料紙に格調高く表現した作品。



準大賞
第二部　森川松恵

この度は栄えある準大賞の吉報を頂き厚く御礼申し上げます。

これも偏にご指導をいただいておりますわが師匠はじめ、社中の皆様方のお蔭と心より深く感謝いたしております。

単調な線と表現の乏しさを補いたく、墨色の変化、流れの変化など雰囲気と調和に心がけてみましたが、まだまだ力不足を痛感するばかりです。この受賞を励みに一歩一歩前進していきたいと思います。

今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
墨量の変化を巧みに表現する中で、ゆったりとしたリズム感あふれる大字かな作品である。

準大賞
第三部　秋松秀玲

この度は、身に余る準大賞を賜り誠に有難うございます。永年の我師の厳しくも楽しい指導の賜と感謝致します。又力量不足の私が継続できましたのは、書友、先輩と一緒に学べたお蔭と思います。最近の書作は、古典から近代詩文書への創作の道は如何にと、試行錯誤の時間を楽しんでいます。書く程に不満、悩み多いのが書の稽古でしたが、時々楽しく筆が動く時、嬉しく、感動し、書を続けて良かったと思います。書の深さ楽しさを学ぶ機会を沢山与えて下さいます師の下で、長く学べましたら幸いです。今後共ご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

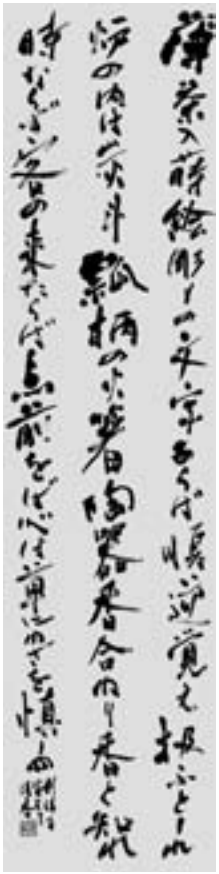
〈評〉
藍（あい）の美しさに魅せられたかシンプルな表現が一際冴える。長鋒の利を活かした細線に妙味あり。

準大賞
第三部　荒川清香

「何を書いてもいいから、自分で書いてみなさい。作品になるようにアドバイスはするから……」と先生から言われました。けれど、何を書いたらいいかわからず困ってしまいました。書く詩を決めるまでは不安と焦りでした。本を読んでいても、内容よりここなら作品になるだろうかと、そんなことばかり考えてしまいました。漢字と仮名の調和を考えて作品に仕上げることの難しさを痛感しました。

力不足の私を、根気よくご指導くださった先生に感謝するとともに、これからも精進していきたいと思います。

〈評〉
躊躇（ちゅうちょ）なく筆が走り連続模様を見るような小気味の良い造型を展開させる一貫した手腕は確かなもの。



準大賞
第三部　齋藤翠苑

此度準大賞をいただき驚きと喜びでいっぱいでございます。ありがとうございました。

二十年程前、仕事を終え苦手な事に挑戦してみようと近くの書道教室の門を叩きました。幸運にもそれが大島緑水先生との出会でした。ご親切なご指導の下、必死に今日まで続けてこられたのは偏に先生のお蔭と心より感謝致しております。先生は常に線質の良さを強調されます。作品にはその事を心掛け作成致しました。私はようやく書く楽しさを知り始めた未熟者です。今後尚一層の努力をして、思う存分「書」の楽しさ喜びを味わえるようになりたいと思っております。

〈評〉
細線の使いどころが的を得て大胆な文字造型を明るく包んでくれる。大小の混交も非凡の技だ。

準大賞
第三部　大塚裕子

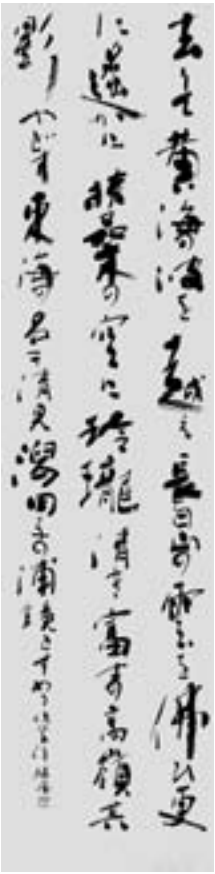
この度は、思いも依らぬ準大賞を戴き誠に有難うございました。これも偏に、ご指導下さいました師匠をはじめ、諸先輩のお蔭と心より感謝申し上げます。

師のご指導により創作に取り組む事で、文字が、詩文が、書き手によって様々な動きをし、美しく変化していく事に改めて気付かされ、近代詩文の奥深さ、面白さを実感致しております。まだまだ力不足ではありますが、楽しみを見つけた今、精進を重ねて参りたいと思います。今後ともご指導賜ります様、お願い申し上げます。

〈評〉
大胆さがあって且つ実に爽やかで見応え充分な作。筆線練れて自在に変化し感興尽きない作。

準大賞
第三部　佐藤緑風

この度は栄えある準大賞を頂き誠に有り難うございました。これも偏にここまで導いていただいた故人である恩師と社中の先生方、書友の皆様、また家族の温かい励ましと理解のお蔭と心より感謝申し上げます。



今回の作品は、出来る限り気負わず、軽やかなリズムに乗り運筆し、明るい雰囲気を紙面に漂わせてみたいと願い書き上げました。まだまだ満足のいく作品になっておりませんが、今後は、この賞を励みに感謝の気持ちを忘れず精進してまいりたいと思います。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

〈評〉
清涼の風吹きぬける感あり、多彩を求めず素朴を心に置いた独自の作風は群書の中で特色あり。

準大賞
第三部　式守白萩

この度は、第六十五回記念中日書道展におきまして準大賞という栄えある賞をいただきありがとうございました。これも幼き頃よりご指導いただきました玉樹先生を始め、諸先生方のお蔭と深く感謝いたします。まだまだ未熟な私にとりましては賞の重みに身が引き締まる思いです。自分の頭で思い描く作品とは違い、思い通りにならなく挫折しかけていた私を温かく見守りご指導いただき、この受賞を共に喜んでいただいたことが一番うれしく思っております。今後共、この賞に恥じぬよう精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

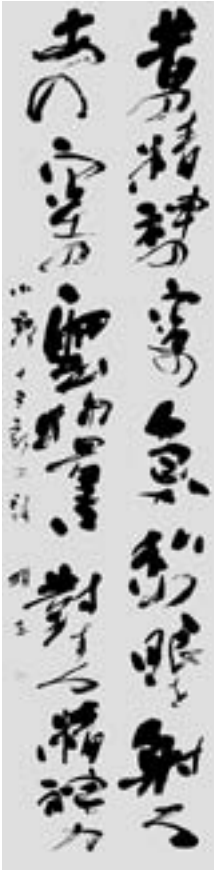
〈評〉
ふくらみある温潤な線の持ち主だ。気負わずじっくりと味わいで勝負する悠揚迫らぬ気分だ

準大賞
第三部　重見梢玉

受賞の知らせを頂き、嬉しさは勿論ですが驚きの方が遥かに大きく、未だ戸惑っています。というのも普段からの姿勢としても短期集中型ではありますが、今回の出品は本当に駆足での制作だったからです。

制作の際には、スピードの緩急や作品が大きく立体的に見えるように墨量に特に気をつけます。墨量に拘らずいかに筆を開けるかが課題です。また偶然の出来に頼る事なく、意図して魅力ある作品を創れるようになることが今後の目標です。

最後になりましたが、今回評価して下さった先生方、また指導して下さっている先生方に感謝とお礼を申し上げます。



〈評〉
重厚な線が充分紙背に達し又時には軽やかに宙を舞う。その間合いは実に絶妙のタイミングだ。

準大賞
第三部　谷利紫鳳

この度、栄えある準大賞を賜り誠に有難うございました。賞の喜びと共に賞の重さを痛感しております。

これも偏に師匠をはじめ、熱心にご指導下さる代表、諸先生方、社中の皆様、そして審査に当たって下さいました諸先生方のお蔭と深く感謝申し上げます。

作品は、流動性と立体感を意識しながら書作しましたが、まだまだ課題は多く書の奥深さを実感しております。この賞を糧に「書は人なり」の言葉の如く少しでも魅力ある作品を目指して精進して参ります。

今後共ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

〈評〉
超長鋒をよく心得てスピード感溢れ思わず目が醒める明快作だ。造型にも楽しげな動きあり。

準大賞
第三部　寺澤景星

この度は準大賞という名誉ある賞をいただき大変うれしく感激しております。ありがとうございました。

長きに渡る仁田脇先生のご指導のおかげです。

母を想う小島なおさんのこの歌を、私も自分の母への気持ちを胸に、これまで何度か作品にしようと試み、ようやく仕上がったのが今回の受賞作です。制作においては自分を型にはめず、様々なスタイルにチャレンジするようにしています。うまくいかないことも多いですが、これからもこつこつ努力を積み重ねていこうと思います。今後とも、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

〈評〉
行間にゆとりを持たせたのが横長サイズに効果をプラスした。屈託のない広々したさまが良い。

準大賞
第三部　對馬紫邑

この度、第六十五回中日書道展におきまして、栄誉ある準大賞を頂き有難うございました。喜びと共に賞への重みを感じ心引き締まる思いです。この賞を頂けたのは、偏に師の丁寧なご指導と社中の方々、そして家族の支えと、深く感謝しております。

筆を動かす速度、墨量から出せる美しさなど、古典を学ぶ大切さを思い知らされながら書の奥深さを感じております。一定のリズムと繊細さを出せればと思いながら筆を動かしました。この賞を励みに、更に貪欲に書に向き合いたいと思います。これからもご指導の程、宜しく申し上げます。

〈評〉
ためらいのない運筆で貫通し、明朗で調和も佳なり。更に二段のスケールアップを期待する。

準大賞
第三部　丹羽彩霞

この度、記念すべき第六十五回記念中日書道展におきまして、準大賞を賜り誠に有難うございました。これも偏に師　加藤裕先生、後藤啓太先生の的確な助言と熱いご指導のお蔭と深く感謝しております。

今回の作品は、田中冬二の詩文を縦の流れを基調に、自然なリズムで運筆し、三行の余白を生かせればと取り組みました。

まだまだ技量不足の私ですが、これからも書に対する情熱を燃し続け、感動を与える作品を窮める為、古典の探究を積み重ね精進して参りたいと思います。今後とも、ご指導の程よろしくお願い致します。

〈評〉
古典練磨の手腕が筆線の深さとなり沈潜の作風に本格調の高度を見せる。気脈の貫通また見事。

準大賞
第三部　花井清水

準大賞という身に余る賞を頂戴し心よりお礼を申しあげます。作品は、ベネズエラ大使が赴任時に黄金色に染まった銀杏並木の印象を書かれた文章です。今回は真四角の用紙に強弱、墨量、余白について考えながら作品づくりをしました。まだまだ「良い作品」には程遠く反省ばかりが残りました。今後は、更に精進致しますので、よろしくご指導くださいますようお願い申しあげます。

最後になりましたが、書道にお導き頂きご指導くださいました師匠、先輩、仲良く切磋琢磨し合える会友の皆様、そして温かく見守ってくれる家族に感謝します。

〈評〉
気持を充分遊ばせ自在な筆の開閉が広がりある造型につながった。詩情をよく謳歌した感。

準大賞
第三部　伴晋水

「七十の手習い」でもと思い、平成八年四月、師黒田玄夏先生の門下生となって十九年余、今回思いもよらぬ「準大賞」と云う大きな賞を頂き、身に余る光栄に感謝の気持ちと喜びで一杯です。心から御礼申し上げます。

今回は長文の詩に挑戦した為、一、全文の暗記に確り時間を費いやした。二、最後まで筆勢が落ちないよう体力気力の充実に努めた。の二点に注力しました。

書は「人柄を表す」と云われています。これからも　師黒田玄夏先生の下で、書に精進したいと思っています。今後共よろしくご指導の程お願い申し上げます。

〈評〉
多様な筆線をよく組み込んで落ちついた構成の中に華やかさがある。肩の力を抜いたのが奏功。

準大賞
第三部　廣澤光雪

この度は中日書道展におきまして栄誉ある準大賞を賜り誠に有難うございます。受賞の一報から時間が経つにつれ、賞の重みと驚きで身の引き締まる思いでおります。これも偏に熱心にご指導して下さった師匠のおかげと深く感謝しております。今回の作品は、力強さをテーマに初めて大字作品に取り組んでみましたが、要となる大字の全体のバランスや潤渇、小字の流れ等、思う様に仕上がらず大変苦労致しました。今後は今回の受賞を励みとし、一層精進して参りたいと思いますので更なるご指導の程宜しくお願い致します。

〈評〉
堂々四文字で真っ向勝負をした気勢が動となり、覇気溢れる作となった。細字の流れも佳なり。

準大賞
第三部　福谷紅華

この度は、準大賞という身に余る賞を戴き大変感激しております。

亡き加藤大碩先生、いつも温かくご指導くださる加藤裕先生をはじめ諸先生方に心より感謝申しあげます誠に有難うございました。

今回は題材がなかなか決まらず、あせり出した頃、たまたま見た景色にとても感動しそのまま感じた事を作品にいたしました。出来はさておき夢中で楽しく取り組むことができました。課題である「ハッとする線」を出せるように益々努力精進して参る所存でございます。これまで以上のご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申しあげます。

〈評〉
可憐という言葉が出てくる、実に可憐にふさわしいセンスの持ち主だ。跳んでいる舞っている。

準大賞
第三部　吉田香雪

この度は、思いもかけず準大賞を頂き有難うございました。驚きと喜びと同時に身の引き締まる思いでございます。これも偏にわが師をはじめ、諸先生方、諸先輩、社中の皆様の励ましあってのことと心から感謝申し上げます。今回は、久しぶりの三行書。何枚か書くも行間がすっきりせず、頭の中で考えずに自然体で書こうと思い、書作した中の一枚が今回の作品です。受賞の重みを心にとめ、一層精進して参ります。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〈評〉
行立ての骨格が安定しキレのある線質が美を構築する。書の要素をよく極めた成果であろう。

準大賞
第三部　水野美千

「郵便です」との声で玄関先にでたものの何の知らせかピンとこなかった私。思いがけないプレゼントでした。ご指導くださった先生、そしていつも刺激をくださる社中の皆様に感謝です。ありがとうございます。

この作品は、最初からずっと候補として残っていたものです。今回はいつもより少し書いたのですが…思い返してみると、最初は何も思わず、ふわっとした気分で書いていたと思います。しかし、ここをこう書こうとかこうしようとか、作為的に走りすぎていったように感じます。だから軽く楽しい気分は、とうに忘れてしまっていました。まだまだ腕も心も磨かねばなりません。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

〈評〉
奔放に筆を駆使し多彩な線を表現した。潤渇のほど良い交錯が巧みに響き合い一体感となった。

準大賞
第四部　近藤宏子

この度は、栄えある賞を戴き誠に有難うございました。書の道を長く続けられる様に厳しく、又温かく指導してくださった先生、諸先輩方、社中の仲間の皆様のお蔭と深く感謝しております。

常日頃、古典の勉強で、線質の力強さや美しさなど指導していただいていますが、作品づくりになかなか生かせません。今回の飄では、肩の力を抜き、日頃の学習の成果が現われるように心を込めて書きました。

この受賞を機として一層努力、精進して参りたいと思います。今後ともご指導賜りますよう御願い申し上げます。

〈評〉
墨を十分に含み、気負いなく余白も美しい。筆の表裏と共にバランスを保ち、表情豊かで絶妙な傑作。

準大賞
第四部　角谷弘子

この度は、思いがけず準大賞を受賞し、身に余る光栄だと感謝しております。これも、ひとえに私を今まで温かく、また熱心に指導して下さった井野吟紅先生、故戸田提山先生、愛知県独立書人団の諸先生方のおかげだと思っております。有難うございました。幸いにも家族の理解や支えがあって、ここまで続ける事もできたと思います。これからもコツコツと古典の山を学び、賞に恥じぬ様努力してまいりたいと思います。紙に向う時、体力・気力を充実させ集中するには苦労もしますが、人の心へ自然に響く作品が書ける様、ひたすら追求していきたいと思います。

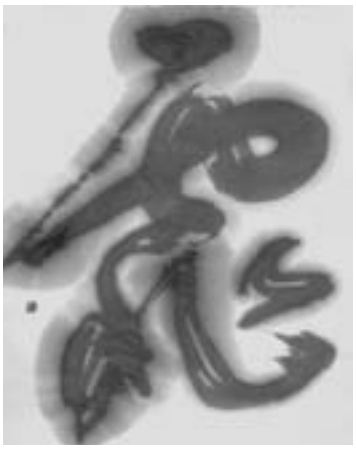
〈評〉
筆の開閉、用筆の技の高さが線質に現われ、構成も安定し、平素の勉強の成果が出ている。

準大賞
第四部　都築心扇

この度は、栄えある準大賞を賜りまして、誠にありがとうございました。

「霏」は春の雨、草木を潤す恵みの雨、時には大地を激しく打ちつける雨、又ある時は優しくしとしとと降る雨、雨で遠くの山々が霞んで見えるなどを思い、心にえがいて書きました。自然にふれ、親しみながら、手中に積み重ねた古典に従い、墨や筆と戯れ、楽しく紙面を押えてみました。

今後も先輩、仲間の皆様のご指導を賜り、なお一層努力していきたいと肝に銘じた次第でございます。宜しくお願い申し上げます。

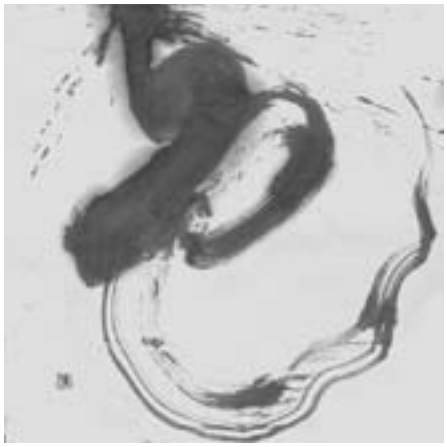


〈評〉
墨量は十分で、重厚沈潜の中全体に、豊かな情感が溢れ、構成も不安定の安定を表現しての決作。

準大賞
第四部　半田博子

この度は準大賞をいただきまして誠に有難うございました。師匠はじめ愛知独立書人団の先生方に深く御礼を申し上げます。

今回の作品「色」はこの字の意味より余白を大事にし、色いろな線質を用いようと試みました。日頃、古典の臨書の時、大事にしていることは筆使いです。突く、引く、捻る、吊る、叩く、八面出鋒を心掛けています。「色」はこれに感情の変化を加えて制作しました。これからも古典の臨書を大切にして頑張りますので、宜しくお願い申し上げます。



〈評〉
ふくよかな愛のある書線で、温もりを感じ、自然の流れの変化の中、自由に動き紙面を押えている。

準大賞
第五部　浅野春泉

このたびは、栄ある準大賞をいただき、心より感謝申し上げます。

この様な賞をいただけましたのも、長年根気よく導いてくださった師のおかげです。

平成元年、書を習っていた私が、自分で落款を作りたいと思い先生の門をたたきました。それが篆刻との出逢いです。不勉強な私が、賞をいただけたのは、更なる努力、精進せよとの詞と感じております。これを励みに、今後も傾注、精進してまいりたいと思います。

〈評〉
漢印を基調にし、加えて刀痕の妙味による全体のバランスが安定感ある作となる。

準大賞
第五部　真田九龍

この度は栄ある準大賞を賜り、身のひきしまる思いでございます。これも偏に師匠をはじめ社中諸先輩方々のご指導のたまものと感謝しております。

古典の模刻が最もよい学習法だとの師の言葉から呉昌碩、徐三庚、趙之謙などの印譜を参考課題としてとりくんでまいりました。

しかしながら磨きぬかれた線の直曲、一刀の大胆さ、朱の重みを体得するのは容易ではなく学習の大切さを思いしらされています。

これからも諸先生方の学ぶ姿勢をくみとりながら一層精神したいと思います。今後ともご指導の程お願い申し上げます。

〈評〉
秦印を倣い三法を基準にした多字印の作、僅かな朱色がより美しい作となりました。

準大賞
第五部　為水剛

栄えある準大賞を戴き有難度うございました。これも偏に熱心にご指導下さっている師のおかげと感謝申し上げます。退社を機にそれ迄憧れだけの世界であった芸術（絵画・書）を学びたいと文化センター等に通っていましたが二〇〇五年五月に師にめぐり会い方寸の世界に引きこまれこの道の奥深さを痛感している昨今です。身の程を弁えながら、又或る時は都合よくそれを忘れて自分なりの世界が少しでも広がる事を念じつゝ、頑張っていきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願いします。

〈評〉
鐘鼎文字、臼文朱文の二印に側款拓を加え、字形、全体の流暢な線で良作となりました。

準大賞
第五部　永谷加代子

第六十五回記念中日書道展において準大賞の吉報をいただき夢を見ているようでございます。師磯貝弘子先生の温かいご指導のもと、浅学非才な私が今日まで篆刻を続けてこれましたことを感謝いたしています。また関係者のみなさまに厚くお礼申し上げます。方寸の世界は奥深く楽しくもあります。印文は教えでありたいと願う孔子語「徳不孤必有隣」から引用、西周金石文字にて刻し白文作品の難しさを痛感いたしております。〝一生稽古〟〝継続は力なり〟をモットーとして至福の時を味わいたく願っています。ありがとうございました。

〈評〉
回線を内にそらした妙味に多字二行が絡み合い異質な変化がより造形が面白く美しい作品となった。

準大賞（２部～５部）　受賞者

中日賞・桜花賞（１部）　受賞者

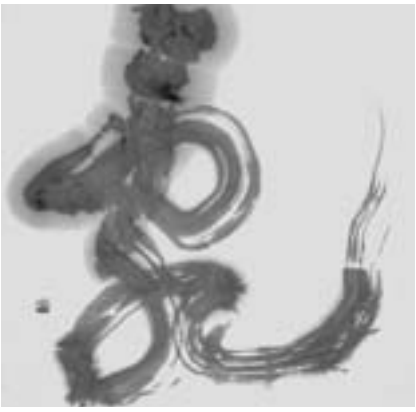
中日賞・桜花賞（２部～５部）　受賞者

中日賞

第一部　中日賞　家田翠径

第二部　中日賞　加藤裕子

第三部　中日賞　中島周子



第四部　中日賞　伊藤井翠

第五部　中日賞　久保伯甫

桜花賞

第一部　桜花賞　伊藤紫風

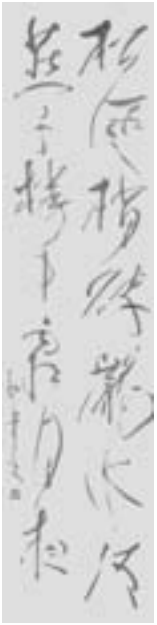
第一部　桜花賞　井上紅鳳

第一部　桜花賞　上田玉鳳

第一部　桜花賞　臼井桃園

第一部　桜花賞　柴田松筠

第一部　桜花賞　内川昌子

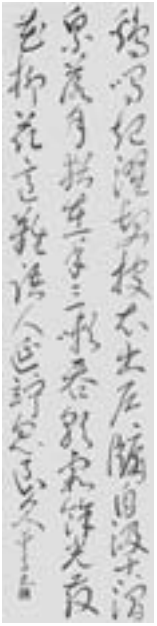


第一部　桜花賞　内出紅華

第一部　桜花賞　榎田瓊翠

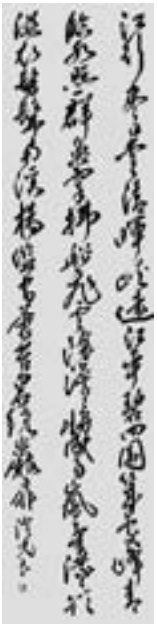
第一部　桜花賞　大場敏充

第一部　桜花賞　大山雅峰



第一部　桜花賞　岡田愛子

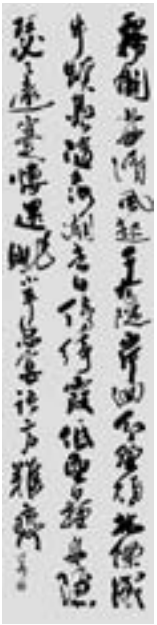
第一部　桜花賞　岡本虹園



第一部　桜花賞　小川澄光

第一部　桜花賞　小幡如雪

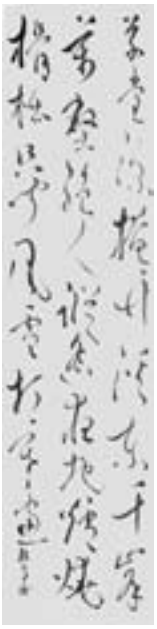
第一部　桜花賞　垣東翠照



第一部　桜花賞　掛布江華

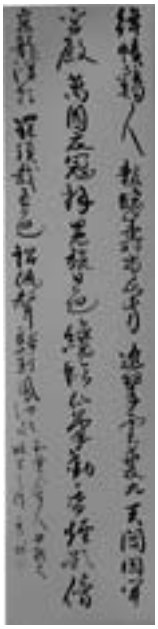
第一部　桜花賞　梶木光雪

第一部　桜花賞　梶田由華

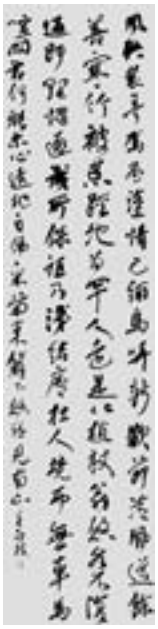


第一部　桜花賞　春日井静月

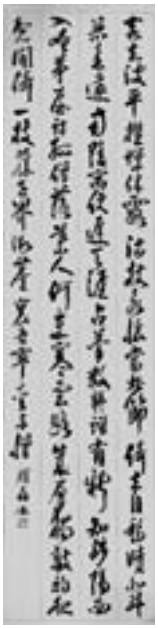
第一部　桜花賞　加藤豊盛



第一部　桜花賞　金子秀越



第一部　桜花賞　河村美喜枝



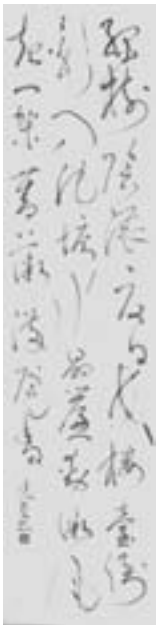
第一部　桜花賞　木村輝扇

第一部　桜花賞　熊谷石華

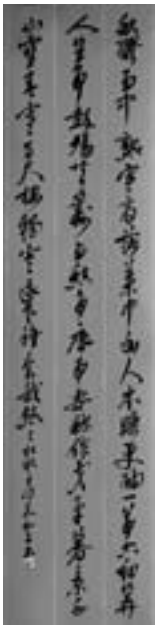
第一部　桜花賞　小塚芳黎

第一部　桜花賞　近藤清月

第一部　桜花賞　酒井悠泉



第一部　桜花賞　桜井光雲



第一部　桜花賞　清水美和子

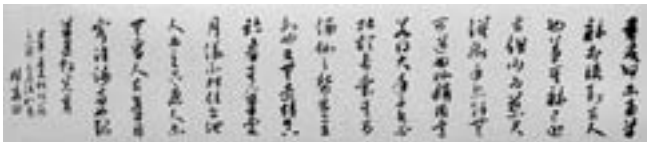
第一部　桜花賞　庄司寿美

第一部　桜花賞　神藤紫穂

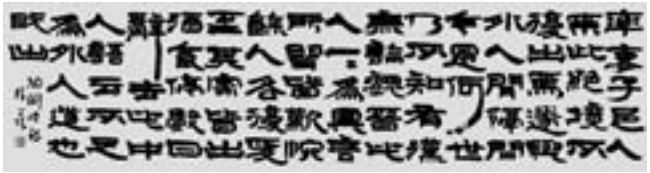
第一部　桜花賞　鈴木青華

第一部　桜花賞　大村彩豊

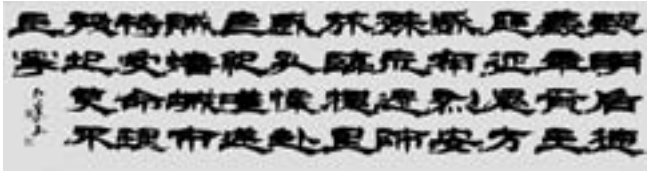
第一部　桜花賞　小寺恵蘭



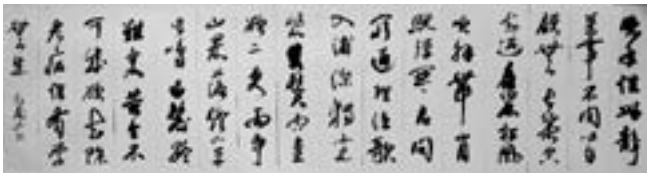
第一部　桜花賞　永田桂華



第一部　桜花賞　馬場樟蔭



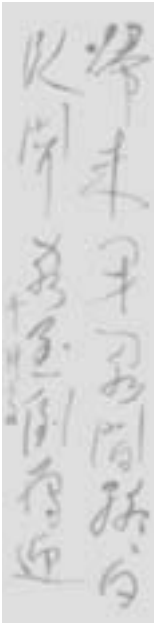
第一部　桜花賞　村瀬九葉



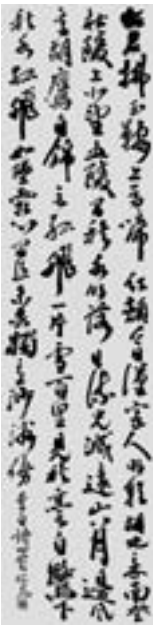
第一部　桜花賞　山田紅蘭

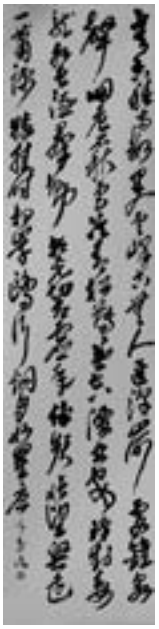
第一部　桜花賞　勅使河原恵翠

第一部　桜花賞　鈴木白翎

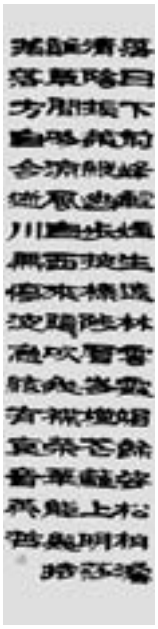


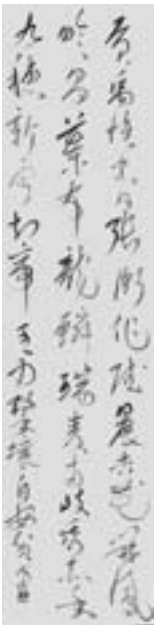
第一部　桜花賞　高桑愛降


第一部　桜花賞　田中桜花


第一部　桜花賞　棚橋清葉

第一部　桜花賞　都築香雪

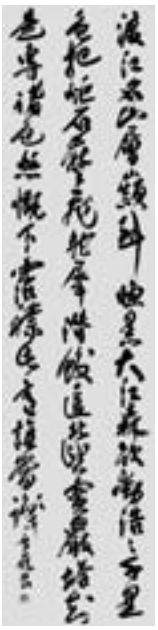

第一部　桜花賞　坪井英哲


第一部　桜花賞　長崎成秀

第一部　桜花賞　長澤美峰

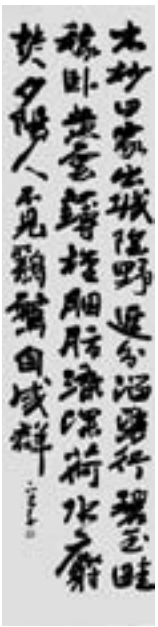
第一部　桜花賞　長島佳伯

第一部　桜花賞　中村翠苑


第一部　桜花賞　成瀬雪嶺

第一部　桜花賞　西垣梨雪

第一部　桜花賞　根津郷巴

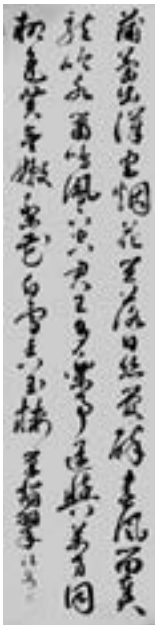

第一部　桜花賞　野々村宜子

第一部　桜花賞　野村揚月

第一部　桜花賞　萩原鳳苑

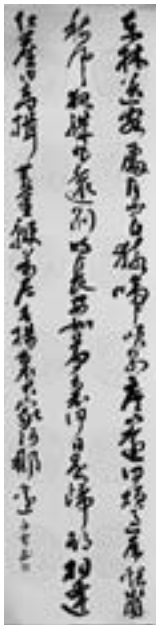
第一部　桜花賞　日比京馨

第一部　桜花賞　深津陽雪


第一部　桜花賞　藤原清泉

第一部　桜花賞　古田清流

第一部　桜花賞　堀尾岳南

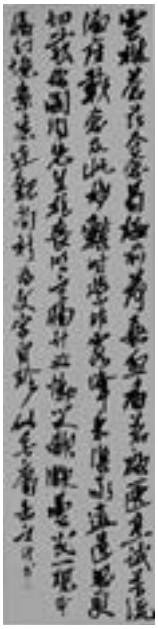


第一部　桜花賞　増田白雪

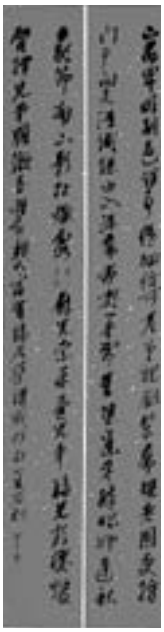
第一部　桜花賞　松村青彩

第一部　桜花賞　水田美泉

第一部　桜花賞　水谷勝代

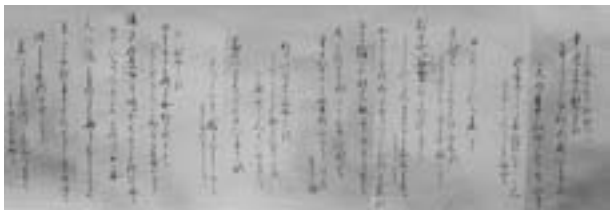


第一部　桜花賞　森山渓花



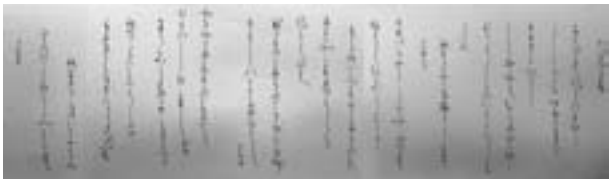
第一部　桜花賞　安井翠恵

第一部　桜花賞　山森蓮雅

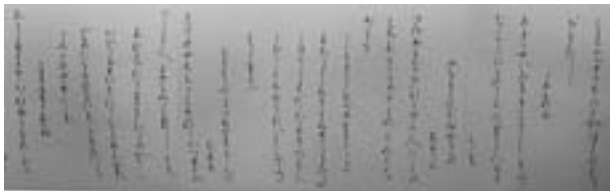


第二部　桜花賞　岡戸保子

第二部　桜花賞　小野田美晴

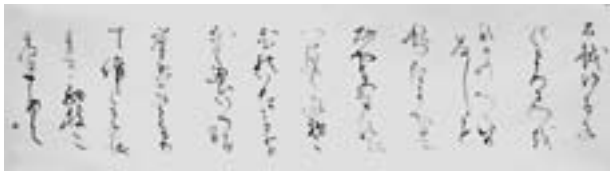


第二部　桜花賞　安藤幸恵

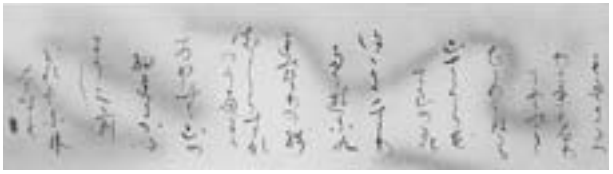


第二部　桜花賞　髙田幸江

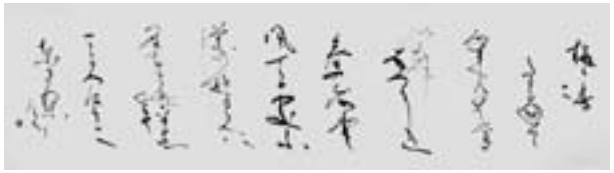
第二部　桜花賞　大平豊秀



第二部　桜花賞　田中江雨



第二部　桜花賞　岡幸秀



第二部　桜花賞　筒井タケ子

第二部　桜花賞　野田蘭月

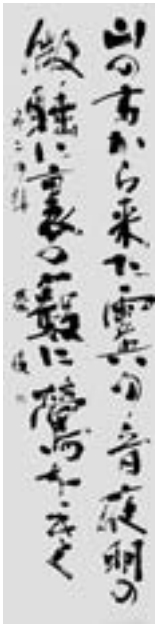
第二部　桜花賞　福井芳子

第二部　桜花賞　水野美保子

第二部　桜花賞　熊田梅久

第二部　桜花賞　甲谷富美子

第三部　桜花賞　安藤白翠



第三部　桜花賞　青木榮俊

第三部　桜花賞　岩崎墨舟

第三部　桜花賞　尾崎虹葉

第三部　桜花賞　鈴木蒼峯

第三部　桜花賞　楯芳琴

第三部　桜花賞　戸田華水

第三部　桜花賞　安藤春翠

第三部　桜花賞　鵜飼秀芳

第三部　桜花賞　冨田梢峰

第三部　桜花賞　飯田峰千

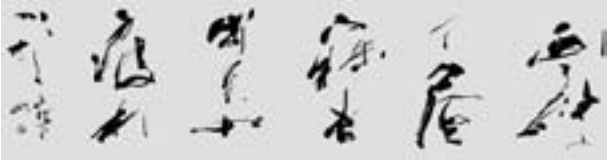
第三部　桜花賞　平井華泉

第三部　桜花賞　岡田孝子

第三部　桜花賞　細　江　朋　杏

第三部　桜花賞　甲　谷　千　樹

第三部　桜花賞　柳　瀬　緑　風



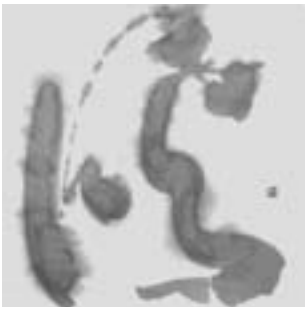
第三部　桜花賞　長谷川　結

第三部　桜花賞　和佐田　祐　翠

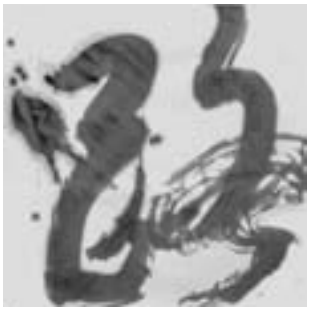
第三部　桜花賞　福　井　笙　燿

第四部　桜花賞
弛　舟　紅

第四部　桜花賞
武　内　聖　富



第四部　桜花賞
清　水　由　美



第四部　桜花賞
篭　嶋　智　子

第五部　桜花賞
小　川　勝　代

第五部　桜花賞
今　井　修　武

第五部　桜花賞
稲　垣　華　扇

第五部　桜花賞
水　野　和　香

第五部　桜花賞
林　　誠　哉

第五部　桜花賞
江　川　晃　洲

中日賞・桜花賞作品評

第一部（漢　字）関根　玉振評

〈中日賞〉

○**家田　翠徑**
行間が通り躍動的でスケール大きく際立っている。墨の潤・渇の間合いが大変良い。

〈桜花賞〉

○**伊藤　紫風**
多字数を入れることによって文字の造形を四角くし、筆のタッチにより流れを出した作。

○**井上　紅鳳**
隷書の基本を忠実に守り、結構の安定し、線に充実感がありすばらしい。

○**上田　玉鳳**
腰をおとし安定感をもちながら良く動いている。疎密の関係もすばらしい。

○**臼井　桃園**
六朝体の書風がよく出て、野性的な荒々しさが見られる。墨量も多く大変よい。

○**内川　昌子**
趙之謙風の行書、ねばりと強さを表現し、どっしりとした構えで全体を統一した作。

○**内出　紅華**
大胆な作風に魅力を感じる。線に伸びと流れを作り、作品を生かしている。

○**榎田　瓊翠**
単体だが一字一字流れよく表現している。字に強さがあり、行間もスッキリしている。

○**大場　敏充**
一貫性のある作、線にも強さが見え、結構のおもしろさが実にうまく表現されている。

○**大村　彩豊**
行間を通し、運筆の歯切れの良さもあり、重厚にまとめている。

○**大山　雅峰**
結構の安定と墨量の多さで全体をアピールしている。

○**岡田　愛子**
清楚な筆線と行の流れ、余白の美、流動感を備えた作。

○**岡本　虹園**
墨量多く一字一字に重厚さが見える。最後まで統一感のある作。

○**小川　澄光**
字に抑揚をつけ流れがあり、明るく爽快な感じを与える。

○**小幡　如雪**
行間を広くあけ文字を小粒にし爽快な感じ、運筆のさばき方がうまい。

○**垣東　翠照**
力強い運筆と墨量によって効果的表現となっている。一行一行引き締めた作。

○**掛布　江華**
行が立つというか、一本芯が通っているような感じ、墨量の濃度が行間のバランスを保っている。

○**梶木　光雪**
空間の巧みに活かした書風は、魅力的におもしろさを感ずる。のびやかな心地をみる。

○**梶田　由華**
字形は様々に変化しているがバランスを乱さず、線の複雑な表情を表わしている。

○**春日井静月**
作者の意図が筆触を通して伝わってくる。線も爽快でスッキリしムード的に表現している。

○**加藤　豊盛**
温雅にして流麗な筆線、空間の処理をよく立体感と流動美がある。

○**金子　秀越**
文字の懐をしっかり引き締めて、行間の白さを一層明確にさせている作。

○**河村美喜枝**
最後まで統一した作。結体も構成も調和がとれている。

○**木村　輝扇**
一字としてバランスを乱すことなく、筆力の強弱が作品の厚さを表わしている。

○**熊谷　石華**
文字の歪みと筆力が立体感を出している。線の抑揚が生きている。

○**小塚　芳黎**
六朝楷書の荒々しさ、素朴さをおさえながら線に動きを出した所が見事である。

○**小寺　恵蘭**
結構を扁平にして濃墨でじっくり書きあげた安定感を与える作。

○**近藤　清月**
素朴豊潤な線質と表現手法に知的な感性をみる。

○**酒井　悠泉**
一貫性のある作。線の太さが一定でありながら線質の丸さと結構のおもしろさが実にうまく表現されている。

○**桜井　光雲**
一字をぐっと大きくもっていって全体をアピールしている。流麗である。

○**柴田　松筠**
古典を基に一字一字しっかりと書き、全体の流れをつかんでいる。

○**清水美和子**
行間の余白と、一字一字の構成におおらかさと美しさが見られる。

○**庄司　寿美**
最後までリズムを統一し、線質も強く余白の美を作っている。

○**神藤　紫穂**
さわやかな動きで全体をまとめている。所々に細い線が効果的である。

○**鈴木　青華**
三行の行間をしっかりあけ、二行をしっかり充実し作品効果が実によい。

○**鈴木　白翎**
きびしい筆圧で行間の余白を生かし、動きをもって紙面全体をしめたのが良い。

○**高桑　愛降**
墨の潤渇、線の伸び縮みを取り入れ、全体ではやさしさを表現した作。

○**田中　桜花**
確かな結構と筆線、疎密強弱、行相互の響きと共に明るく充実した作。

○**棚橋　清葉**
思いのままに筆を走らせているようだが、字形は崩れることなく流麗な作。

○**都築　香雪**
全体的には穏やかな感じを与えるが、筆はよく動いており、しかも適度に筆圧が加えられている。

○**坪井　英哲**
余白を充分にとりながら量感を損なうことなく生気を充実している。

○**勅使河原恵翠**
筆線の冴と卓越した造形感覚、墨量の多さ、全体を圧倒させるような作。すばらしい。

○**長崎　成秀**
柔らかい文字の表情が、快く目に映る作。

○**長澤　美峰**
腰を落した結構で行間をとり、墨の潤渇をつくり全体を引き締めている。

○**長島　佳伯**
墨量の流れが作品の柔らかさを現わしている。行を通しリズミカルな運筆がすばらしい。

○**永田　桂華**
行間を広くとり、バランスよく筆力の強弱が作品全体をうまく表現している。

○**中村　翠苑**
線の伸縮を出し運筆のリズムを作り、所々振幅を描いて余白の美を作っている。

○**成瀬　雪嶺**
強弱の激しい線で立体感が鮮明に打出されている。

○**西垣　梨雪**
文字を小粒に配して行間をあけ、爽快感を出している。線にも歯切れさがある。

○**根津　郷巴**
書き出しから最後まで見事に統一した作。結体も構成も調和がとれている。

○**野々村宜子**
一貫性のある作。線の太さが一定でありながら結構のおもしろさが表現されている。

○**野村　揚月**
行が立つというか、一本芯が通っているような書き方、墨量の多さが行間とのバランスを保った作。すばらしい。

○**萩原　鳳苑**
雄大な作である。線も伸びており、文字の姿も実に良い。

○**馬場　樟蔭**
隷書の扁平な字形を見事に生かした作風。線を伸ばした所に呼吸の間が出来て良い。

○**日比　京馨**
写経の線の強さがみえる。最後まで一貫性があり、リズム感を出し見事である。

○**深津　陽雪**
字形は様々に変化しているが、バランスを乱さず行が通りスッキリとした作。

○**藤原　清泉**
思いのままに筆を走らせているようだが、字形に明るさが出て清澄な作。

○**古田　清流**
堂々とした筆の使い方。墨量も多く内に秘めた強さが十分に感じる。

○**堀尾　岳南**
さわやかな筆使いで線にも厳しさがみえる作。

○**増田　白雪**
筆の動き、線の強弱、振幅があり、自然の流れを出しきっている。

○**松村　青彩**
文字の懐をしっかり引きしめて、行間の白さを一層明確にさせている作。

○**水田　美泉**
龍門のもつ力強さが見える。文字を引き締め行間を通した作。なかなかの傑作。

○**水谷　勝代**
線の切れがシャープで明るさが持ち味。文字の抑揚が作の立体感を与えている。

○**村瀬　九葉**
隷書のもつ特徴を生かしている。線にも伸びと力強さがある。すばらしい。

○**森山　渓花**
一字一字が表情豊かにまとめられている。線の強調と抑制がこの作に立体感を与えている。

○**安井　翠恵**
聯にしたことで行間を広くなり、文字が小粒で、爽快感がある。紙とマッチした作。

○**山田　紅蘭**
墨の潤渇、線の伸縮をつくり、全体ではやさしさを表現した作。

○**山森　蓮雅**
一字一字しっかり書き、線・結体も申し分ない。すばらしい出来である。

第二部（かな）渡邉　笙鶴評

〈中日賞〉

○**加藤　裕子**
ねばりのある力強い線で、躍動感あふれる大字かな作品を意図し、みごとに表現した作品である。

〈桜花賞〉

○**安藤　幸恵**
古筆を基調とした上品で温か味のある表現が、円熟した安定感のある作品となっている。

○**大平　豊秀**
落ちついた色調の料紙に大きな動きで豊かさにあふれた小字作。墨量の変化がこの作品に厚みをもたらしている。

○**岡　幸秀**
ねばりと深味のある線で、行頭部と行脚部の変化を強調しながら展開される軽妙な表現がみごとである。

○**岡戸　保子**
黄緑色の落着いた料紙に練度の高い優美な線で微密に、しかも緊張感のある作品として魅力的に表現している。

○**小野田美晴**
古筆のとり組みの深さを十分に発揮した上品で気品に富んだ作品である。

○**熊田　梅久**
温かみのある優雅な線と流れる連綿の妙、墨量の変化が効果的な作品である。

○**甲谷富美子**
方形の紙に渋さをもった上品な線で表現されており、墨色の美しさも魅力的である。

○**髙田　幸江**
古筆を基調とした格調の高い線の美しさと充実感に満ちた作品である。

○**田中　江雨**
渇筆のきいた力強い線の美しさと大らかな運筆を感じさせる書きぶりが魅力的な作品。

○**筒井タケ子**
ばねの利いた動きの大きい作品で、行の絡みと墨量の変化が作品を雄大にしている。

○**野田　蘭月**
円味のある温かみに満ちた線とそれらの太さの変化、疎密の表現による緊張感のある作品が魅力的である。

○**福井　芳子**
古代調の上品な料紙に優美にくり広げられた連綿美がみごとに表現されている。

○**水野美保子**
動きのある大らかな作品、墨量の変化と文字の大小の巧みな構成がすばらしい。

第三部（近代詩文）黒田　玄夏評

〈中日賞〉

○**中島　周子**
落差の大きな運腕が多様な筆鋒の活躍を見せ感興胸を搏つ。落款ともに冴えてよく融け込む。

〈桜花賞〉

○**青木　榮俊**
古法の錬磨を随所に見せ技量発揮の労作だ。正面切ってグイグイ押す本格的な取り組みがいい。

○**安藤　春翠**
粘りのある線は作品の豊かさを象徴し聊かも揺るぎない安定感がある。流れの美しい章法だ。

○**安藤　白翠**
躍動する心の動きが線に又造型からもよく読み取れる。文字の大小と行の揺れは非凡のあらわれ。

○**飯田　峰千**
重量感と破筆がよく融け合い明るさを巧みに演出している。造型に円運動を加え大きく見せた。

○**岩崎　墨舟**
大字でありながら風通しの良い明朗の作。簡素な大字に対し細字の賑やさは好対照で楽しめる。

○**鵜飼　秀芳**
スピードに乗りどんどん文字を詰め込んでゆくが不思議に窮屈さはない。切れ味ある線だから。

○**岡田　孝子**
温和な表情が線にも造型にも見られ好感の持てる作。加えて速度ある線も混えれば尚佳なり。

○**尾崎　虹葉**
暢達はこの作のいのちである。息の長い運筆で長尺を一貫したのが良い。かなの使い方佳調。

○**甲谷　千樹**
墨量豊かで線に重みがあり静寂の情景を思わせる。更には

遅に加え時折速が伴えば尚立体感が出る。

○**鈴木　蒼峯**
調和体の概念を基盤とした滋味溢れる作だ。自然な造型や連綿線が醸し出す独自の雰囲気だ。

○**楯　芳琴**
軽快な響きのある動的な作風だ。手首が自在にかえり直筆側筆混交の表現力は難度な技だ。

○**戸田　華水**
雪の静けさを心に置いたであろう、明るく飾り気のない素直さは異色な才だ。三行目も大切に。

○**冨田　梢峰**
通貫性豊かに文字の表情を終始爽やかに表現している。行間美しく整い完成度は高い。

○**長谷川　結**
細線の用い方が実に巧みで明朗な感性が窺える。線暢達ありて少ない字数を見事支えている。

○**平井　華泉**
オモイダマ青春の日の戦い、気力漲ぎる表現は闊達大空を行く思いだ。「今」字は難読一考を。

○**福井　笙燿**
飛ぶが如く舞うが如く筆使いに呼吸の妙が窺える。左へ左へと流してゆく手法に趣きあり。

○**細江　朋杏**
心弾ませ軽快な足取りを響かせて書き進んだテンポの良さが奏功。文字空間に微妙な工夫あり。

○**柳瀬　緑風**
小刻みなステップだが着実に旋律を踏んで楽しさを謳歌している。字形の振幅の秀れた作調だ。

○**和佐田祐翠**
線と字形の表情に胡旋舞の情景が想い起こされ詩情が湧いてくる。濃密な墨量が華を添えた感。

第四部（少字数）横山　夕葉評

〈中日賞〉

○**伊藤　井翠**
線の流れの中で感情豊かで筆の表裏を上手く表現し、伸びやかで力強く紙面を押えた快作です。

〈桜花賞〉

○**篭嶋　智子**
筆が自由に活動し、表裏を現わしながら筆力を出し、力強く、白黒のコントラストがよい。

○**清水　由美**
潤いのある線、確かな形、美しく流れる瀧の景色が浮んでくるような清楚な美が現われている。

○**武内　聖富**
線が大きく躍動し、潤渇のある洗練された、確かな形で紙面を押え、白が美しく安心して拝見できた。

○**弛　舟紅**
墨量が多く、言葉のごとく潤いがあり、紙に食い込んでいる。自然で抱擁力のある作品。

第五部（篆刻・刻字）平田　蘭石評

〈中日賞〉

○**久保　伯甫**
秦篆を基調にし、多字数からなる疎密の変化がよく表現され良作となった。

〈桜花賞〉

○**稲垣　華扇**
大胆な構成に切れ味もよく、そこに生れる方寸の広がりに惹きつけられる作です。

○**今井　修武**
字形もよく構成も自然で力強く。全体のバランスが良い。

○**江川　晃洲**
文字の大小による余白が美しく辺縁により締った作となりました。

○**小川　勝代**
臼文を太く配し、朱がより鮮となる尚側款拓も可。

○**林　誠哉**
文字の造形が良く、遊び心のある作品となりました。

○**水野　和香**
字形もよく構成も自然体で爽やかな作となりました。

若年（15歳～21歳）　受賞者

その他の入賞者

一科

第一部（漢　字）

推　薦

石川　恵水　今井　朱
上田　雙詠　鵜飼　千聖
太田　咲華　大橋　由季
兒島　麻乃　後藤　琴泉
小松　翠篁　近藤　峻岳
坂部　青嶂　島田　冴香
鈴木　彩苑　関　翠虹
竹村　静景　谷田　青崖
永岡　沙弥　中川　瑞風
中島　千里　野田　昌寛
林　松宮　藤森　綾香
星川　朝香　前川　緋邑
三吉　香風　村瀬　愛実
森田　晶泉　安西明日香
山内　翔鶴　山路　静竹
吉田　翠竹

特　選

阿知和恵華　阿知和泰山
阿部　翠祥　井桁　翠咲
池山　咲帆　石田　珠山
板倉　香淵　市川　香雪
市橋　文親　伊藤　薫
伊藤　美扇　伊藤　凜彩
岩田有袈里　植田　漣陽
宇佐見友里　江坂　虹風
遠渡　季音　大鐘智芙未
岡嶋　桂川　小川　幸子
小原　淑芳　加藤　芳司
金田　英硯　金森　柏泉

川本　晴美　岸本　紫翠
鬼頭　千鶴　木下　恵香
久米　雪葉　栗木　美楓
小石　順　小島　瑞香
後藤　葉光　近藤　蕙風
近藤　星崖　坂川　翠翹
榊原　勇　志村　玲香
鈴木　溪聲　鈴木　游璃
高山さち子　武内　花扇
竹内　雀邨　舘　由津
棚橋　白蓉　谷内　彩光
都築　弘昭　鶴見　香翠
戸田毟代子　戸部　美扇
長野　輝泉　中村　晶光
中村　眸　長屋　純子
中山恵理子　西尾　清麗
布川　千鶴　野呂　隆硯
林　尚志　原　香風
原田　春琴　半谷　恵風
彦坂　翠花　平野　桃泉
藤井　由華　藤本香保里
藤森　優香　堀　翠苑
堀　清渓　堀内　鐘圓
間瀬　琥穂　松田　穂嬋
松原　流恵　水島　諒煌
水野　華穂　三宅　夕麗
三好　劉生　村上　橙果
村瀬　悠　森　富華
森　麗雅　森川　紫舟
森川　峻翠　安井　涛秀
矢野　彩心　山口　光華
山崎　静香　山本　祥仙
山本　麻里　横山　翠慧

芳村　清苑
準特選
相原　翠月　青木　春園
青山　芳翰　浅野　涛香
足立　茜啓　安藤　範香
石井　豊泉　石川　清秋
石樽　玉瑤　石田　舜華
市岡　敬華　伊藤　谿石
伊藤　紫鳳　伊藤　智瑛
稲垣　清雅　今枝　真弓
岩崎　翠風　岩村　蹊月
上杉真里佳　臼井　琴月
内田　勢潭　江口　星千
大石　将広　大嵜　露光
大城　紫萌　太田　素月
大野　真季　岡崎　啓雪
小川　徳子　小栗　桃実
長田　裕華　梶川　涼花
加藤　生子　勝田　節苑
加藤佐江子　加藤　芳枝

渡辺　博
青木　芝翠　青木　友華
浅野　揺草　浅野　春光
荒川　昌龍　井尾　琴流
石川　景雲　石川　仙城
石崎　翠溪　磯貝　碧雲
井戸　友理　伊藤　桂川
伊藤　瑞恵　伊藤　汀華
今井　翠柳　岩井　順峰
岩崎　清風　位田　白峰
上山　翠芳　臼井　紅逕
江川　幸甫　大池　香嶺
大岡　祥園　大鹿　恵華
太田　祥風　大野　早加
大野　彩　小川　秀苑
小川　隣花　尾崎　節香
長船　志保　香月　恵里
加藤　和代　加藤　佳玉
加藤　千冬　蟹江　里奈

兼子　桂苑　粥川　美煌
川口　美舟　川本　柚香
鬼頭　柑香　木村　翠路
工藤　雅翠　倉田　果苑
桒山　文美　小坂　春艸
児玉　翠風　後藤　蘭徑
小早川恵祥　小山　香碧
齊藤　美流　酒井　照苑
櫻木　愛弓　佐藤　光華
佐藤　史織　佐藤　桃華
三治　涛星　篠原　久祥
清水　愛苑　杉浦　薫水
杉森　亮子　杉山　洋子
鈴木　寿星　鈴木　翔山
鈴木　藍光　関戸　華月
高田　麻衣　高橋　瑞久
滝川　祥苑　田口　麻衣
竹内　一樹　竹内　翠芳
竹浦　栄翠　田澤　扇華

上村　有記
苅谷　有美　川瀬　英泉
北村　翠蓉　木村　春鶯
木村　和象　久野　哲史
畔柳　知子　古賀真由美
小島　竹苑　後藤　智明
後藤　柳月　小林　洋子
近藤　瑛月　坂井　彩乃
桜井　光葉　酒向美恵子
佐藤　幸泉　佐藤　翠玉
佐野　青蓮　七野　瑞夏
島田　楓林　杉田　樹石
新宮　緑園　杉山千鶴子
鈴木　香苑　鈴木　紫陽
鈴木　明海　関　春香
曽根　精華　髙取　翠揚
田上　松苑　田口　諒雅
竹内　重則　武内　利憲
武山　沙織　田中　恵綏

特別賞　選考委員

田中緑泉　谷本義仙　辻村祥泉　寺澤恵泉　遠山柳恵　戸田冬峯　友松芳春　長尾秀麗　中垣裕華　中島静鈴　中西晶聲　中道千尋　中村彩香　鳴川翠月　新美瑛洲　西川佳江　西村貞香　能見啓練　野村夢佳　長谷川華星

谷桂凜　辻村幸玉　堤帆菜　遠山正幸　徳田貴風　富永好子　鳥居桃華　長尾珠泉　永坂瑞祥　中島千草　中西瑤花　中村鸞邑　中村紅邑　新津美泉　西垣玉翠　西田海涛　西山桃翠　野田江泉　野呂竹泰　服部芝華

馬場紅雲　浜島緑風　林映洲　林彩香　伴奈津希　日栄白蓮　久田光玉　久田千祥　日比野貞寿　平松和子　廣瀬千翠　福山恵山　藤原芳龍　古橋紀風　堀美洲　堀井翠月　堀木真山　本田吉華　舞島妙川　前野真由美

濱地彩嶺　早川林花　林華静　林翠眉　坂野幸子　樋口白扇　久田昌泉　人見輝泉　平川彩舟　平松豊泉　福田博芳　藤井秀堂　船戸蘭香　外村幹秀　堀怜泉　堀内無我　堀場水香　本間鳴琴　前田小牧　牧野清波

第１部（漢字）審査風景

枡田蘭香　松田玉芳　松本静鳳　南谷亘輝　宮崎芳川　三輪和泉　村上泉酔　森下千代子　安井翠谷　安田瞳　山口勝司　山口紅鶴　山田映翠　山田青風　山脇春月　湯浅白穂　横田杏歌　米田美和　脇田玉波　脇田遊汕

秀逸

明保秀蘭　東智子　新井陽月　井内渓舟　池田緑翠　石崎恵秋　磯辺花泉　伊藤慧彩　伊藤桃苑　今西香溪　鵜飼華音　内山雅舟　大須賀恵峰　大羽虹鷺　小川暉翠　岡本覃渓　小川蕗桜

松浦昇水　松原澄秋　水口久美子　蓑輪青岳　宮地桃泉　村上影月　森井嶺月　安井彩花　安田彩霞　山口恵理子　山口雅芳　山口如泉　山田清翠　山本双剣　湯浅那津　湯川瞬光　吉成香映　若松翠泉　脇田朝萌　渡邉水香

淺野紫翠　足立耕堂　安藤虹峰　池田夏爛　石川加翠　五十川藤華　一木香翠　伊藤鴻仁　稲垣輝彩　岩田月扇　宇佐美吉恵　大久保真麗　大野琴舟　小笠原澄遠　岡本奈美　小川翠蛾　奥村陽鶴

奥谷虹雨　梶浦正子　加藤秋石　加藤千渓　神尾永観　北村玉凰　楠本陽楓　熊澤松湖　倉知葉舟　栗本孝嶂　桑原寛和　小出和香　小嶋玉寶　小林雅子　近藤玲翠　佐藤竹苑　志知隆道　清水啓子　杉浦芳子　鈴木翠泉　祖父江幽華　高嶋一華　田中艶乃　棚橋彩光　谷川花影　玉野青桃　遠山翔雅　長坂竹華　中田菊香　中村光麗　成瀬伸芳　西山美翔　野村桜香　長谷川涛光　畑中政子　服部緑珠　馬場桜華　早川誠記

小澤裕子　勝山滋紅　加藤昭蘭　上村桂蘭　神尾青峰　木戸長山　久野深水　久米水聲　栗田梢光　黒田汀苑　桑山紫香　小崎陽香　小林修堂　近藤明彦　佐藤紅蘭　佐橋秀影　柴田怜玉　正徳きみ子　鈴木花邸　鈴木晶行　高木貴游　高橋光溪　田仲美結　棚橋雅穂　谷口光男　辻川祥花　中川翠山　中島紅舟　長縄奏宇　夏目美沙　新村成草　野田流水　袴田泉穂　秦青楓　服部修江　華井春汀　濵島桃風　日比野亜扇

一科　第１部　当番審査員

日比野柳翠　廣間紫泉
福田祥光　藤井洸城
藤田二郎　舩橋幽泉
堀田廣泉　堀秀錬
本田貞子　本多蘭香
前越秀鳳　牧奈緒美
松浦早苗　松岡蘭毫
松田紫鵬　松本紅楓
丸山香苑　三浦槙香
右高三郎　右高夏代
三沢桃紅　水野雅秀
水野文香　南島芳雲
森田春泉　山内麗花
山崎春枝　山下有道
山田清翠　山田富洲
横井槐風　横江昌峰
横山香雨　横山翠蘭
渡辺清香

第二部（かな）

推薦

板倉恵子　井上ゆい
加藤典子　松田典子
水谷玉汀　森則子

特選

伊藤美代子　伊藤弥生
大嶋由美子　鏡千裕
加藤理恵　金倉あゆみ
木村立代　児玉和江
小林敬子　佐藤典子
鈴木妙子　鈴木裕子
谷口和子　永井友理
成田尚子　西脇聖園
吉永純子　和田美智子

準特選

浅井花枝　安達啓子
生駒君代　石川直美
石川恵美　石橋遊貴

磯部ユリ子　伊藤恵子
稲吉小夜子　上野明美
遠藤里美　大野満子
小倉壽子　小野由紀子
神谷まつの　川本俊子
熊崎昭子　小出誠子
小島春美　小寺裕子
小谷津千津子　近藤嘉江
阪本青悠　坂本裕香
佐合智美　柴田恵子
菅原瑞景　杉野鈴江
瀬古光代　高木由紀江
中崎百合子　成瀬孝子
丹羽智保　根本瑩子
橋本富子　長谷川美舟
花井竹聲　藤田忍
古橋里子　前嶌英子
牧村敦子　水谷孝邨
水谷廣風　宮川紅翠
宮口弘子　村瀬明子
箭野貴美　山口晶子
吉村真由美

秀逸

縣欣司　浅野蛍雪
生駒姫城　大野妙子
岡田容子　落合八代栄
加藤祥子　加藤浩子
金子晴美　河村友紀
木本美智子　後藤珠美
杉浦幸子　杉山恵子
杉山秀光　鈴木成山
高橋義一　田中かおる
波賀野幸子　平野京子
松本美香　三浦昭子
山内恵泉　山田美奈子
若林いずみ

第三部（近代詩文）

推薦

岩松美代子　小島正人
坂井虹輝　鈴木健
田中詩織　土川奈美
津野英子　藤井紅萼
三輪蘇生

特選

池上創　梶田汐里
川口千代子　古賀野源太郎
櫻井幸子　塩津旭曄
志津野穂夏　高田李華
戸谷典代　冨田武夫
永井准子　萩原由希子
林孝湖　原彩霞
原田沙季　樋口薫仙
平田光蘭　平野和秀
二村くまゑ　星智子
松村美沙　安岡明信
山田千夏　山村光葉
横溝憲吾　吉田鏡華

準特選

浅井優琳　石田恵巳
伊藤青慶　伊藤遥
稲葉裕美　犬塚八重
伊吹伴子　今井美翠
今枝晴美　今村古雅
采女紅楓　大倉啓風
大谷小百合　岡田実稚子
奥村双珠　神谷秀花
川澄良子　川瀬裕美
川田敏美　川西悠華
鬼頭俊夫　鬼頭信子
桐山正美　久世たか子
栗木甘露　後藤小苑
後藤真理　近藤星蘭
近藤真衣　佐藤悠佑
清水省子　関村吟香

武川桃徑　田中美香
田中婦左子　田中夕穂
田那村真帆　千葉弘子
塚原清雪　寺澤明珠
寺澤茂子　土井秀栖
土居雅子　冨田英宏
永池真莉子　長野安珠
西田子寧　蜂須賀穂洋
服部麗泉　花田佳子
林恵雪　林春香
林冨美子　樋口直美
樋口紀子　彦坂房代
平田栖冬　深谷勇介
舟戸裕貴　堀部汐里
堀脇明代　本田千尋
森加奈子　森規世
山口舞子　横江海渡
吉田茜湖　渡辺夏希

秀逸

浅井晨光　浅野裕香
足立彩華　安藤絹子
安藤早百合　石黒煌花
伊藤光華　伊藤正治
大川祐嘉里　大橋美根
鬼石健司　片岡桂苑
加藤一枝　河合百々子
城殿天祐　木村祥光
河野京子　小林翠月
小藤芳園　佐藤拓翔
柴田清翠　柴田瑞香
鈴木桃玲　髙岡眞由美
栂野春美　中村勝子
西川万央　濱口霞有
藤井星風　星貴博
牧野絵美　山崎白雲
山田玉蓉　山田祥堂

一科　第2部～第5部　当番審査員

第四部（少字数）

推薦
井野 華水　深谷 朝美

特選
井上 龍泉　奥田 光子
奥村 郁子　片桐千賀子
宮島みどり　山崎 真理
吉兼 理樹

準特選
ア王 貴枝　石原千砂子
磯貝みえ子　磯部 翠陽
岡島 美紀　小川 華舟
黒柳 真実　佐伯 恭華
正野 力　白石 真子
鈴木 千晴　西川 晴江
服部 光峰　花井 紅霞
林 加奈子　林 寿江
藤田 香志　藤村 美穂
峯村 榮子

秀逸
北村 義弘　鈴木 圭
竹本 景鳳　中谷ゆかり
永見 沙香　武藤 香紗
矢藤 巧真　肆矢 惇恵
米田 清翠

第五部（篆刻・刻字）

推薦
小池 理一　齋藤 京子
吉田 繁廣　吉原 愛璃

特選
青山 正人　稲垣 泗郷
太田 累淪　大原 裕美
小原 義直　日下部響風
鈴木 恵草　平 冨耀
髙島 濤翠　松岡 清
宮部政代美　村瀬 上氏

準特選
青木 涼虹　浅野 政男
足立 麗玉　石川 龍泉
磯谷 明舟　植田 武
榎本 翠峰　大島 敦已
加藤 大輔　金子 康子
国枝 晃治　小泉 晴生
小島 大立　小松 象神
榊原 有光　篠田 仰信
嶋津 智楊　杉山 秀夫
鈴木 清華　鈴木理恵子
髙橋 洋　帯刀 溪石
谷本 藤男　徳倉 禾風
中野 秋石　花井 麦雲
菱川 武　堀江 瑞香
牧野 常典　宮下 宗豊
森 翠竹　森 青翔
山田 美鈴

秀逸
石田 華峰　伊藤 茂
今村 禎邨　臼井 和舟
塩谷 華舟　加藤 比敏
河合 邦雲　久保田爰子
齊藤 昌平　榊原 悠園
鈴木 眞壽　鈴木 清芳
髙井 玉扇　冨永 晴美
永田 乾石　山本 陽子

二科

第一部（漢字）

二科賞
阿部 陽香　阿部 葉子
井口 七海　石倉 璃子
磯村 明子　伊藤 寛典
井上 絢理　上杉多賀子
打田 健　太田 笙那
小田 亜希　笠井 智子
片岡 祥泉　片岡 木蘭
片桐 秀美　片山 二菜
片山 玲華　加藤 雄遠
上川 翠嶺　上水流桜翠
粥川 緋音　木村香代子
國枝佑衣子　熊切 純椴
桑原 和瑳　子谷 宗右
後藤 貴希　後藤真奈美
小林 雪晨　米谷 美穂
坂上 智美　佐波 花梨
篠田紗都季　澁谷 弘峯
末吉 白韻　菅野 茜
鈴木 南岳　鈴木 玲名
鷲見 翔山　関根 玉翠
田崎 大秀　土田 祐大
寺倉理央奈　鳥井 薫
鳥本 喜敬　永井 利樹
永田 朝照　中津 果歩
中野 海堂　中森 藍
西原 希美　西村 仁志
丹羽 和葉　野田 花翠
野原 祥光　萩野 智司
服部 華谿　林 翠竹
速水 香余　東山 栄華
疋田 子規　樋口 沙耶
平岩 梨奈　平野 煌藍
平野 翠彩　紅林 芳琳
堀田 裕介　牧野 汀蘭
松村 亮　松元 小夏
松元 樹香　間野 貴文
三浦愛彩美　宮原 佑果
向井 萌乃　森真 由美
柳田 理栄　山下 華月
山田 美咲　若杉麻祐子
渡辺 紗里

奨励賞
會田 遥奈　青木 秋舟
青木 優　青木 来夢
青山 和生　秋田 夏美
浅野 有紀　味岡 華奈
新井 千晴　荒井 游舟
荒木 花蓮　在藤 花昌
安藤 翠慶　飯塚 理恵
伊神 薪水　幾島 蘭渓
池田 鷲岳　池田 翠恵
池田 真夕　石井 清澄
石井梨里子　石川 秀徳
石川 玲香　石木 里奈
石黒 真川　石田 李舟
石塚 映彩　石原 映花
出原 香蘭　伊瀬 柚月
五十川朱翠　磯崎 大洲
磯村 小園　居初 江陵
板谷 覚子　市川 映舟
伊藤 文野　伊藤 佳苑
伊藤 歌那　伊藤 惠子
伊藤 景春　伊藤 悟
伊藤 秀英　伊藤 貴昭
伊藤 孝子　伊藤舞依子
伊藤真由子　伊藤 光来
伊藤 悠石　伊藤 稚子
稲田 清婉　稲吉 邦子
井上 優子　井上 就可
今枝奈々穂　今井 由美
岩田 久夫　岩田久美子
岩月 清暁　上村 光徳
上田 清楓　鵜飼 玲舟
上村優香里　臼井 香奈
宇佐見泰山　遠渡 万琳
榎本 朋子　大河内奈那子
太江田碧峰　大谷 梅里
大島 景葉　大津 翠影
大島 雅子　大野 艶友
大島未紗子　大嶽 旭華
大竹 佑奈　大谷 蕙苑
大谷 梅里　大西 麻美

二科　第1部　当番審査員

大平恵美子　大村　瑞苑
大村柚津希　岡村　圭祐
小川　千尋　荻野　道世
奥村　彩乃　奥村恵美子
小倉　鑿石　尾崎　涼舟
納村　翠玉　小澤　美楓
越智恵理奈　筧　多恵子
粕谷　芳翠　片岡　蘭泉
片野　勝斗　加藤　輝一
加藤　喜峰　加藤　暁山
加藤　吟香　加藤　佳華
加藤　研真　加藤　湖舟
加藤　春恵　加藤寿美江
加藤　清苑　加藤　千佳
加藤　竹香　加藤　新菜
加藤　文子　加藤　北辰
加藤　優唯　加藤　里菜
加藤　嶺花　加藤　玲那
金子　大介　鎌田　智行
鎌田　桃花　神村　愛李

神谷　早紀　神谷　智子
加村　佑紀　亀谷　澄香
狩生　芳泉　河合　省明
川浦　慶風　川嶋　玉音
川瀬　実咲　川添　陽泉
川辺　舟楫　川村　知世
川本　青柊　神藤　華舟
神戸　笙詩　岸　美智子
北原　昴霄　北原　梨紗
鬼頭　舞　木俣　紫邑
木全　春乃　草深　志乃
草深　麗玉　櫛田　千英
國枝佳代子　久野　生麗
久保田勘太郎　熊崎　渓香
熊崎　千佳　倉橋　澄雨
栗山　博美　河野　公美
鴻巣　玉兎　河和　節子
小木曽渓人　小澤　侑紀
小島　春蘭　小嶋　翠芳
小島有美子　越山　和子

第２部（かな）審査風景

後藤　玉潤　後藤　梢月
後藤　清麗　後藤　菜花
小浜　佳扇　小林　亜也
小林　鶴嬰　小林　茉永
小山　香音　佐伯　青翠
佐伯　節峰　酒井　俊佑
坂井田夏峯　坂元　恵
坂元　雪乃　佐久間汀翠
迫中ゆか里　佐々木汀安
笹本　菜月　佐藤貴美代
佐藤　彩柳　佐藤　青耀
佐藤　亘駿　佐藤萌々華
佐野　小虹　佐野真友香
佐橋　爽翠　澤田　麗香
塩澤　怜華　澁谷　祐輔
清水　裕子　下堂薗麻友
白井　孝心　白井　美翠
杉浦　秀水　杉田　恵情
杉野　蛟龍　杉本　錦楊
杉本　菜摘　鈴木　愛累
鈴木　彩日　鈴木　佳奈
鈴木　祥翠　鈴木　青霄
鈴木　瞳　鈴木　誠人
鈴木茉梨奈　世古　瑠菜
祖父江穂花　多賀井菜奈
高木　華園　高木　紅絲
高木　悠花　高島　伸晃
高瀬喜立夏　高田　秀苑
高田木里香　髙橋　美琴
瀧　百花　田口　澄徑
武井　容子　竹下三七子
武田　佳子　竹中　唱花
武山　藍　多田　紫
田中くるみ　田中しおり
田中　正雪　谷　利香
柘植　真浪　辻　志川
辻村　紗希　筒井　美空
坪井万里子　鶴見　蒼雲

寺尾　竹豊　寺尾帆乃香
寺島　明子　東海　眉虹
遠山美陽子　戸崎しょう子
富田茄津紗　外山　奈和
豊田　霞汀　鳥潟　玉瑛
内藤　美歩　内藤　陽翠
中神　紫　中川健士郎
中川　晶子　長坂　麻衣
長坂　結衣　中島　彩空
中島　里奈　中島　華楓
中瀬　育世　中瀬　光舟
中冨彩奈恵　中西　伸江
中根　清逕　中根　冬泉
中野　和陽　長畑　清楓
中原栄里香　中村　恭香
中村　翠月　中山真也香
波切めぐみ　成田　紅翠
成瀬　裕子　西岡　美穂
西垣　琴翠　西垣　茉里
西川　澄華　西畑　茉夏
西村　美穂　新田　紗弓
丹羽　錦龍　丹羽　晴菜
丹羽　涼樹　野嵜　紅雨
野田ますみ　野中　利恵
野々村美希　信安　寛美
野村　茉由　野村　実由
長谷川光平　長谷川積翠
長谷川有香　畠山　采音
羽田野雅扇　羽田野可奈
羽多野劉　服部　和子
服部　久敬　服部　綵美
服部　萌々　服部　文瑶
花井　志翠　花井　里苑
濱田　千唯　濱田　梨沙
早川　文彩　早川　周作
林　恵理子　林　翠波
林　節香　林　万智
林　優衣　林　由佳子

二科　第２部～第５部　当番審査員

第3部（近代詩文）審査風景

原　杏実
坂　鶴心
坂野　幸
日比野未実
平野　城山
平松千代子
深谷　美庵
藤谷　紫陽
舟橋　緑楓
古田　増美
本田　緑風
前田　恵華
牧野　秋陽
増田　扇峰
松井　泉城
松尾　萌
松坂　歩実
松村　翠風
丸井　千尋
三澤　誠也
水越　鈴雪

原　さやか
伴野　千尋
肥後　朋夏
平野　敦子
平林　美泉
深谷紗央里
深谷　侑以
舟橋　美香
夫馬　彩園
堀田　美秀
前川　史奈
前野　秋豊
牧原　松亭
松井　咲香
松井　桃美
松岡　大貴
松向　星
真野　華翠
丸目華奈美
三須　和敬
水谷　拓登

水野　純子
満園　美希
皆元　麻希
三宅　敬子
三宅　佑佳
宮澤美和子
村上　澄暎
村田　要子
村松　慎梧
村山　令奈
毛利明香里
森　香織
森本　真奈
矢島　里帆
安田　由琳
梁川　美舟
柳澤　孝子
山内　美優
山口　礼
山田　華苑
山田　斐子

水野　白映
源口　貴子
峰　蒼翠
三宅　麻美
宮澤　真椰
村上　光瑶
村上　富子
村橋　早紀
村松　瑞舟
室賀　芳艶
樅山　公美
森島　麗石
八木　恵染
安田　茉莉
八釵　明美
柳澤　早苗
矢野　棠里
山岡　沙月
山田　彩加
山田　恭子
山田　風花

山田　麻央
山之内春洋
山本　真由
横田　三京
吉田　翠楊
吉田はる佳
吉永　明美
脇田　采藍
渡辺あさき
渡辺　静扇
渡部　恵雪

山中　信子
山本　碧葉
湯浅はるか
吉川里緒奈
吉田　桃月
吉田　三春
米田　啓子
鷲野　春翠
渡辺　翠奏
渡辺芙喜子
藁科　綾花

佳作

相京　博允
青井佑里香
秋田　清芳
飯田　秋斗
石井　夏楓
石黒　坦史
伊藤　春水
伊東　望
伊藤　瞳
伊藤　涼子
稲田　真生
井本ゆかり
岩場　恵子
岩地　菜月
上原　清江
内山紗都子
馬場　加奈
大池　遥
大友　綾奈
奥村　文子
奥村真夕美
尾嵜　桐華
皆瀬真名美
加島　愛舟
壁谷　由美
上ヶ平香川

藍原　桂香
秋田　花泉
安藤　和
生駒　吉識
石川栄利子
市原　雪華
伊藤千佑理
伊藤　信子
伊藤　柳川
稲垣　志帆
今村　美咲
岩田　純子
岩本　麗泉
上田　珠鳳
宇佐美清雅
宇野　誠心
大池　那由
大崎　友愛
小川　瞳
奥村まゆみ
奥谷　美楓
小田　淳子
各務　香扇
加納　豊樹
鎌倉　緑翠
神谷　麗華

柄澤　信一
木里　悠乃
北島　雅子
國島　雪江
小木曽美空
近藤久美子
榊原　美峰
佐古　智蕙
佐藤　紫栄
澤木　優歩
清水　美子
鈴木　綾子
鈴木　花菜
鈴木　優子
大門　雅泉
竹内　雨杏
田中　清蘭
谷岡　千信
田村　稲川
土井美沙季
冨田　朝煙
中川真佐子
長瀬　輝雪
長縄みさき
長野　秋蘭
成田　恵翠
西尾　芳清
丹羽　瞳
野杁　美粧
野崎　莉乃
野村　香泉
服部　峻典
服部麻美子
花木　寛城
原田　華鈴
彦坂　弘青
平野　遊古
藤原由紀恵

川合　碩山
木里　豪志
北林由梨佳
栗林　佑
後藤　千秋
今藤　里美
作内　星江
佐藤　明美
佐野　清華
篠崎　信夫
下平　紫月
鈴木　文菜
鈴木　澄芯
角田　結唱
髙山　莉瑠
田中　麻美
田中　もえ
田原祐喜子
辻村　縫香
戸田　千裕
長江　美穂
中嶋　玉陽
中塚　琴菜
仲野　文菜
中村　晴重
新美　龍位
二村　彩恵
沼口　義昭
野嵜　祥雲
野々川翠扇
野村　繁子
野村　扇泉
服部　芳香
服部　美樹
早川真理子
坂　信子
平野　渓雲
藤田　菁華
舟橋　風苑

古川　博崇
堀　清順
本田　小舟
牧邨　美香
松尾　白瑶
三木　湖舟
三輪　翠陵
村山　朋華
森重　友里
森月　紫綾
安田まゆみ
山田　英里
山田　祥子
山本　吉祥
吉田　等
渡部　藍
渡辺　湖夕

堀田　厚友
本田　春登
前川紗於里
松尾　光華
丸本　芳穂
溝口安左江
村上　紫江
森川　諒子
森下　聖子
安井　柏陽
山内　美雨
山田　咲
山田　由香
吉田喜代子
吉村　朋佳
渡邉　香扇
渡邉　怜花

第二部（かな）

二科賞

宇都野美代子
畔柳　佳奈
柴田　道子
中田　明美
林　多津子

川本　泉
櫻木　彩香
藤社　葉子
成瀬　綾野
鷲野　嘉子

奨励賞

青山　千峯
安藤　悦子
市川　常子
伊東富士子
稲村　洋春
犬飼　美晴
宇野　央子
大武　英子
小川　祥翠
河合いく子
川口　和子
川村　恵子

安藤　香波
飯波　真菜
伊藤　英美
伊藤　雅子
犬飼　昭子
今井　和子
江崎　重子
大平　貴子
鏡味　洋子
河合　裕子
川崎三枝子
沓掛　善栄

桒名　孝枝
近藤　瑞季
杉浦　芳子
鈴木　和子
冨田　順子
西尾　雅子
西川　允子
中川　翠雪
濱口　有以
平林津賀子
三浦　節子
水野　葉子
宮谷　江舟
横井多恵子

小板　由李
杉浦　純子
杉田　孝子
田本　尚子
中川　翠雪
中峰　綾乃
野尻　紀子
濱田　清華
松岡みち代
三宅美佐恵

佳作

阿部ひろみ
池田　宮子
小林　明美
佐藤すみ子
中川　卓也
夏目　華星
野田　弓子
堀井　彩野
水野　紫
樅山　明子

安藤　美恵
小木曽貞子
佐藤　あき
武内　美幸
中峰　綾乃
野尻　紀子
濱田　清華
松岡みち代
三宅美佐恵

横田　孝美
矢田　悦代
箕浦　和子
水谷サト子
本田ふみ子
林　澄江
馬場　景子
西尾　雅子
冨田　順子
鈴木　和子
杉浦　芳子
近藤　瑞季

第三部（近代詩文）

二科賞

伊苅　恭子
石黒明日香
市川　兼正
伊藤　蘭香
岡　俊子
梶田宮恵子
濃沼　紀恵
高橋　花柊
冨田　奈緒
中谷　愛音
松井　宗紀

池田　朔月
石田　光子
井出　翠風
岩崎　由美
奥山　由紀
河村　操
佐藤　朱美
谷川由希子
鳥居　壮瑠
原野　佳子
松原　教雄

第4部（少字数）審査風景

御崎　勲
守山　芽生
山田　高清

奨励賞

明利　愛
浅井　萌絵
安保　育子
安藤　和輝
石川　桃露
犬塚　柚月
今枝　里帆
宇井安佳理
植村　俊太
大澤　京芽
大島　佑斗
大橋　紅邨
岡村　延子
小川　菫花
小川百合子
落合　輝

美馬　裕美
安田　正博

浅井登志子
浅本　瞳
天谷　結花
飯塚ひろみ
伊藤　美咲
今井　彩乃
岩間　早紀
植田　琴風
江崎　梨恵
大重こころ
大島　優里
岡野愛佑香
岡村実花子
小川　恵秀
小栗圭太郎
小野　友香

糟谷　永子
加藤　聖
加藤登紀子
加藤美代志
神村なな美
亀井　孝晃
川端　麻友
鬼頭　沙希
桐山　彩華
窪田　真子
越川　瑞江
小森　一輝
酒井　彩加
笹井　榮春
澤木　雅人
下村　佳風
鈴木　玉蘭
鈴木ふゆ香
髙井　舞衣
髙木　賀代

加藤　秋穂
加藤　敦美
加藤　昌司
加藤　由記
神村　啓江
川口　芳雲
木田　栄子
木野瀬陽光
楠　悦子
高坂　廣子
小島　徹
近藤　芳玉
坂本　麗菜
佐藤　健斗
澤山　光琳
鈴木華歩子
鈴木　静夏
鈴木　麻友
高木　夏楠
高橋　優歌

高橋　麗水
田口ゆかり
多田　祐子
辻　由起
坪山　満理
富田　啓
永井　邦子
成瀬　三鈴
野田　柚奈
長谷川千紘
林　文香
久田　胡蝶
土方　理恵
深見　愛
福川　翠
福田　梨乃
古田　智哉
本田美智代
前野　仁茜
松井　香澄
三枝　愛実
溝口ほ乃佳
宮本　幸子
村田　有菜
山田　桃子
山本　彩織
弓　春菜
横井　吟虹
横江　星花
吉國　知香
若杉　怜華
渡邊　美優

佳作

赤松　里香
安立麻衣子
石黒　亮
磯部　弘陽
今枝　順子

滝川　帆南
武市　佳峰
田渕　冴子
土屋　摂子
遠松　治
内藤　赫子
中川　莉枝
野瀬　裕子
野中　健太
林　紅甫
坂　みゆき
久田　朱麗
平田　明風
福應　節子
福島　彩子
藤井　菜摘
古橋　瑞季
前田　裕子
牧　眞帆
松平登世子
右高　香山
宮崎紗佑里
宗　香織
森下　景斗
山中　好輝
山本　祐輔
余吾友理恵
横井　琴泉
横山　珠願
若杉　輝之
渡邊　直美

浅井　尚風
天木稚佳子
石田　吉弘
犬飼　早紀
上田　愛梨

上田　章子
岡田　花音
小川　真央
河瀬　春光
河邉奈扶美
久保さえ香
倉知　桃子
佐々木陽道
柴田　麻結
鈴木　秀佳
諏訪　翠鳳
田中　寿風
津嶋　有花
寺西　恒流
羽飼　有加
広瀬由希菜
福田　隆太
船橋明日香
松井　雲海
三浦由美子
森　曉雲
若山　麻里

大森　愛恵
小川　順子
甲斐野美津枝
川原　恵子
桐田　真衣
熊谷　渉
斉藤　大貴
柴田登志枝
鈴木　幸園
鈴木　智子
竹中満理奈
塚原　紫希
寺尾　青波
西村　克美
波多野礼香
福岡由里子
藤井　溪雨
細川　厚子
松浦菜々子
水谷　静香
吉田　朱里
渡辺　琢馬

第四部（少字数）

二科賞

小泉　路子
橋本美恵子
横井　葉子

奨励賞

新井ひろ子
板倉　里美
内田　恵
川本美由紀
佐野　叶子
千石　恵子
髙木　紗子
都築　強介
中島　春燈

中橋美恵子
矢野　智美

早川　尚美
等　綾雪
寶満　祥子
三浦　廉平
山下眞知代

日髙　節代
平井祐里子
堀内　緑
山口　節子

佳作

浅井　静子
市川　秋
加藤　友子
髙木　育子
都築　健介
山本　康二

飯田　真帆
大澤佐知子
神谷　紗穂
田村　祐人
成瀬　静枝

第五部（篆刻・刻字）

二科賞

磯村　育治
鈴木　沙弥
古田冨美子

伊藤　清一
田村　美智
増井　茂

奨励賞

青木　和馨
今井　徳弥

石原　久義
上村　将生

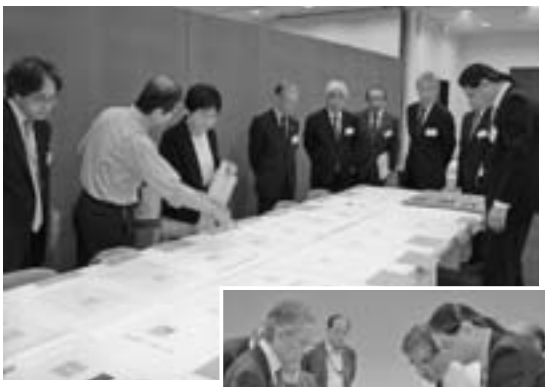
榎並　勝彦
奥田すみ子
加藤　清城
清井富比古
小池　清子
島田　英明
杉浦　生恵
髙松　凜
中野　麦愛
禰宜田景子
日比野真理
室　静代
山村　千秋

太田　柳一
長田　正嗣
加藤　大輝
工藤　芳悦
小林　有希
白井　豊子
須田　彩華
永田　正毅
中村　紀久
野口　勇夫
平林　和香
山内　昂波

佳作

岡　誠
子安　一徳
佐藤　敬顕
中村　康信
宮田　基次
柳原　雅龍

河村　一雄
佐々　章
髙木　啓志
西岡貴美子
森本　隆司



第5部（篆刻・刻字）審査風景

第六十五回記念展当番審査員

特別賞選考委員（三八名）

（二科審査会員・依嘱・無鑑査作品）（順不同）

樽本樹邨　安藤滴水
黒田玄夏　黒野清宇
後藤秀園　後藤汀鶯
座馬井邨　土屋陽山
中島藍川　中林蕗風
平松紫雲　鬼頭翔雲
松永清石　関根玉振
伊藤昌石　青木清濤
天野白雲　伊藤仙游
上田賦草　大池青岑
大島緑水　梶山夏舟
加藤矢舟　加藤裕
榊原晴夫　佐藤慶雲
武内峰敏　富田栄楽
中野玉英　中村立強
松下英風　村瀬俊彦
山内江鶴　山際雲峰
横山夕葉　伊藤暁嶺
山本雅月　早川泰山
新美珠光　西川原翠苑
丹羽春蘭　長谷川春香
長谷部青径　林大樹
日比野翠春　平賀秀園
平松采桂　古川昇史
本間翠眉　宮崎富山
森紅雀　矢野翠芳
山下和芳　山田白陽
山中桂山　渡辺月潭

第一部（漢字）（四二名）

安藤秀川　伊藤恭子
伊藤小游　伊藤艸亭
大曽根弘風　岡本苔泉
奥村碧洋　金丸翠石
川崎尚麗　河田聖翠
河津紫雪　木戸竹葉
工藤俊朴　小島瑞柳
佐藤東海　鈴木青楓
鈴木蘭峰　世古口大虚
高木玄齊　武山翠屋
楯青萠　田中紫雲
坪井景照　戸松紅翠

第二部（かな）（一〇名）

赤堀正風　今井桃丘
加古伊春　黒野恵子
近藤浩乎　清水澄園
馬場紀行　早川修
福島有何　山口律舟
近藤耕花　近藤理子
坂井香泉　下村繋舟
白木紫香　高松秀翠
武田晶庭　谷鴻風
辻秀麗　豊島積流
中川瑞玉　中島天嶂
永谷恵子　中村千秋
野田虹園　萩溪華
羽田野江楓　服部華泉
服部春逕　原田圭竹
坂野渚月　広井秀琳
堀穂慧　堀部恵苑
増田山翠　三浦景波
水野浩之　村瀬幽香
森政子　安田翠嵐

第三部（近代詩文）（一二名）

浅井禎香　安藤蘇道
伊藤恵鳳　片山紫雲
黒田寿水　佐野翠峰
鈴木紅瑤　鈴木史鳳
高木光風　高橋栖雲
鳥居柳城　廣澤凌舟
天野月祥　石田昌枝
小島瑞月　佐々木宏潤
澤田暁香　田中尚秀
野村清涼　宮田洋美
渡辺悠記子

第四部（少字数）（四名）

佐々木嵩邦　鈴木松厓
田島不染　森下久美
伊佐治祥雲　石原清至
岡野楠亭　辻苔泉
丹羽常見

第五部（篆刻・刻字）（五名）

浅井明奈　石井小湖
市橋蒼流　伊藤和代
内山蘭月　大川澄泉
小林恵風　坂本美薔
田中祥雲　谷口大観
内藤一翠　阪野小波
日置蒼美　比良公美
山田素光

二科審査員

第一部（漢字）（四四名）

阿部舟花　阿部卓城
天見芳泉　安藤美泉
伊藤美扇　上田青香
小笠原青華　尾嵜紫光
柿本香苑　亀井小琴
工藤子鴎　黒野芝香
小池玲翠　小林祥鶴

第二部（かな）（九名）

石田昌枝
佐々木宏潤
田中尚秀
宮田洋美
原田圭竹
服部華泉
萩溪華
中村千秋
中島天嶂
高松秀翠
谷鴻風
豊島積流
下村繋舟
中林蕗風
鬼頭翔雲
関根玉振
清水澄園
早川修
山口律舟
渡辺月潭
矢野翠芳
山田白陽
宮崎富山
古川昇史
平賀秀園
林大樹
長谷川春香
西川原翠苑

第三部（近代詩文）（一五名）

石井小湖
伊藤和代
大川澄泉
坂本美薔
谷口大観
阪野小波
比良公美
山田素光
堀内松琴
堀部恵苑
三浦景波
村瀬幽香
安田翠嵐
広井秀琳
堀穂慧
増田山翠
水野浩之
森政子
辻秀麗
武田晶庭
坂井香泉
白木紫香
近藤耕花
近藤理子
下村繋舟
中島天嶂
萩溪華
服部華泉
羽田野江楓
野田虹園
永谷恵子
中川瑞玉
坂野渚月
服部春逕
横山夕葉
黒田玄夏
渡邉笙鶴
関根玉振
松永清石
伊藤昌石
伊藤仙游
大池青岑
横井宏軒
青木清濤
天野白雲
上小倉積山
川崎尚麗
山本雅月
村瀬俊彦
加藤裕
武内峰敏
中村立強
中島龍渓
榊原晴夫
岡野楠亭
平田蘭石

第四部（少字数）（五名）

市原登志慧　加藤夕堤
角田和泉　堀内松琴
山岸邦山

第五部（篆刻・刻字）（四名）

後藤黄太郎　坂井曽鶴
松久明博　山本英男

審査部

○部長　伊藤昌石

○副部長

（一部）　松永清石
〃　関根玉振
（二部）　渡邉笙鶴
（三部）　黒田玄夏
（四部）　横山夕葉
（五部）　平田蘭石

○主任

（一部・一科）　伊藤仙游
〃　大池青岑
〃　横井宏軒
（一部・二科）　青木清濤
〃　天野白雲
〃　上小倉積山
〃　川崎尚麗
（二部・一科）　山本雅月
（二部・二科）　村瀬俊彦
（三部・一科）　加藤裕
（三部・二科）　武内峰敏
（四部・一科）　中村立強
（四部・二科）　中島龍渓
（五部・一科）　榊原晴夫
（五部・二科）　岡野楠亭

○委員

（一部・一科）　五二名
（一部・二科）　五七名
（二部・一科）　一五名
（二部・二科）　一五名
（三部・一科）　一七名
（三部・二科）　一八名
（四部・一科）　七名
（四部・二科）　七名
（五部・一科）　三名
（五部・二科）　三名

協賛会員一覧

	〒	住所	TEL
浅井梧竹堂	452-0823	名古屋市西区あし原町68－１	052－504－2703
㈱荒川印刷	460-0012	名古屋市中区千代田２－16－38	052－262－1006
石黒五雲堂	453-0834	名古屋市中村区豊国通４－46	052－412－7862
㈱一休園	731-4221	広島県安芸郡熊野町出来庭２－２－44	082－854－0019
伊藤大林堂	465-0004	名古屋市名東区香南１－507　長谷川コーポ１Ｆ	052－776－1881
印刷屋九二八㈱	497-0011	あま市七宝町安松13－９－１	052－443－1190
ウエスティンナゴヤキャッスル	451-0034	名古屋市西区樋の口町３－19	052－521－2121
ウサミ印刷㈱	451-0066	名古屋市西区児玉１－10－７	052－522－2361
永楽堂	445-0854	西尾市永楽町４－10	0563－54－2053
㈱應天堂	501-1172	岐阜市下鵜飼1468	058－239－5200
㈲岡本頌文堂	510-0081	三重県四日市市北町３－４	059－352－6010
オフィスイズ	511-0243	三重県員弁郡東員町穴太1248－３	0594－76－3976
魁盛堂㈱	451-0063	名古屋市西区押切２－２－13	052－521－3211
開明株式会社	336-0931	さいたま市緑区原山２－22－20	048－882－1091
加藤長寿堂	453-0801	名古屋市中村区太閤１－16－23	052－452－4751
㈲伽藍	460-0011	名古屋市中区大須３－８－10	052－242－7741
㈱川口春霞堂	497-0012	あま市七宝町下田四反割２	052－444－8024
㈲菊屋商店	460-0007	名古屋市中区新栄２－１－46	052－241－1145
㈲吸月堂	462-0844	名古屋市北区清水２－２－２	052－931－6948
㈱玉蘭堂	150-0002	東京都渋谷区渋谷１－12－11　渋谷百瀬ビル５Ｆ	03－3499－4886
㈱金工堂	460-0003	名古屋市中区錦３－16－22	052－961－0151
金陽堂表具店	471-0076	豊田市久保町３－27－１	0565－32－0863
㈱呉竹	630-8670	奈良県奈良市南京終町７－576	0742－50－2050
㈲髙誠堂	440-0804	豊橋市呉服町44	0532－52－5514
光文堂㈱	461-0005	名古屋市東区東桜１－３－28	052－961－6866
小松表具店	485-0831	小牧市東２－544	0568－75－0281
㈱サンライズ	470-0131	日進市岩崎町神明158－16	0561－41－8332
㈱柴田紙店	491-0859	一宮市本町３－９－18	0586－72－2001
㈲真清社	460-0007	名古屋市中区新栄１－47－５	052－241－8085
㈲新泉堂	462-0006	名古屋市北区若鶴町344－１	052－901－0514
㈱青雲堂	446-0008	安城市今本町３－１－15	0566－98－2233
㈱青柳堂	460-0008	名古屋市中区栄４－１－８　中区役所ビル１Ｆ	052－259－0313
創源工房	458-0034	名古屋市緑区若田３－106	052－629－5035
㈲荘文堂	478-0017	知多市新知宝泉坊30－１	0562－55－0517
㈱大玄堂	500-8289	岐阜市須賀１－８－25	058－271－2662
大同印刷㈱	501-6241	羽島市竹鼻町3214	0583－92－2345
㈱大林堂	460-0008	名古屋市中区栄３－27－15	052－261－4846
中電不動産㈱	460-0008	名古屋市中区栄２－２－５　電気文化会館	052－204－1383
㈱長楽斎筆舗	460-0007	名古屋市中区新栄３－18－24	052－263－4554
名古屋キョー和	460-0008	名古屋市中区栄４－２－10　小浅ビル２Ｆ	052－263－9401
名古屋ホウコドウ	462-0828	名古屋市北区東水切町２－28－８	052－915－1798
西川堂森表具店	491-0859	一宮市本町４－23－11	0586－72－3629
美創堂	486-0831	春日井市ことぶき町８－１	0568－81－9236
平野筆墨堂㈱	463-0021	名古屋市守山区大森１－2701	052－798－6651
㈱墨運堂	630-8043	奈良市六条１－５－35	0742－52－0310
松屋紙店	475-0866	半田市清水北町63	0569－21－2572

第六十五回記念 中日書道展を終えて

第一事業部長　伊藤仙游

本年度の中日書道展は第六十五回の記念展として、皆様方の多大なご協力により盛大に開催されました。また、各部門から選抜された一五名による大作書展、中日書初展優秀作品の展示、席上揮毫会などの記念行事を、愛知県美術館ギャラリーに於いて開催する事が出来ました。

《書類搬入、裏打作品搬入》

四月十七日の書類搬入、五月八日の裏打作品搬入ともに、協賛会員の皆様・委員の先生の献身的なご活躍などにより、（昨年同様二科審作品も記念賞のため裏打搬入が必要でしたが）四千点余りの作業が、より早くスムーズに終了する事が出来ました。

《二科審査・一科審査・特別賞選考》

二科審査・一科審査・特別賞選考共に作品に対する審査員・選考委員の真摯な姿勢が貫かれ、厳正公正な審査が行われました。

《名古屋市民ギャラリー栄》

本年度は二部～四部（仮名・近代詩文・少字数）依嘱・無鑑査の中日賞・桜花賞を除く約三百点が展示されました。

《愛知県美術館ギャラリー》

中日書道会の中枢を担う全役員の作品一、八九一点(二部～四部依嘱・無鑑査を除く）が集結する本会場は、日本及び中部の書壇を代表する作家や、今後活躍が期待される中堅作家の作品など見応えがあり、来場された書道愛好家の方々も熱心に作品に見入っておられました。また例年行なわれている、八十八歳・九十歳・九十五歳以上の方々を顕彰する壽出品も大変好評でした。

六十五回展記念事業は、五十五歳以下の会員から選抜された一五名の新進気鋭の作家による六尺×八尺の大作書展で、躍動感と気力漲る作品がまさに「気韻生動」、観覧者を深遠な書の世界に導きます。

また六月二十日（土）には、昨年好評を頂いた席上揮毫会が、本年は午前と午後の二回に分けて行われました。午前中は第六十五回記念中日書きぞめ展成績優秀者、午後は漢字・仮名・近代詩文・少字数・篆刻を代表する本会の先生方による席上揮毫が行われました。

この市ギャラ・県美の役員展二会場で、八、八〇〇名余の皆様にご来場いただきました。

《名古屋市博物館三階ギャラリー》

一科展・六月十六日～二十一日は一、〇三二点の展示（昨年比五点減）入場者二、四〇八名、十六平方尺以内の大きな作品で、上位入賞者から入選まで全作品が陳列され、出品者本人だけで無くご家族、友人など大勢の方においで頂きました。

二科展・六月二十四日～二十八日は一、二八七点の展示（昨年比二十八点減）入場者二、六七〇名、この内昨年同様に約五百名が若年層（十五歳～二十一歳）で二科賞受賞者も多くあり、今後ますます研鑽を積まれ、中日書道会の中心的役割を果たされんことを大いに期待します。

《第六十五回記念中日書道展反省会》

やや蒸し暑さを感じる七月十二日(日)名鉄グランドホテル十一階柏の間に於いて、第六十五回記念中日書道展反省会が開催されました。毎年中日書道展終了後、次年度に向けてそれぞれ反省事項をご提出頂き、（企画委員会でも討議いたしますが）より多くの皆様のご意見、ご討議を頂くために開催しております。本年度は役員改選もあり、樽本樹邨、安藤滴水両名誉副会長、鬼頭翔雲常任顧問、伊藤昌石理事長をはじめ理事・監事の先生方にもご出席をお願いしたため、七十三名の参加となりました。

新理事長伊藤昌石先生より「反省事項はここに上げられた事ばかりでは無いとは思いますが、今後も皆様からのご意見を尊重しながら進めて参りたいと思います。」旨のご挨拶を頂きました。

その後伊藤仙游第一事業部長より反省事項の説明があり、(1)裏打作品搬入時の出品票の確認、(2)授賞式の出席の確認・受付方法などの問題点が上げられました。今後企画委員会などでより深い検討を重ねて参りたいと思います。

本展の開催に当たりましては、役員諸先生方の多大なご努力とご協力を頂き、心より御礼申し上げます。また搬入陳列・搬出等の作業には、取扱業者の皆様の絶大なご尽力を戴き深く感謝申し上げます。

出品数一覧表

	一部（漢字）	二部（かな）	三部（近代詩文）	四部（少字数）	五部（篆刻・刻字）	出品点数
審査顧問	5	3	2	0	0	10
特別出品	-3	0 0	-1 0	0 0	0 0	-4
一科審	30 296	7 74	12 54	4 32	4 22	57 478
二科審	-19 389	-6 77	-5 97	-2 39	-4 26	-36 628
依嘱	6 309	-5 63	4 91	-3 22	0 22	2 507
無鑑査	-9 332	5 66	0 95	-3 23	3 35	-4 551
一科	1 575	-5 122	1 153	6 45	0 80	3 975
(18～21歳)	-10 37	0 0	0 16	0 1	0 1	-10 55
(15～17歳)	0 2	0	1 1	0	0 0	1 3
二科	-52 416	4 92	5 134	-7 40	-25 50	-75 732
(15～21歳)	30 394	-9 4	24 136	-1 14	2 7	46 555
出品合計	-26 2,755	-9 501	41 779	-6 216	-20 243	-20 4,494

平成二十七年度　公益社団法人　中部日本書道会

総会　議案書

日　時　平成二十七年六月二十一日（日）・場　所　ウェスティンナゴヤキャッスル

第一号議案　平成二十六年度事業報告に関する件

平成二十六年度　事業報告

第一　書道普及振興事業（公益目的事業1）

1　展覧会事業

(1)　中部日本書道会創立八十周年記念
第六十四回中日書道展
会場及び期間
愛知県美術館
平成二十六年六月十一日(水)～六月十五日(日)
名古屋市民ギャラリー栄
平成二十六年六月十日(火)～六月十五日(日)
名古屋市博物館
平成二十六年六月十七日(火)～六月二十九日(日)
出品点数
四、五一四点
内訳
第一部（漢　字）　二、七八一点
第二部（か　な）　五一〇点
第三部（近代詩文書）　七三八点
第四部（少　字　数）　二二二点
第五部（篆刻・刻字）　二六三点

(2)　第六十五回記念中日書きぞめ展
会　期　平成二十七年三月二十一日(土・祝)～二十二日(日)
会　場　ナディアパーク　アトリウム
出品点数　一六、一四二点

(3)　中日支部学生書道展
①　第四十三回一宮支部学生書道展
会　期　平成二十六年十一月二十二日(土)～二十三日(日)
会　場　一宮スポーツセンター
出品点数　三、八九二点
②　第五十回記念半田支部学童書道展
会　期　平成二十六年七月十九日(土)～二十日(日)
会　場　半田市福祉文化会館（雁宿ホール）
出品点数　二、五四一点
③　第四十六回西三河学生書道展
会　期　平成二十六年七月十一日(金)～十三日(日)
会　場　岡崎市美術館
出品点数　六、二八八点

2　公開講座事業

(1)　第十八回公開講座
日　時　平成二十六年十一月三十日(日)
会　場　電気文化会館　イベントホール
受講者　八四名
テーマ　「墨の精神は膠である」
講　師　墨運堂会長　松井　重憲　先生
テーマ　「『古文書』を楽しむ
――三くだり半にみる女と男の縁切り――」
講　師　顧問　木戸　竹葉　先生

3　講演会、講習会、研究会事業

(1)　第二十六回書道教育研修会（実技講習会）
日　時　平成二十六年十二月二十三日(火・祝)
会　場　名古屋国際センター
参加者　一〇〇名（会員外七名）
内　容　書道講話　伊藤　昌石　先生
A「漢字――魅力ある線に――」　梶山　盛涛　先生
A「近代詩文書――線とリズム――」　後藤　啓太　先生
B「かな――美しいかな――」　塚田　俊可　先生
B「少字数――線質の変化と作品感――」　水谷　海越　先生

(2)　講演会
①　本部
平成二十七年二月十一日(水・祝)
名古屋観光ホテル
演　題「奇人・変人・書道三昧
――思い出の書人達――」
講　師　名誉顧問・書道文化研究家　西嶋　慎一　先生
参加者　四三〇名

②
一宮支部
平成二十七年二月一日(日)
一宮スポーツ文化センター
演　題「かな書道の勉強方法」
講　師　顧問　倉重　拝石　先生
参加者　一八三名

③
半田支部
平成二十七年三月十五日(日)
半田市福祉文化会館
演　題「良寛様　その心に触れる」
講　師　顧問　武山　翠屋　先生
参加者　八八名

④
東三河支部
平成二十六年七月五日(土)　ウエステージ豊橋
演　題「テレビ営業から発信するテレビの世界」
講　師　東海テレビ放送専務取締役　河合　信明　氏
参加者　六六名

⑤
西三河支部
平成二十七年二月二十一日(土)
岡崎市商工会議所
演　題「文房四寶　明時代の墨について」
講　師　徳川美術館　学芸部長　四辻　秀紀　先生
参加者　一一六名

⑥
濃飛支部
平成二十六年七月六日(日)　下呂市交流会館
演　題「書と禅　～心のおもむくままに」
講　師　下呂市　温泉寺住職　岩淺　宏観　師
参加者　三一名

⑦
岐阜支部
平成二十六年六月八日(日)　岐阜会館
演　題「墨色の全てとメカニズム」
講　師　伊藤　亀堂　先生
参加者　六七名

第二　福祉事業（公益目的事業2）
二〇一四年チャリティー愛の募金
――しあわせ薄い人々に愛の手を――
寄　託　中日新聞社社会事業団へ二百万円
東海テレビ福祉文化事業団へ百万円

第三　その他の事業（相互扶助等事業）

1　書道に関する調査研究および発表

調査研究及び発表

2　書道教育者養成及び普及事業

(1)　書道教育者の推薦制度　三件

(2)　外国研修旅行補助　〇件

3　展覧会事業

(1)　第二十二回寿書展

会　期　平成二十六年十一月二十六日(水)～十一月三十日(日)

会　場　電気文化会館　東西ギャラリー

出品点数　一八四点

(2)　中日支部展・支部選抜展

①　一宮支部

第六十回支部書道展

会　期　平成二十六年十一月二十二日(土)～二十三日(日)

会　場　一宮市スポーツセンター

出品点数　二四二点

②　半田支部

第四十八回半田支部展

会　期　平成二十六年八月三十日(土)～八月三十一日(日)

会　場　半田市福祉文化会館

出品点数　一四三点

③　西三河支部

第四十七回西三河支部会員展

会　期　平成二十七年二月十八日(水)～二十二日(日)

会　場　岡崎市美術館

出品点数　二〇四点

④　東三河支部

第三十八回東三河支部展

会　期　平成二十六年七月一日(火)～六日(日)

会　場　豊橋市美術博物館

出品点数　一二二点

⑤　東三河支部選抜展

会　期　平成二十七年二月三日(木)～九日(日)

会　場　豊橋市民文化会館

出品点数　五十九点

⑥　中南勢支部

第二十八回中南勢支部展

会　期　平成二十七年一月二十八日(木)～二月一日(日)

会　場　三重県立美術館（県民ギャラリー）

出品点数　八八点

⑦　濃飛支部

濃飛支部展

会　期　平成二十六年七月四日(金)～六日(日)

会　場　下呂　交流会館

出品点数　四九点

⑧　岐阜支部

第二十回岐阜支部会員展

会　期　平成二十六年九月十二日(金)～十四日(日)

会　場　岐阜市文化会館

出品点数　三〇八点

4　講習会・講演会・研究会・研修会事業

(1)　講習会

①　東三河支部

平成二十六年十月二十六日(日)

静岡森町アクティ森

内　容　「掛川城・資生堂アートハウス見学」

参加者　三四名

②　北勢支部

平成二十七年二月十五日(日)　じばさん三重

内　容　「自分の書を伊勢型紙に」

講　師　伊勢型紙保存会会長　六谷　泰英　氏

参加者　四〇名

(2)　講演会

①　北勢支部

平成二十六年七月十三日(日)　四日市市文化会館

演　題　「書業六十年を振り返って」

講　師　顧問　安藤　秀川　先生

参加者　七三名

②　中南勢支部

平成二十六年十月十二日(日)

演　題　「本居宣長の日常と書」

講　師　本居宣長記念館館長　吉田　悦之　先生

参加者　五〇名

(3)　研究会

①　半田支部

平成二十六年四月十三日(日)　半田市福祉文化会館

中日書道展　作品研究会

参加者　八〇名

②　西三河支部

平成二十六年三月三十日(日)　安城市作野公民館

中日書道展　作品研究会

参加者　一三六名

(4)　研修会

①　本部（史跡探訪研修旅行）

平成二十六年十一月二十八日(日)～二十九日(月)

神戸・淡路・鳴門の旅　「白鶴美術館」「大塚国際美術館」「北淡震災記念公園」他

参加者　九七名

②　一宮支部

平成二十六年十月二十六日(日)

京都の旅　「京都国立博物館光記念館」「南禅寺」

参加者　一二七名

③　半田支部

平成二十六年十一月十六日(日)

宝塚・神戸の旅　「鉄斎美術館」「白鶴美術館」

参加者　四二名

④　西三河支部

平成二十六年十月二十九日(水)

木曽路　「熊谷守一美術館」「島崎藤村記念館」

参加者　四〇名

⑤　東三河支部

平成二十六年十月二十六日(日)

静岡森町アクティ森

内　容　和紙（カレンダー）・草木染め（バンダナ）・絵付け（マグカップ）制作

参加者　三四名

⑥　濃飛支部

平成二十六年十一月十三日(木)

「浜松市楽器博物館」「賀茂真淵記念館」「浜松美術館」

参加者　一九名

⑦　北勢支部

平成二十六年十一月九日(日)

京都　「泉屋博古館」「時雨殿」他

参加者　四〇名

⑧　中南勢支部

平成二十六年六月二十九日(日)

「明治村」未来への手紙体験

参加者　四〇名

⑨　岐阜支部

平成二十六年十一月二十八日(金)

京都・滋賀　「宇治平等院」「佐川美術館」

参加者　三五名

5　福利厚生事業

(1)　塾総合保険

六三件　一、七四七名

(2)　会員交流会

会員交流ボウリング大会

平成二十六年十二月七日(日)　星ヶ丘ボウル
参加者　八四名

6　老人会色紙贈呈
半田支部
平成二十六年八月二十二日(金)
寄贈数　七〇〇点
寄贈先　半田市・武豊町・阿久比町・東浦町・美浜町・南知多町の各役場から長寿者に贈呈

7　創立八十周年記念事業
①　創立八十周年記念イベント
平成二十六年五月二十五日(日)　栄オアシス21
内　容　代表作家による大字書揮毫、小中学生による揮毫、握り墨体験、篆刻、あなたも書家気分などの参加型体験
参加者　約一、二〇〇名
②　中日展会場における
本会代表作家による席上揮毫会
平成二十六年六月十四日(土)
愛知県美術館　ロビースペース
③　記念誌「八十周年の歩み」発行

8　組織拡大事業
・会員増、各種展覧会出品者増の促進を図った。
・会員章（門章・襟章）の交付

9　広報活動事業
(1)　中日会報
一七二号　平成二十六年四月一日付け発行
一七三号　平成二十六年七月一日付け発行
一七四号　平成二十六年十月一日付け発行
一七五号　平成二十七年一月一日付け発行
(2)　支部会報
①　一宮支部
四十三号　平成二十六年六月一日付け発行
②　半田支部
七十一号　平成二十六年四月十日付け発行
七十二号　平成二十六年十月二十日付け発行
③　西三河支部
六十七号　平成二十六年六月一日付け発行
六十八号　平成二十六年十二月一日付け発行
④　東三河支部
六十六号　平成二十六年十月一日付け発行
⑤　濃飛支部
四号　平成二十七年二月一日付け発行
⑥　北勢支部
四号　平成二十七年三月二十日付け発行
⑦　岐阜支部
四十三号　平成二十六年七月二十九日付け発行
四十四号　平成二十七年二月二十日付け発行
(3)　ホームページ
随時更新

10　資料文献収集保存事業
継続中

11　書道功労者等顕彰事業
表彰期日　平成二十六年六月十五日(日)
会　場　ウエスティンナゴヤキャッスル
平成二十六年度功労者として、次の六氏に表彰状を贈呈した。
故伊藤天游　故高木大宇　故飯田棲山
故樹神北往　故高木紅宇　故森　怜華

12　福祉事業
一宮支部より一宮市社会福祉協議会へ十万円
半田支部より半田市社会福祉協議会へ十万円
西三河支部より安城市さるびあ学園へ十万円
東三河支部より中日新聞豊橋総局へ十万円
濃飛支部より中日新聞恵那支局へ五万円
中津川社会福祉協議会へ五万円
北勢支部より四日市市こども未来部へ十万円
中南勢支部より財団法人三重ボランティア基金へ十万円
岐阜支部より岐阜県庁健康福祉部福祉政策課へ十万円

第四　管理業務

本会の事業の遂行のため以下の会議をそれぞれ開催した。

1　総会
平成二十六年六月十五日(日)
ウエスティンナゴヤキャッスルにて開催
次の議案について審議、原案の通り議決した。
第一号議案　平成二十五年度事業報告書の承認に関する件
第二号議案　平成二十五年度収支決算書の承認に関する件
第三号議案　財産目録の承認に関する件

2　理事会
第一回理事会
平成二十六年五月十八日(日)　本部にて開催
次の議案について審議、原案の通り議決した。
第一号議案　平成二十五年度事業報告書の承認に関する件
第二号議案　平成二十五年度収支決算書の承認に関する件
第三号議案　財産目録の承認に関する件
第四号議案　名誉顧問の承認に関する件
第五号議案　平成二十六年度総会の日時及び場所並びに目的である事項の承認に関する件
第二回理事会
平成二十七年二月十一日(水・祝)
名古屋観光ホテルにて開催
次の議案について審議、原案の通り議決した。
第一号議案　平成二十七年度事業計画（案）に関する件
第二号議案　平成二十七年度予算（案）に関する件
第三号議案　評議員の承認に関する件
第四号議案　正会員の承認に関する件
第五号議案　審査会員の承認に関する件
第六号議案　正会員・審査会員の承認に関する件

3　評議員会
平成二十七年二月十一日(水・祝)
名古屋観光ホテルにて開催
次の事項について報告をした。
(1)　平成二十七年度事業計画書について
(2)　平成二十七年度収支予算書について
(3)　正会員・審査会員の承認ついて

4　企画委員会
(1)　第一回企画委員会
平成二十六年四月六日(日)　キャッスルプラザ
(2)　第二回企画委員会
平成二十六年五月十八日(日)　本部
(3)　第三回企画委員会
平成二十六年六月十五日(日)
ウエスティンナゴヤキャッスル
(4)　第四回企画委員会
平成二十六年七月十三日(日)　本部
(5)　第五回企画委員会
平成二十六年九月七日(日)　本部
(6)　第六回企画委員会
平成二十六年十月十三日(日)　本部
(7)　第七回企画委員会
平成二十六年十一月三十日(土)　キャッスルプラザ
(8)　第八回企画委員会
平成二十六年十二月二十三日(火・祝)　本部
(9)　第九回企画委員会
平成二十七年一月十七日(土)　本部
(10)　第十回企画委員会
平成二十七年二月十一日(水・祝)　名古屋観光ホテル
(11)　第十一回企画委員会
平成二十七年三月十四日(土)　本部

第２号議案　平成26年度収支報告に関する件

平成26年度　収支計算書

（自　平成26年４月１日　至　平成27年３月31日）

科目	決算額（A）	予算額（B）	差異(A)-(B)	説明
	円	円	円	
Ⅰ　事業活動収支の部				
1．事業活動収入				
①基本財産運用収入				
1　基本財産利息収入	7,500	7,500	0	
②特定資産運用収入				
1　特定資産利息収入	27,222	21,500	5,722	
③会費収入				
1　評議員以上受取会費収入	12,573,000	12,320,000	253,000	評議員以上11000円×1143名
2　正会員受取会費収入	17,829,000	18,900,000	△ 1,071,000	正会員7000円×2547名
3　準会員受取会費収入	2,510,000	3,250,000	△ 740,000	準会員5000円×502名
4　協賛会員受取会費収入	1,025,000	1,125,000	△ 100,000	協賛会員25000円×41件
会費収入計	33,937,000	35,595,000	△ 1,658,000	
④過年度会費				
1　評議員以上過年度会費	33,000	0	33,000	評議員以上11000円×3名
2　正会員過年度会費	567,000	0	567,000	正会員7000円×81名
3　準会員過年度会費	155,000	0	155,000	準会員5000円×31名
4　協賛会員過年度会費	0	0	0	
過年度会費計	755,000	0	755,000	
⑤事業収入				
1　寿書展参加料	567,000	750,000	△ 183,000	3000円×169点、会員外4000円×15点
2　支部展収入	5,580,000	5,143,000	437,000	支部別内訳参照
3　支部学生展収入	6,002,423	5,755,000	247,423	支部別内訳参照
4　支部選抜展収入	196,000	300,000	△ 104,000	支部別内訳参照
5　支部研修会収入	2,979,500	2,121,000	858,500	支部別内訳参照
6　支部講習会収入	162,000	160,000	2,000	支部別内訳参照
7　書道教育者推薦教室看板料収入	75,000	100,000	△ 25,000	25000円×3件
8　塾総合保険料収入	291,861	350,000	△ 58,139	63件1747名
9　会員交流参加料収入	323,000	300,000	23,000	3000円×73名、4000円×11名、協賛費
10　公開講座参加料収入	168,000	280,000	△ 112,000	2000円×84名
11　書道教育研修参加料収入	21,000	75,000	△ 54,000	3000円×100名（有料7名）
12　周年記念事業収入	0	0	0	
13　中日展収入	48,414,100	47,885,000	529,100	中日展収入内訳参照
14　中日書きぞめ展収入	5,902,920	5,824,000	78,920	400円×約16000点（整理費差引）
15　愛の募金収入	4,409,000	4,500,000	△ 91,000	
16　本部祝賀会収入	15,297,200	16,500,000	△ 1,202,800	
17　支部祝賀会収入	2,450,500	2,540,000	△ 89,500	支部別内訳参照
事業収入計	92,839,504	92,583,000	256,504	
⑥寄付金収入				
1　受取寄付金	800,000	0	800,000	
寄付金収入計	800,000	0	800,000	
⑦雑収入				
1　普通預金受取利息	2,842	1,500	1,342	
2　会員名簿広告料収入	0	0	0	
3　宛名ラベル発行手数料収入	349,665	400,000	△ 50,335	
4　負担金収入	98,000	90,000	8,000	一宮芸術祭交付金
5　雑収入	189,640	0	189,640	協賛金（一宮　半田　北勢）
雑収入計	640,147	491,500	148,647	
事業活動収入計	129,006,373	128,698,500	307,873	
2．事業活動支出				
①事業費支出				支部事業費含む
1　企画委員を兼務する評議員報酬	1,485,480	1,486,000	△ 520	
2　臨時雇賃金	1,404,832	1,054,000	350,832	中日展・寿展受付等
3　報償謝金	2,021,332	2,740,000	△ 718,668	各種謝礼
4　報償奨励	9,032,137	8,654,000	378,137	賞品代、記念品代
5　報償交際	373,240	532,000	△ 158,760	
6　旅費交通費	11,399,933	11,926,500	△ 526,567	作業時交通費、タクシー・バス等
7　食糧費	8,161,577	7,529,300	632,277	作業時食糧費等
8　消耗品費	2,019,194	3,338,000	△ 1,318,806	
9　印刷製本費	13,447,378	12,303,500	1,143,878	
10　光熱水費	81,215	87,000	△ 5,785	半田支部事業光熱費
11　通信運搬費	1,165,023	3,135,100	△ 1,970,077	
12　手数料	430,434	2,027,900	△ 1,597,466	
13　使用料	11,922,771	9,413,000	2,509,771	会場使用料
14　消耗什器備品費	104,252	100,000	4,252	
15　負担金	380,000	300,000	80,000	一宮支部事業支払会費
16　委託料	3,110,360	4,521,000	△ 1,410,640	看板作成等
17　寄託費	3,870,000	3,860,000	10,000	愛の募金による寄託　ほか
18　補助助成	0	100,000	△ 100,000	外国研修補助ナシ
19　会員交流費	528,360	566,000	△ 37,640	ボウリング大会
20　本部祝賀会費	15,357,040	16,500,000	△ 1,142,960	
21　支部祝賀会費	2,469,198	2,556,000	△ 86,802	
22　対外広報費	7,507,000	7,519,000	△ 12,000	中日新聞ほか掲載料
23　会議費	1,437,842	1,358,000	79,842	
24　保険料	328,849	378,000	△ 49,151	塾保険等
25　新聞図書費	0	0	0	
26　表装保管料	2,337,806	2,217,000	120,806	若年層作品ほか
事業費支出計	100,375,253	104,201,300	△ 3,826,047	事業別一覧参照

備考

支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃飛	北勢	中南勢	岐阜	合計
1 評議員以上会費	329,000	101,500	301,000	112,000	42,000	129,500	70,000	455,000	1,540,000
2 正会員会費	777,000	423,500	777,000	248,500	42,000	220,500	192,500	903,000	3,584,000
3 準会員会費	137,500	125,000	187,500	100,000	57,500	55,000	15,000	67,500	745,000
合計	1,243,500	650,000	1,265,500	460,500	141,500	405,000	277,500	1,425,500	5,869,000

支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃飛	北勢	中南勢	岐阜	合計
1 支部展収入	1,226,000	842,000	1,482,000	826,000	171,000	168,000	260,000	605,000	5,580,000
2 支部学生展収入	1,452,480	1,495,500	3,054,443	0	0	0	0	0	6,002,423
3 支部選抜展収入	0	0	0	196,000	0	0	0	0	196,000
4 支部研修会収入	1,279,000	388,000	400,000	0	162,000	295,500	280,000	175,000	2,979,500
5 支部講習会収入	0	0	0	140,000	0	22,000	0	0	162,000
6 支部祝賀会収入	1,022,000	359,500	0	0	290,000	165,000	314,000	300,000	2,450,500
合計	4,979,480	3,085,000	4,936,443	1,162,000	623,000	650,500	854,000	1,080,000	17,370,423

支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃飛	北勢	中南勢	岐阜	合計
1 特定資産利息収入	4,237	0	0	0	0	34	0	0	4,271
2 受取寄付金									0
3 普通預金受取利息	227	8	248	0	13	0	0	45	541
4 宛名ラベル発行手数料収入									0
5 負担金収入	98,000								98,000
6 雑収入	120,000	0	60,440	0	0	0	0	0	180,440
合計	222,464	8	60,688	0	13	34	0	45	283,252

積立金取崩	1,000,000	0	0	0	0	0	0	0	1,000,000

支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃飛	北勢	中南勢	岐阜	合計
1 講演会費	106,357	55,685	67,278	0	33,132	151,892	119,308	131,900	665,552
2 講習会費	0	0	0	0	0	89,836	0	0	89,836
3 研究会費	0	10,459	112,670	0	0	0	0	0	123,129
4 支部研修費	1,283,507	423,858	393,216	268,548	161,094	363,865	388,801	351,092	3,633,981
5 支部選抜展費	0	0	0	314,434	0	0	0	0	314,434
6 支部学生展費	1,842,689	1,510,269	2,902,165	0	0	0	0	0	6,255,123
7 支部展費	926,803	635,142	1,244,033	1,066,534	152,218	150,342	224,649	492,013	4,891,734
8 色紙展費	0	118,610	0	0	0	0	0	0	118,610
9 書道振興事業費	380,000	0	0	0	0	0	0	0	380,000
10 周年記念事業費	1,100,138	0	0	0	0	0	0	0	1,100,138
11 支部祝賀会費	945,000	438,213	0	0	205,612	165,000	386,190	329,183	2,469,198
事業費計	6,584,494	3,192,236	4,719,362	1,649,516	552,056	920,935	1,118,948	1,304,188	20,041,735
1 支部事務所費	1,013,610	473,988	1,160,071	278,698	124,669	126,371	69,644	1,198,471	4,445,522
合計	7,598,104	3,666,224	5,879,433	1,928,214	676,725	1,047,306	1,188,592	2,502,659	24,487,257

記念事業積立	70,000	0	0	0	0	30,034	0	0	100,034
本部へ過納									0
本部より返金									0
本部へ預り金			17,500						17,500
会費前受金			12,500						12,500

前期末繰越	387,467	73,840	157,186	309,058	14,562	37,983	73,482	410,659	1,464,237
次期繰越	164,807	142,624	570,384	3,344	102,350	16,177	16,390	413,545	1,429,621

科目	決算額（A）	予算額（B）	差異(A)-(B)	説明
	円	円	円	
②管理費支出				支部事務所費含む
1 理事監事報酬	1,927,981	2,041,000	△ 113,019	
2 名誉会長報酬	206,318	207,000	△ 682	
3 名誉副会長報酬	61,890	104,000	△ 42,110	
4 学術顧問報酬	309,478	413,000	△ 103,522	
5 従業員給料手当	4,968,125	2,606,000	2,362,125	職員給与・賞与
6 従業員退職金	0	0	0	職員退職金
7 臨時雇賃金	862,317	1,600,000	△ 737,683	臨時職員
8 福利厚生費	120,825	200,000	△ 79,175	
9 報償謝金	1,711,492	1,705,000	6,492	税理士・司法書士・労務士
10 報償奨励	269,668	60,000	209,668	支部賞品代、記念品代
11 報償交際	1,123,225	894,000	229,225	慶弔等
12 旅費交通費	3,644,035	2,984,000	660,035	交通費、タクシー、駐車料
13 食糧費	725,819	2,390,000	△ 1,664,181	
14 消耗品費	916,502	581,000	335,502	
15 印刷製本費	9,300,243	8,411,000	889,243	会報、議案書ほか、会員名簿ナシ
16 光熱水費	349,673	468,000	△ 118,327	本部事務所電気、冷暖房
17 通信運搬費	3,854,101	2,953,000	901,101	電話、郵送料等
18 手数料	340,229	400,000	△ 59,771	振込
19 事務所賃料	6,641,995	6,646,000	△ 4,005	本部・支部事務所
20 使用料	1,581,315	1,627,000	△ 45,685	会議室、印刷機リースほか
21 消耗什器備品費	225,810	0	225,810	
22 租税公課	24,900	50,000	△ 25,100	法人税
23 負担金	325,750	236,000	89,750	諸会費
24 委託料	1,320,782	1,585,000	△ 264,218	総会等看板、派遣社員
25 寄託費	50,000	50,000	0	全日本書道連盟募金
26 補助助成	33,000	0	33,000	西三河支部補助金
27 法定福利	867,794	400,000	467,794	職員社会保険・雇用保険
28 対外広報費	351,400	0	351,400	新聞広告
29 会議費	2,026,186	218,000	1,808,186	
30 新聞図書費	40,872	37,000	3,872	
31 雑支出	0	0	0	
管理費支出計	44,181,725	38,866,000	5,315,725	管理費目別一覧参照
事業活動支出計	144,556,978	143,067,300	1,489,678	
事業活動収支差額	−15,550,605	−14,368,800	△ 1,181,805	
Ⅱ 投資活動収支の部				
1．投資活動収入				
①特定資産取崩収入				資産取崩
1 退職給付引当資産取崩	0	0	0	
2 設備拡充資金積立金支出取崩	0	0	0	
3 本部記念事業積立金取崩	1,600,000	2,000,000	△ 400,000	80周年事業
4 本部定期取崩	8,500,000	8,500,000	0	80周年事業
5 名簿費引当金取崩	0	0	0	25・26年度用
6 支部特定資産積立金取崩	1,000,000	1,000,000	0	一宮60周年
投資活動収入計	11,100,000	11,500,000	△ 400,000	
2．投資活動支出				
①特定資産取得支出				資産積立
1 退職給付引当資産取得支出	144,000	72,000	72,000	
2 設備拡充資金積立金支出	50,000	50,000	0	
3 本部80周年記念事業積立金支出	0	0	0	平成26年
4 本部90周年記念事業積立金支出	300,000	300,000	0	
5 名簿費引当金積立支出	500,000	500,000	0	
6 支部特定資産積立金支出	100,034	80,000	20,034	一宮、北勢
特定資産取得支出計	1,094,034	1,002,000	92,034	
②固定資産取得支出				
1 什器備品取得支出	767,116	0	767,116	10万円以上備品
固定資産取得支出計	767,116	0	767,116	
投資活動支出計	1,861,150	1,002,000	859,150	
投資活動収支差額	9,238,850	10,498,000	△ 1,259,150	
Ⅲ 財務活動収支の部				
1．財務活動収入	0	0	0	借入金
2．財務活動支出	0	0	0	返済
財務活動収支差額	0	0	0	
予備費支出	0	300,000	△ 300,000	
当期収支差額	−6,311,755	−4,170,800	△ 2,140,955	
前期繰越収支差額	15,232,541	8,950,142	6,282,399	
次期繰越収支差額	8,920,786	4,779,342	4,141,444	

（注）1　収支予算書は「公益法人会計における内部管理事項について」（平成17年3月23日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ）の記載の様式によっている。

備考

中日展収入内訳	決算額	予算額	増減	説明
1 審査会員以上出品料	15,386,000	15,050,000	336,000	14000円×1099点
2 依嘱・無鑑査出品料	12,708,000	12,120,000	588,000	12000円×1059点
3 一科出品料	8,748,000	9,000,000	△ 252,000	9000円×972点
4 二科出品料	5,649,000	5,950,000	△ 301,000	7000円×807点
5 若年層出品料	2,885,000	2,750,000	135,000	5000円×577点
6 入場料	262,500	255,000	7,500	300円×875名
7 入賞目録	60,600	50,000	10,600	200円×303部
8 社中広告料	1,840,000	1,800,000	40,000	40000円×46件
9 協賛店広告料	875,000	910,000	△ 35,000	35000円×25件
合計	48,414,100	47,885,000	529,100	

事業別内訳	決算額	予算額	増減	説明
1 講演会費	1,326,702	901,000	425,702	支部は支部別内訳参照
2 寿書展費	1,004,006	1,190,000	△ 185,994	
3 支部講習会費	89,836	295,000	△ 205,164	支部別内訳参照
4 支部研究会費	123,129	185,300	△ 62,171	支部別内訳参照
5 支部研修会費	3,633,981	2,613,000	1,020,981	支部別内訳参照
6 支部選抜展費	314,434	300,000	14,434	支部別内訳参照
7 支部学生展費	6,255,123	6,333,000	△ 77,877	支部別内訳参照
8 支部展費	4,891,734	4,602,000	289,734	支部別内訳参照
9 色紙展費	118,610	133,000	△ 14,390	支部別内訳参照
10 書道振興事業費	380,000	300,000	80,000	一宮
11 書道教育研修費	843,489	772,000	71,489	
12 外国研修補助費	0	100,000	△ 100,000	
13 功労者等顕彰費	430,000	335,000	95,000	
14 書道教育者養成費	60,480	100,000	△ 39,520	教室看板
15 塾総合保険事業費	288,180	366,000	△ 77,820	
16 史跡探訪費	1,615,455	1,105,000	510,455	
17 書道普及事業費	2,017,259	2,318,000	△ 300,741	企画委員会
18 周年記念事業費	13,591,400	15,509,000	△ 1,917,600	本部、一宮
19 情報提供事業	508,242	747,000	△ 238,758	サイト運営
20 調査研究費	0	30,000	△ 30,000	
21 資料収集費	0	60,000	△ 60,000	
22 公開講座費	416,972	655,000	△ 238,028	
23 中日展費	33,877,119	35,212,000	△ 1,334,881	
24 中日書きぞめ展費	5,894,580	6,027,000	△ 132,420	
25 愛の募金費	4,130,090	4,326,000	△ 195,910	
26 会員交流費	651,944	631,000	20,944	
27 本部祝賀会費	15,443,290	16,500,000	△ 1,056,710	
28 支部祝賀会費	2,469,198	2,556,000	△ 86,802	支部別内訳参照
合計	100,375,253	104,201,300	△ 3,826,047	

管理費目別内訳	決算額	予算額	増減	説明
1 会議費	4,632,389	4,951,000	△ 318,611	本部
(1)総会	1,854,979	1,989,000	△ 134,021	
(2)理事会	1,584,810	1,243,000	341,810	
(3)理事・評議員会	1,192,600	1,719,000	△ 526,400	
2 事務局費	29,393,736	22,059,000	7,334,736	本部
3 支部事務所費	4,445,522	4,522,000	△ 76,478	支部別一覧参照
4 慶弔費	225,110	410,000	△ 184,890	供花、見舞金等
5 会報費	5,474,968	6,900,000	△ 1,425,032	年4回発行
6 名簿費	10,000	24,000	△ 14,000	
合計	44,181,725	38,866,000	5,315,725	

事業及び管理合計	144,556,978	143,067,300	1,489,678	

収支計算書に対する注記

1　資金の範囲
資金の範囲には、現金預金、振替貯金、定期預金、前払費用、過払金、預け金、未払金、前受金、預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2　次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内容

科目	当期末残高	前期末残高	差異	説明
1 現金	2,651,093	2,103,955	547,138	
2 普通預金	3,176,485	4,041,311	△ 864,826	
3 振替貯金	598,743	163,514	435,229	
4 定期預金	2,636,000	8,636,000	△ 6,000,000	
5 前払金	0	341,402	△ 341,402	
6 過払金	104,220	0	104,220	印刷屋928
7 預け金	0	88,587	△ 88,587	源泉税、市民税、社会保険料
8 未収金	4,282,000	3,938,000	344,000	年会費過年度分
資産合計	13,448,541	19,312,769	△ 5,864,228	
1 預り金	220,755	135,628	85,127	源泉税、社会保険料
2 前受金	25,000	0	25,000	27年度西三河準会員受取会費
3 未払金	0	6,600	△ 6,600	
負債合計	245,755	142,228	103,527	
次期繰越収支差額	13,202,786	19,170,541	△ 5,967,755	

貸　借　対　照　表

平成27年3月31日現在

科　目	当　期（A）	前　期（B）	増 減（A）－（B）	説　明
	円	円	円	
Ⅰ　資産の部				
1.　流動資産				
①現金預金				
現金	2,651,093	2,103,955	547,138	
普通預金	3,176,485	4,041,311	△ 864,826	
郵便振替	598,743	163,514	435,229	
定期預金	2,636,000	8,636,000	△ 6,000,000	
現金預金合計	9,062,321	14,944,780	△ 5,882,459	
②前払費用				
前払費用	0	330,062	△ 330,062	
過払金	104,220	0	104,220	印刷屋928
仮払金	0	11,340	△ 11,340	
前払金合計	104,220	341,402	△ 237,182	
③預け金				
源泉税	0	1,675	△ 1,675	
市県民税	0	9,000	△ 9,000	
社会保険料	0	77,912	△ 77,912	
預け金合計	0	88,587	△ 88,587	
④未収金				
未収会費	4,282,000	3,938,000	344,000	前回から計上
流動資産合計	13,448,541	19,312,769	△ 5,864,228	
2.　固定資産				
①基本財産				
定期預金	30,000,000	30,000,000	0	
②特定資産				
定期預金	73,500,000	82,000,000	△ 8,500,000	
本部積立金	1,302,000	1,908,000	△ 606,000	
支部積立金	510,092	1,410,058	△ 899,966	
特定資産合計	75,312,092	85,318,058	△ 10,005,966	
③その他の固定資産				
備品	650,424	10,133	640,291	
電話加入権	171,533	171,533	0	
保証金	2,952,320	2,952,320	0	桑山ビル分
その他の固定資産合計	3,774,277	3,133,986	640,291	
固定資産合計	109,086,369	118,452,044	△ 9,365,675	
資産合計	122,534,910	137,764,813	△ 15,229,903	
Ⅱ　負債の部				
1.　流動負債				
預り金	220,755	135,628	85,127	
前受金	25,000	0	25,000	西三河準会員受取会費
未払金	0	6,600	△ 6,600	
流動負債合計	245,755	142,228	103,527	
2.　固定負債				
固定負債合計	0	0	0	
負債合計	245,755	142,228	103,527	
Ⅲ　正味財産の部				
1.　指定正味財産	30,000,000	30,000,000	0	
2.　一般正味財産	92,289,155	107,622,585	△ 15,333,430	
正味財産合計	122,289,155	137,622,585	△ 15,333,430	Ⓑ
負債及び正味財産合計	122,534,910	137,764,813	△ 15,229,903	Ⓐ

第３号議案　財産目録の承認に関する件

財　産　目　録

平成27年3月31日現在

	円
総資産額	122,534,910Ⓐ
基本財産	30,000,000
運用財産	92,534,910
負債	245,755

Ⅰ　資産の部		円	
1.　流動資産			
①現金預金（運用資産）			
(1)現金	本部　現金	2,217,084	
	一宮支部　現金	116,757	
	半田支部　現金	2,630	
	西三河支部　現金	171,423	
	東三河支部　現金	2,322	
	濃飛支部　現金	24,767	
	北勢支部　現金	9,551	
	中南勢支部　現金	15,882	
	岐阜支部　現金	90,677	
	現金合計	2,651,093	

(2)普通預金	三菱東京UFJ銀行柳橋支店	579,480	①－1
	三菱東京UFJ銀行柳橋支店（理）	513,037	②
	三菱東京UFJ銀行新名古屋駅前支店	94,694	③－1
	大垣共立銀行菊井町支店	1,054,884	④
	一宮支部　ゆうちょ銀行	48,050	⑤－1
	半田支部　半田信用金庫	139,994	⑥
	西三河支部　ゆうちょ銀行	31,956	⑦
	西三河支部　瀬戸信用金庫	332,915	⑧
	濃飛支部　ゆうちょ銀行	77,583	⑨－1
	北勢支部　ゆうちょ銀行	1,825	⑩
	岐阜支部　関信用金庫	302,067	⑪
	普通預金合計	3,176,485	
(3)郵便振替	本部　名古屋中央郵便局	537,521	⑫
	一宮支部　郵便振替	0	⑬
	半田支部　郵便振替	0	⑭
	西三河支部　郵便振替	34,090	⑮
	東三河支部　郵便振替	1,022	⑯
	濃飛支部　郵便振替	0	
	北勢支部　郵便振替	4,801	⑰
	中南勢支部　郵便振替	508	⑱
	岐阜支部　郵便振替	20,801	⑲
	郵便振替合計	598,743	
(4)定期預金	三菱東京UFJ銀行柳橋支店	2,636,000	①－2
	大垣共立銀行菊井町支店	0	④－2
	定期預金合計	2,636,000	
②前払金（運用資産）	過払金	104,220	印刷屋928
	前払金合計	104,220	
③未収金（運用資産）	未収会費	4,282,000	年会費、協賛会費
	流動資産合計	13,448,541	
２．固定資産			
①基本財産			
(1)土地	該当なし		
(2)建物	該当なし		
(3)基本金	三菱東京UFJ銀行柳橋支店	30,000,000	本部 公益目的保有財産 ①－3
(4)有価証券	該当なし		
(5)機械器具	該当なし		
	基本財産合計	30,000,000	
②特定資産（運用財産）			
(1)土地	該当なし		
(2)建物	該当なし		
(3)特定資産			
定期預金	三菱東京UFJ銀行新名古屋駅前支店	73,500,000	本部 公益目的保有財産 ③－2
本部積立金			
80周年記念事業積立金	三菱東京UFJ銀行柳橋支店	0	平成26年用
90周年記念事業積立金	三菱東京UFJ銀行柳橋支店	300,000	平成36年用　①－4
設備拡充資金積立金	三菱東京UFJ銀行柳橋支店	100,000	①－5
名簿費引当金	三菱東京UFJ銀行柳橋支店	500,000	①－6
退職給付引当金	三菱東京UFJ銀行柳橋支店	402,000	①－7
支部積立金			
一宮支部70周年記念事業積立金	ゆうちょ銀行	70,000	平成36年用　⑤－2
東三河支部40周年記念事業積立金	ゆうちょ銀行	200,000	平成28年用　⑳
濃飛支部30周年記念事業積立金	ゆうちょ銀行	30,000	平成27年用　⑨－2
北勢支部30周年記念事業積立金	百五銀行東員支店	210,092	平成28年用　㉑
	特定資産合計	75,312,092	
③その他の固定資産（運用財産）			
(1)備品	パソコン	1	本部　公益目的保有財産
	プロジェクター	1	本部　公益目的保有財産
	印章	400,000	本部　公益目的保有財産
	パソコン	250,422	本部　公益目的保有財産
(2)その他	電話加入権	171,533	本部　公益目的保有財産
	保証金	2,952,320	本部 公益目的保有財産 株式会社桑山
	その他の固定資産合計	3,774,277	
	固定資産合計	109,086,369	
	資産合計	122,534,910	Ⓐ
３．負債	預り金	148,412	１～３月分源泉所得税
		6,300	３月分市県民税
		66,043	３月分社会保険料
	預り金合計	220,755	
	前受金	25,000	西三河準会員受取会費
	負債合計	245,755	

正味財産増減計算書

自　平成26年4月1日
至　平成27年3月31日

科目	当期(A)	前期(B)	増減(A)−(B)	説明
	円	円	円	
Ⅰ　一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
①基本財産運用益				
1 基本財産受取利息	7,500	9,000	△ 1,500	
②特定資産運用益				
1 特定資産受取利息	27,222	24,872	2,350	
③受取会費				
1 評議員受取会費	12,573,000	12,309,000	264,000	
2 正会員受取会費	17,829,000	18,074,000	△ 245,000	
3 準会員受取会費	2,510,000	2,990,000	△ 480,000	
4 協賛会員受取会費	1,025,000	1,125,000	△ 100,000	
5 未収会費	1,099,000	3,938,000	△ 2,839,000	前回から計上
会費収入計	35,036,000	38,436,000	△ 3,400,000	
④過年度会費				
1 評議員過年度会費	0	0	0	
2 正会員過年度会費	0	0	0	
3 準会員過年度会費	0	0	0	
4 協賛会員過年度会費	0	0	0	
過年度会費収入計	0	0	0	
⑤事業収益				
1 寿書展参加料	567,000	623,000	△ 56,000	
2 支部展参加料	5,580,000	4,075,000	1,505,000	
3 支部学生展参加料	6,002,423	5,585,065	417,358	
4 支部選抜展参加料	196,000	453,000	△ 257,000	
5 支部研修会参加料	2,979,500	3,310,100	△ 330,600	
6 支部講習会参加料	162,000	0	162,000	
7 書道教育者推薦教室看板料	75,000	125,000	△ 50,000	
8 塾総合保険料	291,861	294,830	△ 2,969	
9 会員交流参加料	323,000	228,000	95,000	
10 公開講座参加料	168,000	284,000	△ 116,000	
11 書道教育研修参加料	21,000	57,000	△ 36,000	
12 80周年記念事業収入	0	0	0	
13 中日展収入	48,414,100	48,238,200	175,900	
14 中日書きぞめ展収入	5,902,920	6,043,480	△ 140,560	
15 愛の募金収入	4,409,000	4,503,000	△ 94,000	
16 本部祝賀会収入	15,297,200	16,203,000	△ 905,800	
17 支部祝賀会収入	2,450,500	2,881,000	△ 430,500	
事業収益計	92,839,504	92,903,675	△ 64,171	
⑥受取寄付金				
受取寄付金	800,000	72,000	728,000	
⑦雑収益				
普通預金受取利息	2,842	3,230	△ 388	
会員名簿広告料収入	0	990,000	△ 990,000	
宛名ラベル発行手数料収入	349,665	315,195	34,470	
負担金収入	98,000	96,000	2,000	
雑収入	189,640	608,762	△ 419,122	
雑収益計	640,147	2,013,187	△ 1,373,040	
経常収益計	129,350,373	133,458,734	△ 4,108,361	
(2) 経常費用				
1 理事監事報酬	1,927,981	2,124,011	△ 196,030	
2 名誉会長報酬	206,318	225,899	△ 19,581	
3 名誉副会長報酬	61,890	103,780	△ 41,890	
4 学術顧問報酬	309,478	334,112	△ 24,634	
5 企画委員を兼務する評議員報酬	1,485,480	1,520,847	△ 35,367	
6 従業員給料手当	4,968,125	5,085,760	△ 117,635	
7 退職金	0	427,000	△ 427,000	
8 臨時雇賃金	2,267,149	1,217,725	1,049,424	
9 福利厚生費	120,825	140,309	△ 19,484	
10 報償謝金	3,732,824	2,658,195	1,074,629	
11 報償奨励	9,301,805	8,809,791	492,014	
12 報償交際	1,496,465	1,035,963	460,502	
13 旅費交通費	15,043,968	14,142,838	901,130	
14 食糧費	8,887,396	8,391,824	495,572	
15 消耗品費	2,935,696	1,392,205	1,543,491	
16 印刷製本費	22,747,621	19,092,196	3,655,425	
17 光熱水費	430,888	415,234	15,654	
18 通信運搬費	5,019,124	5,491,000	△ 471,876	
19 手数料	770,663	1,074,539	△ 303,876	
20 事務所賃料	6,641,995	6,476,786	165,209	

21 使用料	13,504,086	10,905,788	2,598,298	
22 消耗什器備品費	330,062	24,065	305,997	
23 租税公課	24,900	24,300	600	
24 負担金	705,750	650,922	54,828	
25 委託料	4,431,142	1,118,226	3,312,916	
26 寄託費	3,920,000	3,920,000	0	
27 補助助成	33,000	78,000	△ 45,000	
28 対外広報費	7,858,400	7,591,000	267,400	
29 会議費	3,464,028	4,145,738	△ 681,710	
30 保険料	328,849	336,669	△ 7,820	
31 新聞図書費	40,872	39,600	1,272	
32 表装保管料	2,337,806	2,164,493	173,313	
33 法定福利	867,794	1,040,983	△ 173,189	
34 会員交流費	528,360	309,600	218,760	
35 本部講演会祝賀会費	15,357,040	16,111,479	△ 754,439	
36 支部展覧会講演会費	2,469,198	2,584,124	△ 114,926	
37 什器備品減価償却費	126,825	10,132	116,693	
38 雑支出	0	0	0	
経常費用計	144,683,803	131,215,133	13,468,670	
当期経常増減額	−15,333,430	2,243,601	△ 17,577,031	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	−15,333,430	2,243,601	△ 17,577,031	
一般正味財産期首残高	107,622,585	105,378,984	2,243,601	
一般正味財産期末残高	92,289,155	107,622,585	△ 15,333,430	
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	30,000,000	30,000,000	0	
指定正味財産期末残高	30,000,000	30,000,000	0	
Ⅲ 正味財産期末残高	122,289,155	137,622,585	△ 15,333,430	Ⓑ

正味財産増減計算書

（損益計算ベースかつ事業別に区分したもの）
平成26年４月１日から平成27年３月31日まで
公益社団法人　中部日本書道会

（単位　円）

科目	公益目的事業会計		収益事業等会計	法人会計	合計	備考
	公1	公2	他1			
Ⅰ 一般正味財産増減の部						
(1) 経常収益						
①基本財産運用収入						
基本財産運用収入	7,500	0	0	0	7,500	
②特定資産運用収入						
特定資産運用収入	27,222	0	0	0	27,222	
③会費収入						
評議員等会費収入	6,286,500	0	1,257,300	5,029,200	12,573,000	評議員以上11000円×1143名
正会員会費収入	8,914,500	0	1,782,900	7,131,600	17,829,000	正会員7000円×2547名
準会員会費収入	1,255,000	0	251,000	1,004,000	2,510,000	準会員5000円×502名
協賛会員会費収入	512,500	0	102,500	410,000	1,025,000	協賛会員25000円×41件
未収会費	549,500		109,900	439,600	1,099,000	
④過年度会費収入						
評議員等会費収入	0	0	0	0	0	
正会員会費収入	0	0	0	0	0	
準会員会費収入	0	0	0	0	0	
協賛会員会費収入	0	0	0	0	0	
⑤事業収益						
寿書展収入	0	0	567,000	0	567,000	3000円×169点、会員外4000円×15点
支部展収入	0	0	5,580,000	0	5,580,000	支部別内訳参照
支部学生展収入	6,002,423	0	0	0	6,002,423	支部別内訳参照
支部選抜展収入	0	0	196,000	0	196,000	支部別内訳参照
支部研修会収入	0	0	2,979,500	0	2,979,500	支部別内訳参照
支部講演会収入	0	0	162,000	0	162,000	支部別内訳参照
書道教育者推薦教室看板料	0	0	75,000	0	75,000	25000円×3件
塾総合保険料	0	0	291,861	0	291,861	63件1747名

会員交流参加料	0	0	323,000	0	323,000	3000円×73名、4000円×11名、協賛費
公開講座参加料	168,000	0	0	0	168,000	2000円×84名
書道教育研修参加料	0	0	21,000	0	21,000	3000円×100名（有料7名）
周年記念事業収入	0	0	0	0	0	
中日展収入	48,414,100	0	0	0	48,414,100	中日展収入内訳参照
中日書きぞめ展収入	5,902,920	0	0	0	5,902,920	400円×約16000点（整理費差引）
愛の募金収入	0	4,409,000	0	0	4,409,000	
本部祝賀会収入	0	0	15,297,200	0	15,297,200	
支部祝賀会収入	0	0	2,450,500	0	2,450,500	支部別内訳参照
⑥寄付金収入						
寄付金収入	800,000	0	0	0	800,000	FAQ Ⅵ-1-①
⑦雑収入						
普通預金受取利息	0	0	0	2,842	2,842	
会員名簿広告料収入	0	0	0	0	0	
宛名ラベル発行手数料収入	0	0	0	349,665	349,665	
負担金収入	98,000	0	0	0	98,000	一宮芸術祭交付金FAQ Ⅵ-1-①
雑収入	0	0	0	189,640	189,640	協賛金（一宮　半田　北勢）
経常収益計	78,938,165	4,409,000	31,446,661	14,556,547	129,350,373	
(2) 経常費用						
理事監事報酬	0	0	0	1,927,981	1,927,981	
名誉会長報酬	0	0	0	206,318	206,318	
名誉副会長報酬	0	0	0	61,890	61,890	
学術顧問報酬	0	0	0	309,478	309,478	
企画委員を兼務する評議員報酬	1,336,932	0	148,548	0	1,485,480	
従業員給料手当	3,974,501	0	496,812	496,812	4,968,125	職員給与・賞与
退職給付	0	0	0	0	0	
臨時雇賃金	2,040,435	0	226,714	0	2,267,149	中日展・寿展
福利厚生費	96,661	0	12,082	12,082	120,825	
報償謝金	2,986,260	0	373,282	373,282	3,732,824	各種謝礼／税理士・司法書士等
報償奨励	8,371,625	0	930,180	0	9,301,805	賞品代・記念品代／支部賞品代・記念品代
報償交際	0	0	374,116	1,122,349	1,496,465	支部事業交際費／慶弔等
旅費交通費	13,539,572	0	1,504,396	0	15,043,968	作業時交通費等
食糧費	7,998,657	0	888,739	0	8,887,396	作業時食糧費等
消耗品費	2,348,558	0	293,569	293,569	2,935,696	
印刷製本費	12,747,621	1,000,000	4,500,000	4,500,000	22,747,621	会報その他
光熱水費	344,712	0	43,088	43,088	430,888	本部事務所電気、冷暖房
通信運搬費	4,015,300	0	501,912	501,912	5,019,124	電話、郵送料等
手数料	616,531	0	77,066	77,066	770,663	振込料
事務所賃料	5,313,597	0	664,199	664,199	6,641,995	本部事務所
使用料	10,803,270	0	1,350,408	1,350,408	13,504,086	会場使用料等／会議室
消耗什器備品費	0	0	0	330,062	330,062	
租税公課	0	0	0	24,900	24,900	市県民税
負担金	0	0	0	705,750	705,750	支部事業支払会費／諸会費
委託料	3,544,914	0	443,114	443,114	4,431,142	看板作成等／総会等看板
寄託費	0	3,920,000	0	0	3,920,000	愛の募金による寄託　ほか
補助助成	0	0	33,000	0	33,000	支部補助金
対外広報費	6,286,720	0	785,840	785,840	7,858,400	中日新聞ほか掲載料
会議費	2,771,224	0	346,402	346,402	3,464,028	
保険料	0	0	0	328,849	328,849	
新聞図書費	0	0	0	40,872	40,872	
表装保管料	1,168,903	0	1,168,903	0	2,337,806	
法定福利	694,236	0	86,779	86,779	867,794	職員社会保険、雇用保険
会員交流費	0	0	528,360	0	528,360	
本部講演会祝賀会費	0	0	15,357,040	0	15,357,040	
支部展覧会講演会費	0	0	2,469,198	0	2,469,198	
什器備品減価償却費	101,461	0	12,682	12,682	126,825	備品
雑支出	0	0	0	0	0	
経常費用計	91,101,690	4,920,000	33,616,429	15,045,684	144,683,803	
当期経常増減額	△ 12,163,525	△ 511,000	△ 2,169,768	△ 489,137	△ 15,333,430	
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 12,163,525	△ 511,000	△ 2,169,768	△ 489,137	△ 15,333,430	
一般正味財産期首残高					107,622,585	平成26年3月31日残高
一般正味財産期末残高					92,289,155	
Ⅱ 指定正味財産増減の部						
一般正味財産への振替額					0	
当期指定正味財産増減額					0	
指定正味財産期首残高					30,000,000	平成26年3月31日残高
指定正味財産期末残高					30,000,000	
Ⅲ 正味財産期末残高					122,289,155	

財務諸表に対する注記

法人名：公益社団法人 中部日本書道会
事業名：事業全体

1　重要な会計方針
（1）固定資産の減価償却の方法
固定資産の減価償却は、次の方式を採用している。
有形固定資産（建物を除く）　定額法

（2）引当金の計上基準
・職員退職給付引当金
職員に対する退職給付金の支給に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づいて計上している。

（3）リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっている。

（4）消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は、税込経理方式によっている。

2　基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本金	30,000,000	0	0	30,000,000
小　計	30,000,000	0	0	30,000,000
特定資産				
定期預金	82,000,000	0	8,500,000	73,500,000
本部積立金	1,908,000	994,000	1,600,000	1,302,000
支部積立金	1,410,058	100,034	1,000,000	510,092
小　計	85,318,058	1,094,034	11,100,000	75,312,092
合　計	115,318,058	1,094,034	11,100,000	105,312,092

3　基本財産及び特定資産の財源等の内訳
基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科　目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
基本財産				
基本金	30,000,000	(30,000,000)	(0)	(0)
小　計	30,000,000	(30,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
定期預金	73,500,000	(0)	(73,500,000)	(0)
本部積立金	1,302,000	(0)	(1,302,000)	(402,000)
支部積立金	510,092	(0)	(510,092)	(0)
小　計	75,312,092	(0)	(75,312,092)	(402,000)
合　計	105,312,092	(30,000,000)	(75,312,092)	(402,000)

4　減価償却資産の内訳

備　品	取得年月	耐用年数	取得価格	前期末価格	当期償却額	当期末価格
プロジェクター	H20.10	5	119,700	10,132	10,131	1
パソコン	H21.01	4	111,025	1	0	1
印章	H26.04	5	500,000	―	100,000	400,000
パソコン	H27.01	4	267,116	―	16,694	250,422
合　計			997,841	10,133	126,825	650,424

監査報告書

公益社団法人中部日本書道会
理事長　鬼　頭　正　昭　殿

私たち監事は、平成26年4月1日より平成27年3月31日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1　監査の方法及びその内容
各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。
さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る決算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2　監査意見
(1) 事業報告の監査結果
一　事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
二　理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果
計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

平成27年5月2日

監　事　伊　藤　義　文（暁　嶺）㊞
監　事　山　本　のり子（雅　月）㊞
監　事　柘　　英　樹（英　峰）㊞

公益社団法人中部日本書道会備品貸出規則

（趣旨）

第１条　この規則は、公益社団法人中部日本書道会（以下「中日書道会」という。）の備品（テレビ・DVD・テレビ台・大筆等）を貸し出すことに関し、必要な事項を定めるものとする。

（貸出しの対象）

第２条　中日書道会が貸出しを行う対象は、次に掲げるとおりとする。

（１）　中日書道会会員の所属する団体

（２）　中日書道会の会員

（３）　その他中日書道会が認めたもの

（貸出しの承認）

第３条　備品の貸出しを受けようとする者は、中日書道会備品借用願（別記様式）を提出し、中日書道会の承認を受けなければならない。

（貸し出しの制限）

第４条　中日書道会は、次の各号のいずれかに該当するときは、貸出しを認めない。

（１）　中日書道会行事又は事務に支障があるとき。

（２）　備品を損傷するおそれがあると認めたとき。

（３）　営利又は営業宣伝を目的とするとき。

（４）　特定の宗教団体及び政党が使用するとき。

（５）　その他中日書道会が不適当と認めたとき。

（使用料）

第５条　使用料は、別記定めたものとする。

（貸出期間及び返却）

第６条　貸出期間は、借用書記載の期間とし、貸出期間を延長する必要があるときは、借用書を更新して承認を受けなければならない。

（１）　貸出期間中の転貸は認めない。

（２）　貸出期間中であっても備品の返却を求められたときは、直ちに応じなければならない。

（３）　備品を返却するときは、当該関係職員の検査を受けなければならない。

（破損、紛失等の場合の借受者の責任）

第７条　貸出備品を亡失し、又は損傷したときは、同一の備品又はこれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

（１）　正当な使用方法によらずして、備品を破損した場合は、借受者の責任において、貸出当時の現況に復するものとする。ただし、時の経過に伴う減耗による破損については、この限りでない。

（２）　備品の紛失についても、前項に同じとする。

（３）　中日書道会が借受者に対し前２項に規定する借受者の責任の履行を求めるか否かは、備品管理者の合議により決する。

（貸出しの停止）

第８条　中日書道会は、次の各号のいずれかに該当するときは、貸出しを取り消し、又は２年以上貸出しを停止することができる。

（１）　備品を損傷したとき又はそのおそれがあるとき。

（２）　営利又は営業宣伝を目的として使用したとき。

（３）　特定の宗教団体及び政党が使用したとき。

（４）　備品を転貸したとき。

（５）　その他　中日書道会が貸出しを不適当であると認めたとき。

（改廃）

第９条　この規定の改廃は、理事会の決議を経て行う。

附　則

（施行期日）

１　この規則は、平成27年５月17日から施行する。

平成　年　月　日

公益社団法人中部日本書道会理事長　様

団体名
氏　名　　印
住　所
電話番号（　　）　－

備　品　借　用　願

下記のとおり物品を借用いたしたく，ご許可していただくようお願いいたします。
なお，取り扱いについては十分注意するとともに，貸し出し条件を遵守いたします。

記

１．使用内容

使用場所	
使用目的	
借用期間	平成　年　月　日（　）～ 平成　年　月　日（　）
借用予定日	平成　年　月　日（　）
返却予定日	平成　年　月　日（　）

２．借用物品の内訳

物品名	数量	備考

【貸出条件】
① 目的外使用はしない。　② 又貸し等はしない。　③ 返却期日を厳守する。
④ 借用物品の取り扱いは慎重に行うとともに，紛失等の事故が生じたときは弁償する。

※本部使用欄

※1 貸出日	※1 貸出者名	※2 返却日	※2 受領者印
平成　年　月　日		平成　年　月　日	

※1 貸出者は，貸出日・貸出者名を記入し，借用者に「写し」を渡す。
※2 受領者は返却日を記入し，受領印を押して，「写し」と引き換えに借用者に「原本」を渡す。

実技講習

公益社団法人 中部日本書道会

第27回 書道教育研修会のご案内

主催：公益社団法人 中部日本書道会／共催：中日新聞社／後援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会（申請中）

この研修会は、書道教育者の養成及び書道教育の普及を目的として開催します。

◆期　日　平成27年10月12日（祝・月）

◆会　場　名古屋国際センター5階　第1会議室　第3・4・5会議室

〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目47－1 電話〈052〉581－5679（代）

◆受　付　9：25～9：45（A・Bコース共）

◆内　容　9：45～ 開会式　9：55～10：25 書道講話　中部日本書道会副理事長 関根玉振先生

Aコース　第1会議室			Bコース　第3、4、5会議室		
10:30～12:20	漢字 ―古典に学ぶ 薄墨の小作品づくり―	中部日本書道会 加藤矢舟先生	10:30～12:20	かな ―かな・あれこれ―	中部日本書道会 村瀬俊彦先生
12:30～13:30	昼　食		12:30～13:30	昼　食	
13:30～15:20	近代詩文書 ―表現の可能性―	中部日本書道会 武内峰敏先生	13:30～15:20	篆刻 ―希望の一文字刻印―	中部日本書道会 日比野妃扇先生
15:45～16:00	閉会式　修了証書授与		15:45～16:00	閉会式　修了証書授与	

●Aコース・Bコースのどちらか選んで申し込んで下さい。●必ず午前、午後共受講して下さい。

●実技講習ですので用具一式を持参して下さい。
但、基本的文具、教材は会場でも販売する予定です。本年は青柳堂（TEL 052-259-0313）が出店します。

◆受講資格　本会会員及び一般　（本会会員で書道教育推薦看板申請希望者のうち準会員の方は受講が必修です。）

◆受講料　本会会員無料　一般 3,000円（教材費）

◆定　員　110名（Aコース・Bコースとも55人以内）

◆申込方法　本部までお申し込み下さい。

〒450-0002　名古屋市中村区名駅二丁目45番19号　桑山ビル8階C号室
公益社団法人　中部日本書道会　☎052－583－1900

◆申　込　平成27年9月9日（水）　本部にて申込書到着順に受付します。
定員になり次第締め切りますので早目にお申し込み下さい。

官製ハガキ又は別紙受講申込書を本会に送ってお申し込み下さい。FAX又は電話でのお申し込みはお受け出来ません。
（住所、氏名、電話番号、希望コース、本会会員資格又は一般の別を明記のこと）

平成二十七年度 公開講座のご案内

第十九回の公開講座を開催いたします。
会員及び一般市民を対象に、書の魅力について本会を代表する二名の講師が担当します。どうぞ聴講ください。

◆期　日　平成二十七年十一月二十二日（日）

◆会　場　電気文化会館イベントホール（5階）
名古屋市中区栄二―二―五
☎〇五二―二〇四―一一三三
※期日・会場は予定です。変更になる場合があります。

◆講　師
第一講座　名倉鳳山先生
演　題　「硯の文化」
第二講座　松下英風先生
演　題　「未定」

◆会　費　無料
（ただしテキスト・資料代として二千円をいただきます。）

◆対　象　会員及び一般市民（十五才以上）で原則として二講座とも聴講できる方。
定員百五十名

◆申込方法　はがきに聴講希望者の、住所・氏名・電話番号を明記の上、左記申込先までお送り下さい。定員になり次第締め切りとさせていただきます。
聴講決定者には後日詳細案内をお送りいたします。

受　付	12：30～
開　会	13：00～
第一講座	13：15～14：15
第二講座	14：35～15：35
閉　会	15：35～16：00 修了証授与

◆申込先
〒四五〇―〇〇〇二
名古屋市中村区名駅二丁目四十五番十九号
桑山ビル八階C号室
☎〇五二―五八三―一九〇〇
公益社団法人　中部日本書道会　公開講座係
担当　研究部長　廣澤凌舟

主催　公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社
後援　愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会（申請中）

第六十七回　毎日書道展（東海展）

会　期　八月二十五日(火)～三十日(日)
会　場　愛知県美術館ギャラリー

第三十二回　読売書法展（中部展）

会　期　九月十六日(水)～二十日(日)
会　場　愛知県美術館ギャラリー
　　愛知県産業労働センター（ウインクあいち）

社中展・個展のご案内

○**第三十五回記念　墨豊会書展**
併設　佐々木嵩邦豊田文化賞受賞記念展
会期　九月四日(金)～六日(日)
会場　豊田市民文化会館　A・B展示室

○**第五十一回　麗筆会展**
代表　武山翠屋
会期　九月二十五日(金)～二十七日(日)
会場　一宮スポーツ文化センター　二階

○**第十六回　発足二十一周年記念**
清晨会書展
併設　学生選抜展
代表　吉田清城
会期　十一月十日(火)～十五日(日)
会場　名古屋市民ギャラリー栄
　　七階　第四・五展示室

本会会員による書展のご案内を会報及びHPにてさせていただきます。
会報には案内原稿を、
HPには展覧会案内用ハガキを本部迄お送り下さい。
次号（10月号）は11月中旬から翌年２月中旬までの展覧会を掲載する予定です。
編集部

褒賞

豊田文化賞　佐々木嵩邦氏
豊田文化功労賞　杉坂育子氏
豊田文化振興財団功労賞　福岡林泉氏

長年の書への取り組みが評価され三名の方が豊田市表彰を受けられました。益々のご活躍を祈念いたします。

新入会員紹介（四・五・六月分）

●**一宮支部**
伊神　薪水
倉橋　澄雨
林　翠竹
沢田　光城
滝塚　一路
中嶋　玉陽
間瀬　美峰
山口　翠螢
山本　博信

●**半田支部**
小田　哲廣
河合　荘次
越賀　正典
小林　道子
田中　美景
長本　年永
本間賀世枝

●**東三河支部**
今井　和子

●**濃飛支部**
石田　美聖
中山　弘星

塾総合保険のご案内

本会では、書道塾を経営されている会員の先生方のバックアップと、塾生の安全と安心のために「塾総合保険」を行っております。

生徒一名に付年額一三〇円で大きな保障となっており、年度途中での加入もできます。保険期間は、その年の十月一日から翌年十月一日までとなっていますが、年度途中の場合は、加入した日から平成二十八年十月一日までとなります。

この保険は、本会と保険会社が直接契約しているものであるため、少人数でのご加入ができ、有利な条件となっています。事故はいつ起こるかわかりません。生徒さんの安心と安全のために是非ご加入ください。又既に加入されている皆さんは十月一日が期限ですから、忘れずに契約更新を行って下さい。資料請求、申し込みは本部まで。

補償内容

賠償事故	塾経営者	対人賠償てん補限度額	1名　2,000万円 1事故　1億円
		対物賠償てん補限度額	1事故　100万円
	生徒法定監督義務者	賠償責任てん補限度額	1事故 2,000万円
傷害事故	死亡・後遺障害保険金額		100万円
	入院保険金日額		1,000円
	通院保険金日額		500円
保険料（生徒1名につき年額）			130円

（注）賠償事故の場合、１事故につき1,000円を自己負担していただきます。生徒の賠償責任てん補限度額は、対人、対物賠償合わせて１事故のみの適用となります。

第二十四回　壽書展開催

会　期　平成二十七年十一月二十五日(水)～二十九日(日)
会　場　電気文化会館（五階　東・西ギャラリー）

詳細は後日案内いたします。
多数の方のご出品を期待しております。

訃報（四・五・六・七月分）

心より哀悼の意を表しご報告申し上げます。　（厚生部）

○4月
正会員
藤吉幸子氏
享年67才

○4月24日
評議員
飯沼乾山氏
享年87才

○4月29日
理事
川﨑尚麗氏
ご母堂
鬼頭房枝様
享年85才

○6月6日
参与
河村翠園氏
享年87才

○6月9日
参与
深津大超氏
享年87才

○6月10日
参与
村上尭紅氏
享年84才

○6月21日
参与
野田子香氏
享年82才

○6月23日
正会員
中村浩水氏
享年85才

○7月2日
正会員
美馬王山氏
享年95才

○7月5日
準会員
加藤壽美江氏
享年67才

○7月17日
理事
青木清濤氏
享年66才

○7月19日
正会員
山田紅照
ご母堂
鈴木幸子様
享年89才

○7月29日
評議員
本間翠眉
ご母堂
中村むね子様
享年101才

事後報告

○平成26年12月23日
正会員
吉原一紀氏
享年80才

○2月
正会員
今井青翠氏
享年79才

○3月30日
顧問
牧野鳳仙氏
享年94才

あとがき

・第一七七号中日会報をお届けいたします。
・従来の七月一日発行号を本年より八月一日発行号とさせていただきます。本年もお届けが遅れました事心よりお詫び申し上げます。
・会員の皆様方の伊藤新体制への更なるご協力をよろしくお願い致します。

編集部

ホームページアドレス　http://www.cn-sho.or.jp
メールアドレス　info@cn-sho.or.jp